



神奈川県

政策局政策部
情報公開広聴課

令和元年度

県民ニーズ調査

基本調査

県民の生活と県政についての意識調査

課題調査

- 1 「食・食育」「食の安全・安心」「アレルギー疾患」
「ともに生きる社会かながわ」
「東京2020大会等スポーツイベントに関する取組」
「水源環境保全・再生の取組」「神奈川県の農林水産業」
「持続可能な開発目標 (SDGs)」「子どもの貧困対策」
「治安対策」
- 2 「気候変動への適応」「環境に配慮した生活」「生物多様性」
「鳥獣被害」「かながわの広報」「スポーツ」
「地域コミュニティ」「地域社会との関わり」
「『未病改善』の取組」「かかりつけ薬剤師・薬局」
「肝炎・アルコール依存症対策」
「妊娠・出産等に関するライフプランニング」
「地震対策の取組」「自転車損害賠償責任保険等への加入」
についての意識調査

令和2年3月

はじめに

神奈川県では、県民の意識・価値観などの変化や多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を施策に反映することにより、県民参加の行政を一層推進するため、毎年度「県民ニーズ調査」を実施しています。

県民ニーズ調査は、県民の生活や県政についての意識を継続的に調査している「基本調査」と、時宜に応じたテーマについて調査する「課題調査」があります。本報告書は、令和元年9月から10月にかけて実施した「基本調査」、7月から8月にかけて実施した「第1回課題調査」、及び11月に実施した「第2回課題調査」の結果をまとめたものです。

この報告書が、行政担当者のみならず、広く県民生活の現状と将来に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

おわりに、このたびの調査にご協力いただきました県民の皆様をはじめ、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

神奈川県政策局長

目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
1 調査の目的	5
2 調査内容	5
3 調査設計	5
4 回収結果	5
5 標本の抽出方法について	6
6 集計・分析にあたって	7
7 調査結果の誤差	8
8 回答者の属性	9
第Ⅱ部 調査結果の概要	11
第Ⅲ部 調査結果の詳細	17
第1章 暮らし全般について	19
1 生活総合満足度	19
2 暮らし向きの変化	22
3 今後の暮らし向きの見通し	29
4 地域の住みよさ	32
5 定住意向	35
第2章 生活意識	38
第3章 暮らしの満足度	66
1 生活重要度	66
2 生活満足度	73
第4章 県行政への要望	84
第Ⅳ部 県政への自由意見	89
第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	115
生活重要度－過去との比較（図表A）	117
生活満足度－過去との比較（図表B）	128
県行政への要望－過去との比較（図表C）	139
第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	141

第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	155
1 調査の目的	157
2 調査内容	157
3 調査設計	157
4 回収結果	157
5 標本の抽出方法について	158
6 集計・分析にあたって	159
7 調査結果の誤差	160
8 回答者の属性	161
第Ⅱ部 調査結果の概要	163
第Ⅲ部 調査結果の詳細	175
第1章 食・食育	177
1 食育への関心	177
2 健康的な食事内容の心がけ	179
3 就寝前に食事をとらないことへの意識	181
4 朝食を同居の方と食べる頻度	183
5 夕食を同居の方と食べる頻度	185
6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	187
7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	189
8 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識	191
9 歯と口の健康を保つために気をつけていること	193
10 食事のマナーを正しくできていることへの意識	195
11 食べ物を無駄にしないことへの意識	197
第2章 食の安全・安心	199
1 食品を購入する際に確認している表示内容	199
2 食中毒を予防する上で重要なこと	201
3 食品を安全に食べるために必要な知識	203
第3章 アレルギー疾患	205
1 アレルギー疾患の増加傾向	205
2 アレルギー疾患の多様性の認知度	207
3 アレルギー疾患に関する情報の入手	209
4 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援	211
第4章 とともに生きる社会かながわ	213
1 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度	213
2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法	215

3	身近で障がい者と接する機会	217
4	障がい者に配慮した行動をとる人	219
5	障がい者への差別・偏見の有無	221
6	ヘルプマークの認知度	223
7	希望する手話の学習方法	225
第5章	東京2020大会等スポーツイベントに関する取組	227
1	ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることの認知度	227
2	横浜市で開催されるラグビーワールドカップの観戦意向	229
3	オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくために有効な方法	231
4	東京2020オリンピック競技大会の観戦意向	233
5	東京2020パラリンピック競技大会の観戦意向	235
6	セーリング競技への興味・関心	237
7	セーリング競技の観戦意向	239
8	道路混雑緩和の呼びかけの認知度	241
9	道路混雑緩和に向けた取組への協力意向	243
第6章	水源環境保全・再生の取組	245
1	水源地域の森の働きへの関心	245
2	環境保全・再生に関わる問題への関心	247
3	特に力を入れるべき取組	249
4	水源環境保全税の認知度	251
5	水源環境保全税を財源とした対策の認知度	253
6	水源環境保全税を財源とした対策の重要度	257
7	水源環境保全税を財源とした取組への意見	261
第7章	神奈川県 of 農林水産業	263
1	「地産地消」の取組の重要度	263
2	農林水産物を購入する際に重視する点	265
3	「かながわブランド」の認知度	267
4	神奈川県の農業に期待する役割	269
5	将来の神奈川県の農業に対する考え	271
6	県内にある農地の保全に対する考え	273
第8章	持続可能な開発目標（SDGs）	275
1	「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度	275
2	SDGsの普及啓発物やイベントの認知度	277
3	見聞きしたことがあるSDGsの普及啓発物やイベント	279
4	SDGs達成に向け行いたい取組	281
第9章	子どもの貧困対策	283
1	「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度	283
2	身近で支援を必要とする子どもの有無	285

3	世代を超えた貧困の連鎖	287
4	行政等による支援が必要な子ども	289
5	子どもの貧困対策に関連する施策の充実度	291
6	子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援	293
7	地域の支援活動に対する考え方	295
第10章	治安対策	297
1	不安に感じる犯罪	297
2	身近な治安に関して最も安心感を抱くとき	299
3	犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	301
4	犯罪がなく安心して暮らすために最も重要だと思うもの	303
5	交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの	305
第IV部	調査テーマへの自由意見	307
第V部	調査票と単純集計結果	315

第2回課題調査

第I部	調査の概要	333
1	調査の目的	335
2	調査内容	335
3	調査設計	335
4	回収結果	335
5	標本の抽出方法について	336
6	集計・分析にあたって	337
7	調査結果の誤差	338
8	回答者の属性	339
第II部	調査結果の概要	341
第III部	調査結果の詳細	353
第1章	気候変動への適応	355
1	「気候変動への適応」の認知度	355
2	「気候変動への適応」への関心	357
3	「気候変動への適応」の中で関心があるもの	359
4	「気候変動への適応」に関心を持つことが難しい理由	361
第2章	環境に配慮した生活	363
1	再生可能エネルギーを利用した電力の購入希望	363
2	環境にやさしい方法で作られた農作物の購入希望	365
3	環境問題の情報収集の有無	367
4	NPO等が行っている環境保全活動への参加希望	369

5	企業等が持つ技術力の環境問題解決への貢献	371
第3章	生物多様性	373
1	「生物多様性」の言葉の意味の認知度	373
2	神奈川県における生物多様性の保全の取組で重要なもの	375
3	生物多様性を知る、または行動する機会として参加したいと思う取組	377
第4章	鳥獣被害	379
1	被害を及ぼす野生鳥獣として知っているもの	379
2	鳥獣被害が生じる原因	381
3	鳥獣被害問題を解決するために参加したい取組	383
第5章	かながわの広報	385
1	県の広報の達成度	385
2	県の広報媒体の認知度	387
3	神奈川県の情報の手先	389
4	今後力を入れたほうがよいと思う広報の方法	391
第6章	スポーツ	393
1	1年間のスポーツ実施日数	393
2	「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度	395
3	「総合型地域スポーツクラブ」の認知度	397
4	「かながわのパラスポーツ」の認知度	399
5	横浜市ほかで開催されたラグビーワールドカップ2019の観戦状況	401
6	ラグビーへの興味	403
第7章	地域コミュニティ	405
1	将来の親族等との同居・近居意向	405
2	コミュニケーション相手の年代	407
3	コミュニケーションに期待しているもの	409
4	「地域コミュニティ」としてイメージする範囲	411
第8章	地域社会との関わり	413
1	地域社会との関わり方に関する意識	413
2	退職後や65歳以降の人生でやりたいこと	415
3	地域活動への参加頻度	417
4	地域活動の参加の妨げとなる理由	419
5	地域活動に参加するための支援やきっかけ	421
6	地域での課題	423
第9章	「未病改善」の取組	425
1	「未病（ME－BYO）」の認知度	425
2	「未病（ME－BYO）」の意味の認知度	427
3	「未病改善」の取組の実践	429
4	「未病改善」の取組に必要なだと思うもの	431

第10章	かかりつけ薬剤師・薬局	433
1	薬局を選ぶ基準	433
2	薬局の薬剤師への相談意向	435
3	かかりつけの薬剤師・薬局に対するニーズ	437
第11章	肝炎・アルコール依存症対策	439
1	ウイルス性肝炎の認知度	439
2	「肝炎ウイルス検査」の受診状況	441
3	「肝炎ウイルス検査」を受診しない理由	443
4	アルコール依存症に関する相談場所として知っているもの	445
第12章	妊娠・出産等に関するライフプランニング	447
1	妊娠・出産等について知っていること	447
2	妊娠・出産や不妊に関する情報の入手先	449
3	妊娠・出産と年齢との関係について知っておきたい年代	451
4	妊娠・出産等に関するライフプランの有無	453
第13章	地震対策の取組	455
1	大きな地震に備えた対策	455
2	家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策の程度	457
3	家具・家電などの転倒・落下・移動防止対策ができていない理由	459
4	海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動	461
5	津波に対する知識	463
6	津波に対して実施が望まれる制度	470
第14章	自転車損害賠償責任保険等への加入	472
1	自転車の利用状況	472
2	自転車損害賠償責任保険等への加入状況	474
3	自転車損害賠償責任保険等に加入することについての考え	476
第IV部	調査テーマへの自由意見	479
第V部	調査票と単純集計結果	489

県民ニーズ調査の概要

1 調査の目的

県民の意識・価値観などの変化や多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を県の施策に反映するために意識調査を行う。併せて、調査を通じ、県民の県政に対する理解と関心を深める。

2 調査内容

県民の生活や意識の変化等を把握するための「基本調査」を継続して実施した。また、県政の直面する重要課題や県民生活に関する中・長期的な課題をテーマに「課題調査」を実施した。

(1) 基本調査

- ア 暮らし全般
- イ 生活意識
- ウ 暮らしの満足度
- エ 県行政への要望

(2) 第1回課題調査

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| ア 食・食育 | カ 水源環境保全・再生の取組 |
| イ 食の安全・安心 | キ 神奈川県 of 農林水産業 |
| ウ アレルギー疾患 | ク 持続可能な開発目標（SDGs） |
| エ ともに生きる社会かながわ | ケ 子どもの貧困対策 |
| オ 東京2020大会等スポーツイベントに関する取組 | コ 治安対策 |

(3) 第2回課題調査

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ア 気候変動への適応 | ク 地域社会との関わり |
| イ 環境に配慮した生活 | ケ 「未病改善」の取組 |
| ウ 生物多様性 | コ かかりつけ薬剤師・薬局 |
| エ 鳥獣被害 | サ 肝炎・アルコール依存症対策 |
| オ かながわの広報 | シ 妊娠・出産等に関するライフプランニング |
| カ スポーツ | ス 地震対策の取組 |
| キ 地域コミュニティ | セ 自転車損害賠償責任保険等への加入 |

3 調査設計

- | | |
|------------|--|
| (1) 調査地域 | 神奈川県全域 |
| (2) 調査対象 | 県内在住の満 18 歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 「基本調査」3,000 標本、「課題調査」各 3,000 標本 |
| (4) 標本抽出方法 | 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 |
| (5) 調査回数 | 3 回（基本調査 1 回、課題調査 2 回） |
| (6) 調査時期 | 基本調査 9～10 月
第 1 回課題調査 7～8 月
第 2 回課題調査 11 月 |

4 調査方法

- (1) 郵送による調査票の配布
- (2) 郵送回答とインターネット回答の併用

基本調査

第 I 部 調査の概要

1 調査の目的

生活の各分野における県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 暮らし全般（生活総合満足度、暮らし向きの変化、今後の暮らし向きの見通し、地域の住みよさ、定住意向）
- (2) 生活意識
- (3) 暮らしの満足度（身近な生活に関する 44 項目についての重要度及び満足度）
- (4) 県行政への要望

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000 標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和元年 9 月 13 日（金）～10 月 7 日（月）
- (7) 調査委託機関 株式会社 アストジェイ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000 標本
有効回収数	1,385 標本 〔 郵送回答 : 1,166 件 〕 〔 インターネット回答 : 219 件 〕
有効回収率	46.2%

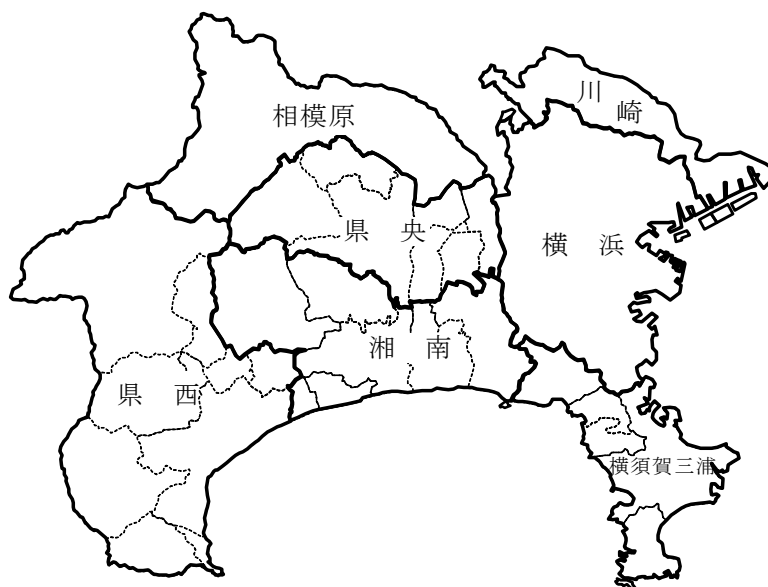
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	512	42.7%
川崎	川崎市	460	171	37.2%
相模原	相模原市	220	102	46.4%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	122	46.9%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	115	38.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	183	41.6%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	59	49.2%
無 回 答			121	
全 体		3,000	1,385	46.2%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（平成30年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,151,992人 60地点 1,200標本	-	-	3,151,992人 60地点 1,200標本
川 崎	1,244,734人 23地点 460標本	-	-	1,244,734人 23地点 460標本
相模原	610,951人 11地点 220標本	-	-	610,951人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	577,545人 12地点 240標本	26,234人 1地点 20標本	603,779人 13地点 260標本
県 央	-	677,542人 14地点 280標本	36,298人 1地点 20標本	713,840人 15地点 300標本
湘 南	-	1,006,774人 20地点 400標本	90,954人 2地点 40標本	1,097,728人 22地点 440標本
県 西	-	199,901人 4地点 80標本	93,570人 2地点 40標本	293,471人 6地点 120標本
人口計	5,007,677人	2,461,762人	247,056人	7,716,495人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（平成30年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差をとり、「・・・ポイント増（減）」等と記載した。
- (7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,385	± 2.28	± 3.04	± 3.48	± 3.72	± 3.80
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,385 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.72%以内 (真の値は、56.28%~63.72%) である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1,385) (%)

横浜	37.0
川崎	12.3
相模原	7.4
横須賀三浦	8.8
県央	8.3
湘南	13.2
県西	4.3

(無回答 8.7)

(2) 性別 (n=1,385) (%)

男性	39.7
女性	51.3

(無回答 9.0)

(3) 年齢 (n=1,385) (%)

18～19歳	-
20～29歳	4.8
30～39歳	14.9
40～49歳	20.9
50～59歳	20.1
60～69歳	15.7
70～74歳	7.7
75歳以上	7.1

(無回答 8.7)

(4) 65歳以上の同居者の有無

(n=1,385) (%)

いる	39.5
いない	50.6

(無回答 9.9)

(5) 子どもの状況(複数回答) (n=1,385) (%)

小学校入学前	11.2
小学校在学中	13.9
中学校在学中	7.9
高校在学中	8.5
短大、専門学校等在学中	1.2
大学、大学院等在学中	8.0
学校教育終了[未婚]	19.8
学校教育終了[既婚]	20.9
その他	2.2
子どもはいない	23.2

(無回答 11.0)

(6) インターネットの利用状況

(n=1,385) (%)

よく利用する	56.2
ときどき利用する	17.0
あまり利用しない	5.5
利用しない	12.6

(無回答 8.8)

(7) 職業区分

(n=1,385) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	4.6
	家族従業者	1.2
勤め・内職	勤め(フルタイム)	35.1
	勤め(パートタイム)	17.8
	内職	0.3
主婦・主夫(勤めについていない)		16.1
学生		0.8
無職		12.5
その他		1.3

(無回答 10.4)

(7-1) 有職者の職業内容

(n=816) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.4
	商工サービス業	4.3
	自由業	4.7
勤め・内職	経営・管理職	7.5
	専門・技術職	20.0
	事務職	23.7
	教育職	5.8
	技能・労務職	11.0
	販売・サービス職	21.0

(無回答 1.8)

第Ⅱ部 調査結果の概要

第1章 暮らし全般について

1 生活総合満足度 (P19)

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(5.9%)と「どちらかといえば満足している」(49.7%)を合わせた《満足している》は55.7%であった。一方、「たいへん不満である」(3.8%)と「どちらかといえば不満である」(13.7%)を合わせた《不満である》は17.5%で、《満足している》が《不満である》を38.2ポイント上回った。また、「どちらともいえない」は、22.1%であった。

過去の調査と比較すると、《満足している》では、平成30年度は平成29年度と比べて3.6ポイント増(55.9%→59.5%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(59.5%→55.7%)となった。一方、《不満である》では、平成30年度は平成29年度と比べて3.0ポイント減(19.1%→16.1%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて1.4ポイント増(16.1%→17.5%)となった。

2 暮らし向きの変化 (P22)

昨年と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(3.2%)と「少しよくなった」(8.2%)を合わせた《よくなった》は11.4%であった。一方、「悪くなった」(5.3%)と「少し悪くなった」(22.5%)を合わせた《悪くなった》は27.9%で、《悪くなった》が《よくなった》を16.5ポイント上回った。また、「変わらない」は、56.2%であった。

暮らし向きの変化を過去の調査と比較すると、《よくなった》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.4ポイント増(11.3%→14.7%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.3ポイント減(14.7%→11.4%)となった。一方、《悪くなった》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.1ポイント減(30.0%→26.9%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて1.0ポイント増(26.9%→27.9%)となった。

暮らし向きが《悪くなった》と回答した386人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「日常生活費が増えたため」が45.3%で最も多く、次いで「賃金などの収入が減ったため」が45.1%であった。

暮らし向きが《悪くなった》理由を過去の調査と比較すると、「教育費が増えたため」は、平成30年度と比べて10.0ポイント増(15.4%→25.4%)となり、最も増加した項目であった。

一方、「倒産・解雇などのため」は、平成30年度と比べて1.8ポイント減(3.9%→2.1%)となり、最も減少した項目であった。

3 今後の暮らし向きの見通し (P29)

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(4.3%)と「やや明るい」(10.0%)を合わせた《明るい》は14.3%であった。一方、「暗い」(8.5%)と「やや暗い」(29.0%)を合わせた《暗い》は37.5%となり、《暗い》が《明るい》を23.2ポイント上回った。また、「変わらない」は、34.8%であった。

過去の調査と比較すると、《明るい》は、平成30年度は平成29年度と比べて1.8ポイント増(14.6%→16.4%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて2.1ポイント減(16.4%→

14.3%)となった。一方、《暗い》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.2ポイント減(37.3%→34.1%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.4ポイント増(34.1%→37.5%)となった。

4 地域の住みよさ (P32)

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(13.1%)と「どちらかといえば住みよい」(56.7%)を合わせた《住みよい》は69.7%であった。一方、「たいへん住みにくい」(1.0%)と「どちらかといえば住みにくい」(8.5%)を合わせた《住みにくい》は9.5%で、《住みよい》が《住みにくい》を60.2ポイント上回った。

過去の調査と比較すると、《住みよい》は、平成30年度は平成29年度と比べて6.3ポイント増(67.2%→73.5%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(73.5%→69.7%)となった。一方、《住みにくい》は、平成30年度は平成29年度と比べて2.5ポイント減(11.5%→9.0%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて0.5ポイント増(9.0%→9.5%)となった。

5 定住意向 (P35)

今後も現在のところに住み続けたいか尋ねたところ、「現在のところに住み続けたい」が63.0%で最も多かった。また、「神奈川県外へ移りたい」は、5.3%であった。

過去の調査と比較すると、「現在のところに住み続けたい」は、平成30年度は平成29年度と比べて5.0ポイント増(60.3%→65.3%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて2.3ポイント減(65.3%→63.0%)となった。

第2章 生活意識 (P38)

県民の様々な生活意識を把握するために、34項目を提示して「そう思う」と「そう思わない」で尋ねた。

「そう思う」では、「環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」が92.5%で最も多く、次いで「介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が91.2%であった。

以下、「育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」(88.8%)、「神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ」(82.2%)、「県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい」(80.6%)が続いた。

「そう思わない」では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が82.7%で最も多かった。

「そう思う」の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」が第1位、「介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第2位、「育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第3位となった。

「そう思わない」の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回調査と同様に、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が第1位、「今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊

重され、差別がない地域社会になっている」が第2位、「今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている」が第3位となった。

第3章 暮らしの満足度 (P66)

1 生活重要度 (P66)

身近な生活に関する44項目について、どの程度重要だと感じているかを尋ねた。

「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせた《重要である》と「さほど重要でない」と「まったく重要ではない」を合わせた《重要でない》を比較すると、すべての項目で《重要である》が《重要でない》を上回った。

《重要である》をみると、「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」(94.7%)、「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」(92.1%)、「大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと」(92.0%)、「水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること」(91.8%)、「地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」(90.3%)、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」(90.0%)がそれぞれ9割以上であった。

《重要である》の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回第2位であった「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」が第1位となり、前回第1位であった「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」が第2位となった。

2 生活満足度 (P73)

「生活重要度」で尋ねた項目と同じ44項目について、どの程度満たされていると感じているかを尋ねた。

「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた《満たされている》は、「下水道が整備されていること」が68.2%で最も多く、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」(49.7%)と「身近に親しめる緑や水辺があること」(46.9%)が続いた。

「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた《満たされていない》は、「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が41.6%で最も多く、「地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」(37.8%)と「高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること」(35.2%)が続いた。

《満たされている》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「下水道が整備されていること」が第1位、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」が第2位、「身近に親しめる緑や水辺があること」が第3位となった。

《満たされていない》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が第1位となった。「地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」は、前回調査の第9位から第2位となった。「高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること」は、前回調査の第5位から第3位となった。

第4章 県行政への要望 (P84)

神奈川県を行政を進めていく上で、力を入れて取り組んでほしい分野について30項目を挙げて複数回答（5つまで選択可）で尋ねたところ、上位5項目は、第1位「防災対策」（49.4%）、第2位「治安対策」（44.8%）、第3位「医療体制の整備」（33.0%）、第4位「子育て支援」（32.5%）、第5位「高齢者の福祉対策」（32.1%）となった。

過去の調査と比較すると、前回調査と同様に「防災対策」が第1位、「治安対策」が第2位となった。平成27年度～平成30年度の調査で第3位であった「高齢者の福祉対策」は第5位となった。上位5項目は、平成27年度以降同じ項目となっている。

第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差を取り、「…ポイント増（減）」等という表現を使っている。
- (注7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (注8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 暮らし全般について【問1～問5】

1 生活総合満足度【問1】

【全体の状況】

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(5.9%)と「どちらかといえば満足している」(49.7%)を合わせた《満足している》は55.7%であった。

一方、「たいへん不満である」(3.8%)と「どちらかといえば不満である」(13.7%)を合わせた《不満である》は17.5%で、《満足している》が《不満である》を38.2ポイント上回った。

また、「どちらともいえない」は、22.1%であった。(図表1-1-1)

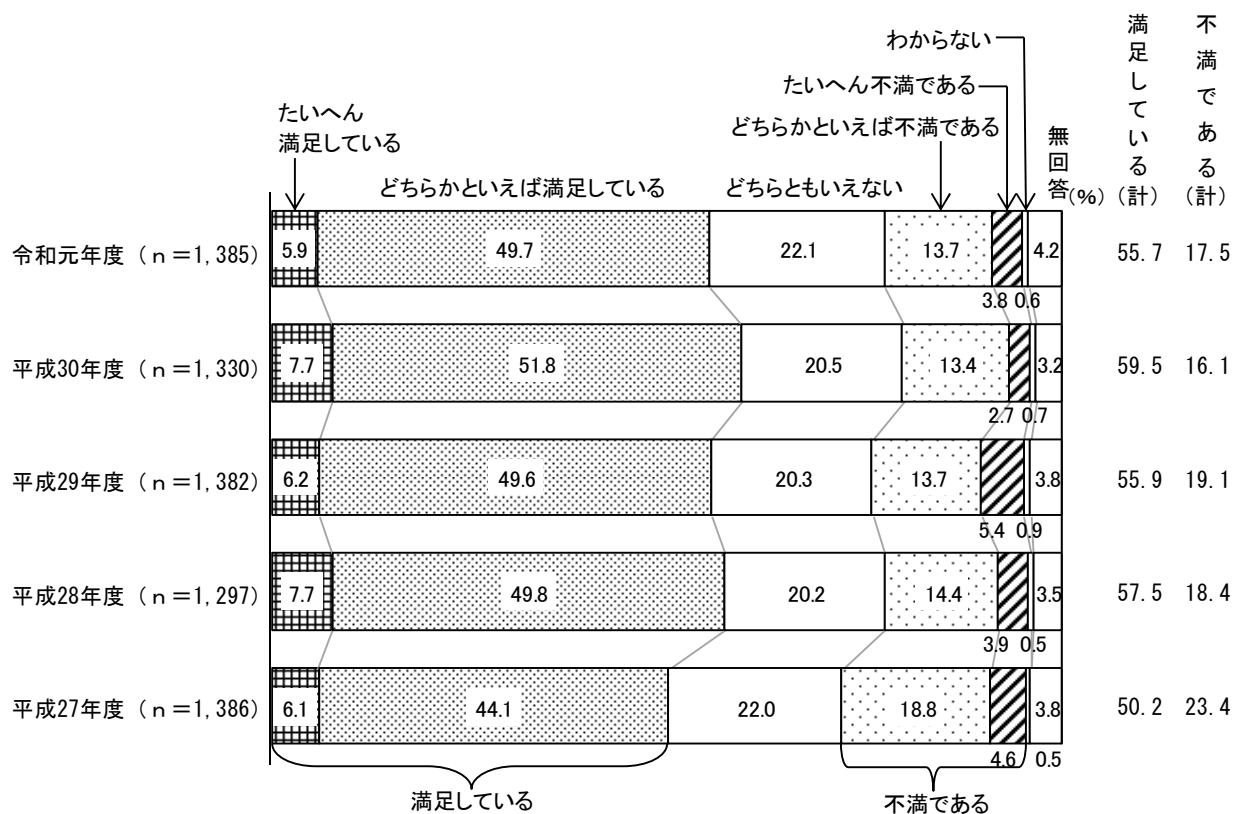
【過去との比較】

過去の調査と比較すると、《満足している》では、平成30年度は平成29年度と比べて3.6ポイント増(55.9%→59.5%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(59.5%→55.7%)となった。

一方、《不満である》では、平成30年度は平成29年度と比べて3.0ポイント減(19.1%→16.1%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて1.4ポイント増(16.1%→17.5%)となった。

(図表1-1-1)

図表1-1-1 生活総合満足度—過去との比較

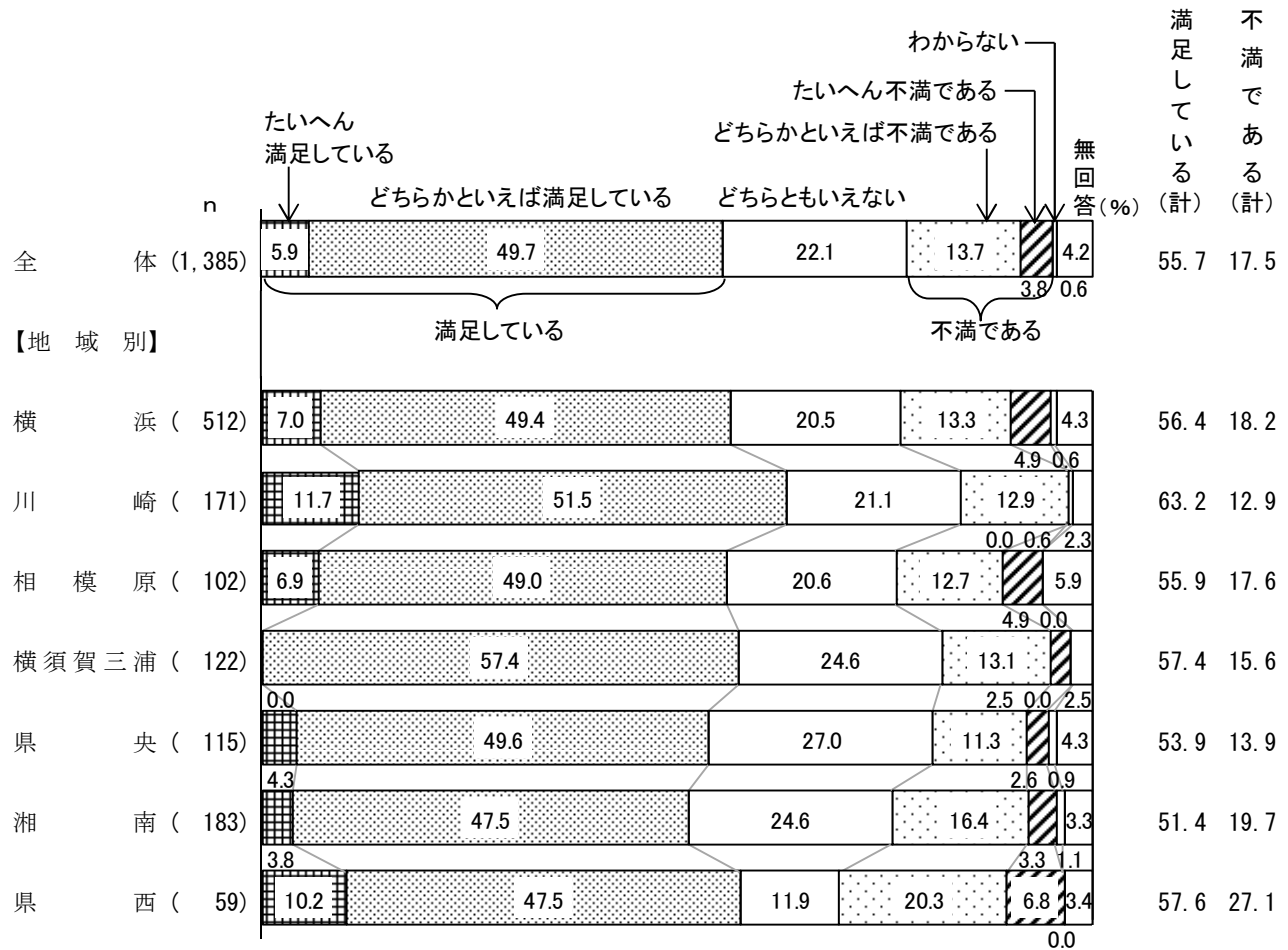


【地域別の状況】

地域別にみると、「満足している」は、川崎が63.2%で最も多く、県西(57.6%)と横須賀三浦(57.4%)が続いた。

一方、「不満である」は、県西が27.1%で最も多かった。(図表1-1-2)

図表1-1-2 生活総合満足度—地域別

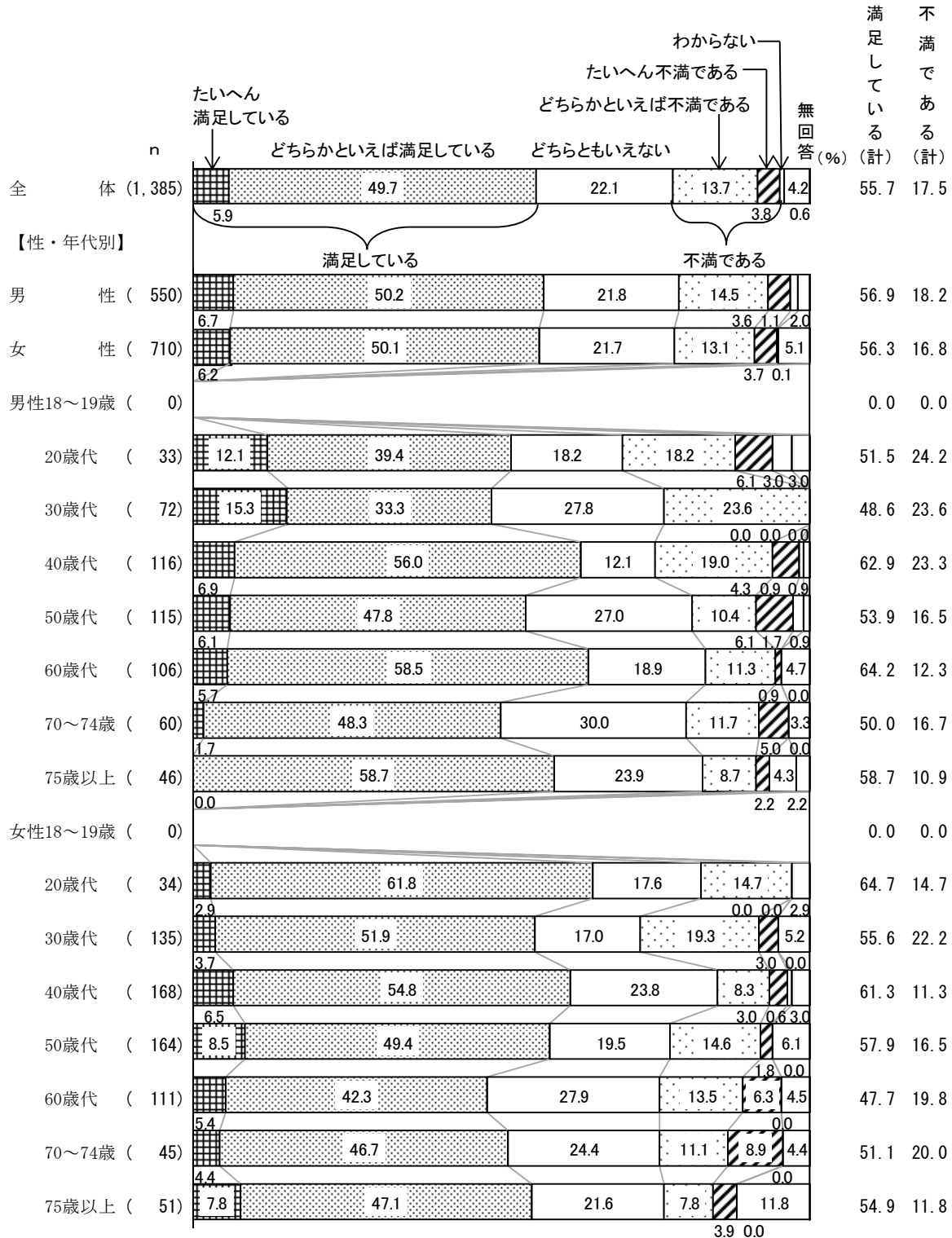


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《満足している》は、女性の20歳代が64.7%で最も多く、次いで男性の60歳代が64.2%であった。

一方、《不満である》は、男性の20歳代が24.2%で最も多かった。(図表1-1-3)

図表1-1-3 生活総合満足度—性・年代別



2 暮らし向きの変化【問2～問2-1】

【全体の状況】

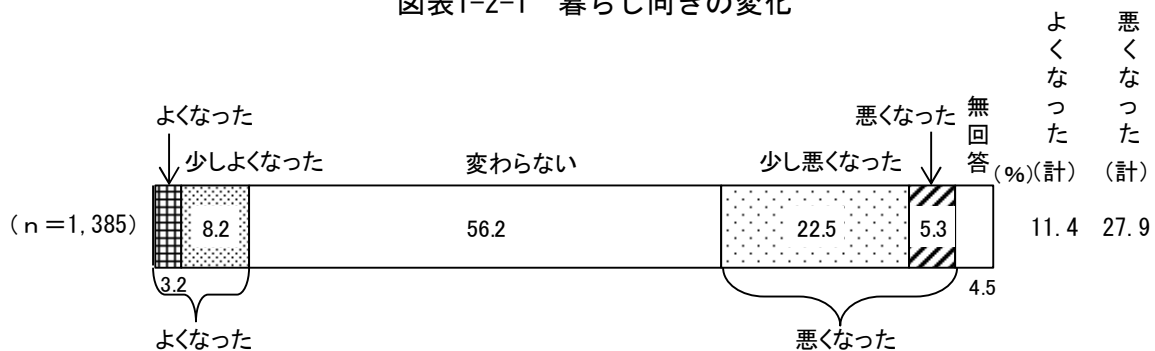
昨年と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(3.2%)と「少しよくなった」(8.2%)を合わせた《よくなった》は11.4%であった。

一方、「悪くなった」(5.3%)と「少し悪くなった」(22.5%)を合わせた《悪くなった》は27.9%で、《悪くなった》が《よくなった》を16.5ポイント上回った。

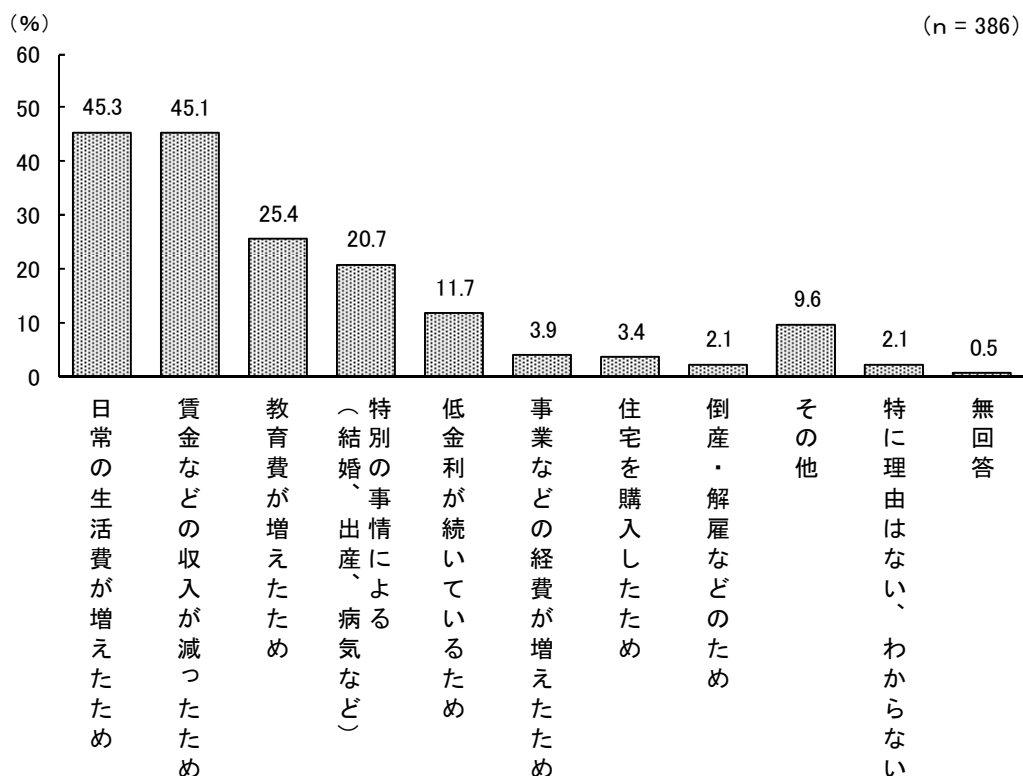
また、「変わらない」は、56.2%であった。(図表1-2-1)

暮らし向きが《悪くなった》と回答した386人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「日常生活費が増えたため」が45.3%で最も多く、次いで「賃金などの収入が減ったため」が45.1%であった。(図表1-2-2)

図表1-2-1 暮らし向きの変化



図表1-2-2 暮らし向きが悪くなった理由(複数回答)

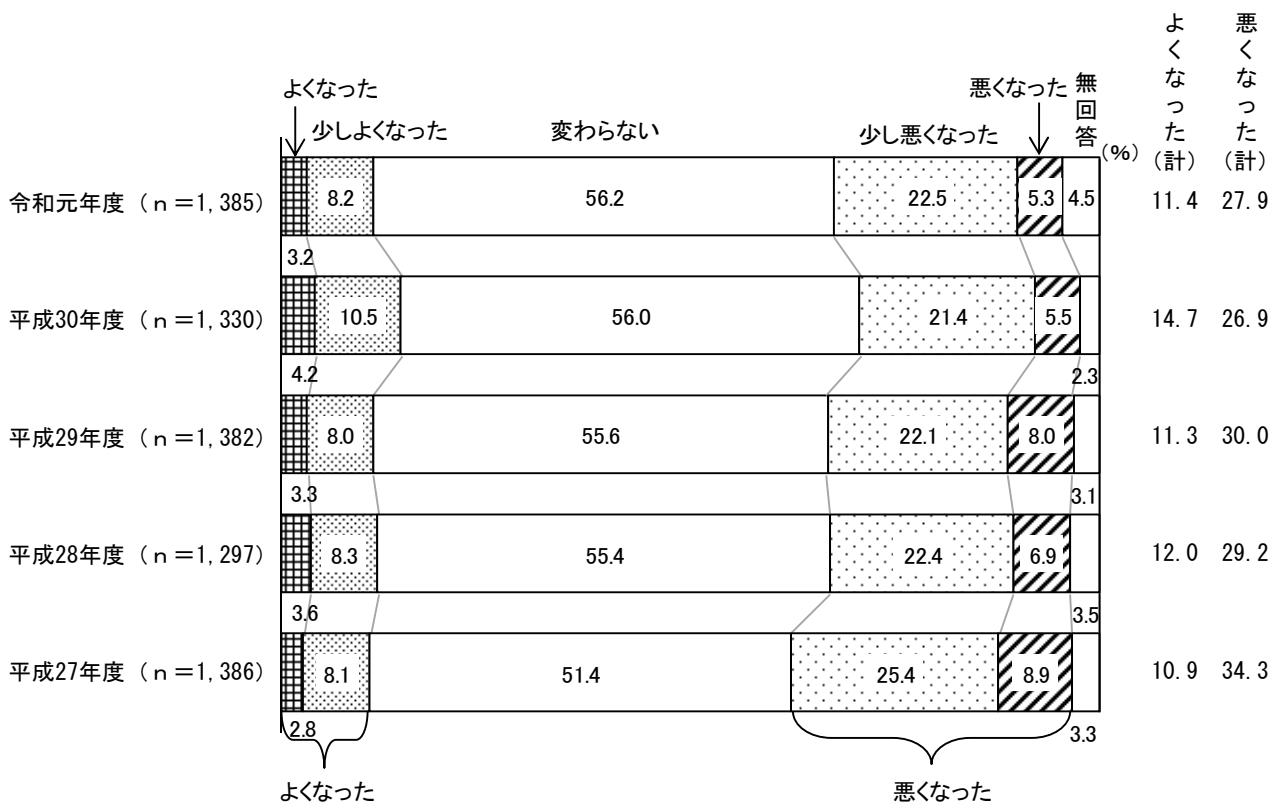


【過去との比較】

暮らし向きの変化を過去の調査と比較すると、《よくなった》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.4ポイント増（11.3%→14.7%）であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.3ポイント減（14.7%→11.4%）となった。

一方、《悪くなった》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.1ポイント減（30.0%→26.9%）であったが、令和元年度は平成30年度と比べて1.0ポイント増（26.9%→27.9%）となった。（図表1-2-3）

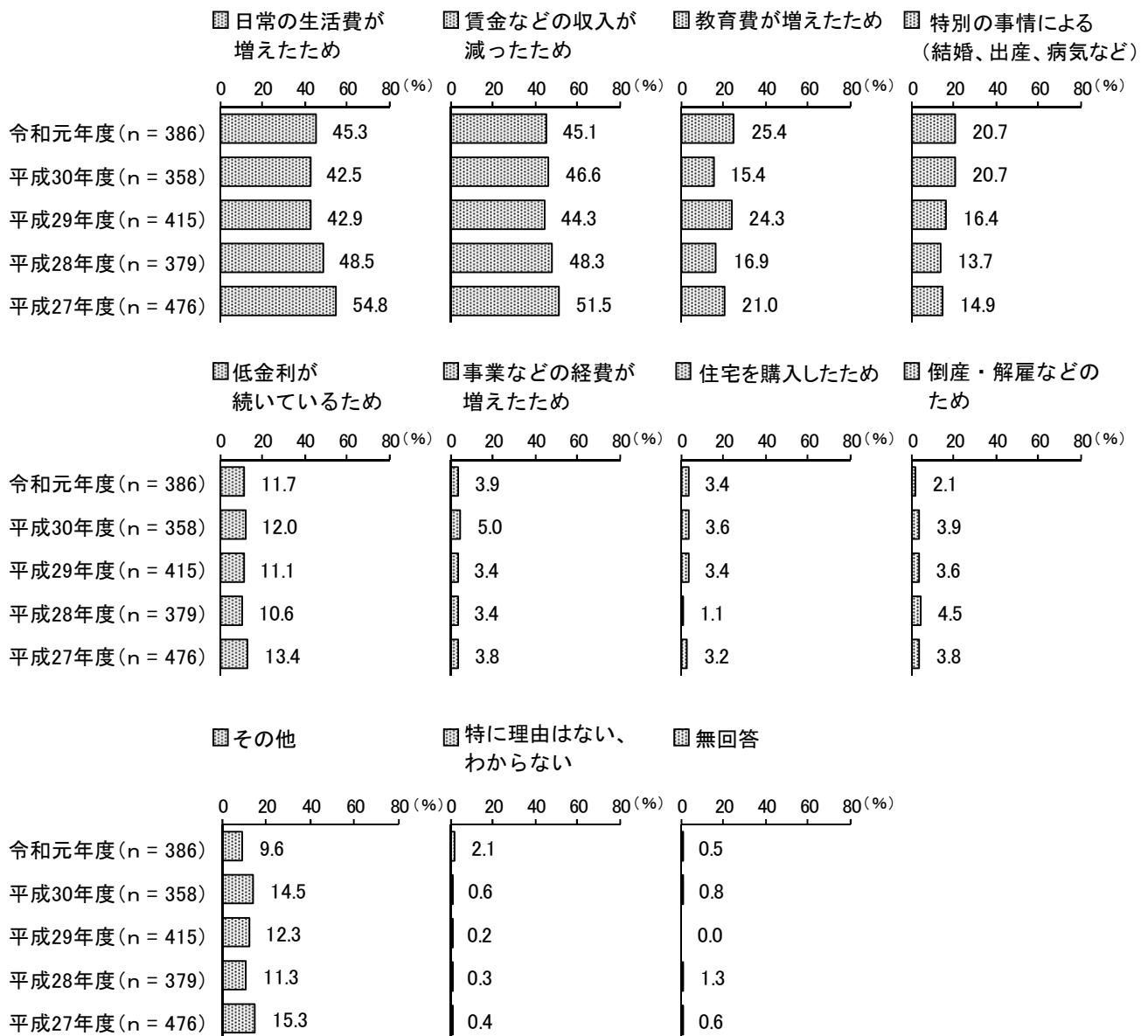
図表1-2-3 暮らし向きの変化—過去との比較



暮らし向きが《悪くなった》理由を過去の調査と比較すると、「教育費が増えたため」は、平成30年度と比べて10.0ポイント増(15.4%→25.4%)となり、最も増加した項目であった。

一方、「倒産・解雇などのため」は、平成30年度と比べて1.8ポイント減(3.9%→2.1%)となり、最も減少した項目であった。(図表1-2-4)

図表1-2-4 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－過去との比較



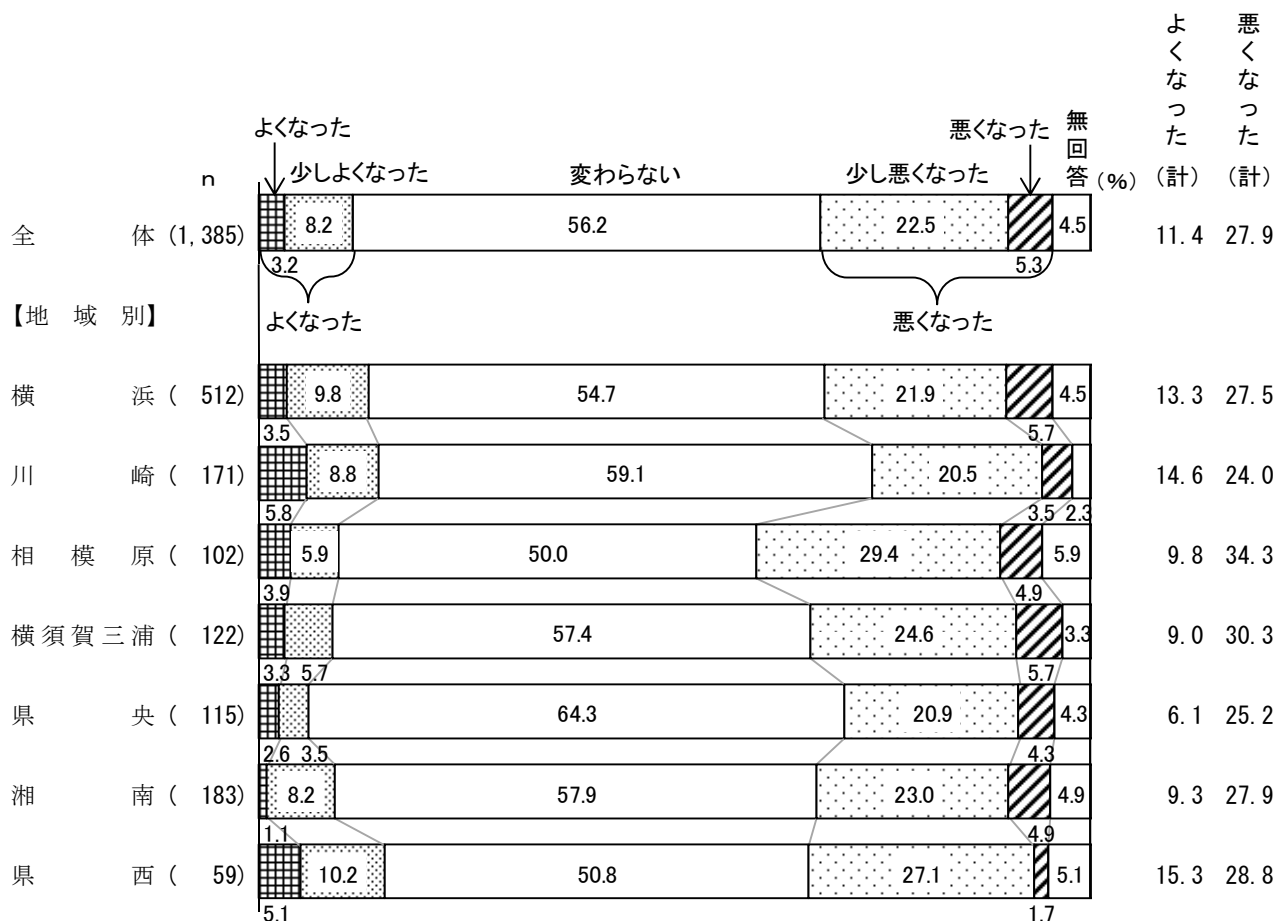
【地域別の状況】

暮らし向きの変化を地域別にみると、《よくなった》は、県西が15.3%で最も多く、川崎（14.6%）と横浜（13.3%）が1割台で続いた。

一方、《悪くなった》は、相模原（34.3%）と横須賀三浦（30.3%）がともに3割を超えた。

（図表1-2-5）

図表1-2-5 暮らし向きの変化—地域別



暮らし向きが《悪くなった》理由を地域別にみると、「日常の生活費が増えたため」は、川崎が58.5%で最も多かった。また、「賃金などの収入が減ったため」は、横須賀三浦が56.8%で最も多かった。

(図表1-2-6)

図表1-2-6 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－地域別

		(%)										
	n	日常の生活費が増えたため	賃金などの収入が減ったため	教育費が増えたため	産、特別の事情による（結婚、出産、病気など）	低金利が続いているため	事業などの経費が増えたため	住宅を購入したため	倒産・解雇などのため	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全 体	386	45.3	45.1	25.4	20.7	11.7	3.9	3.4	2.1	9.6	2.1	0.5
【地 域 別】												
横 浜	141	41.8	46.1	28.4	20.6	9.9	5.0	2.8	2.8	6.4	1.4	1.4
川 崎	41	58.5	41.5	41.5	14.6	14.6	-	7.3	-	12.2	-	-
相 模 原	35	48.6	45.7	20.0	20.0	11.4	-	2.9	-	5.7	8.6	-
横 須 賀 三 浦	37	45.9	56.8	24.3	35.1	16.2	8.1	2.7	2.7	10.8	2.7	-
県 央	29	41.4	27.6	34.5	17.2	-	-	6.9	-	13.8	-	-
湘 南	51	41.2	45.1	11.8	17.6	15.7	5.9	3.9	2.0	15.7	3.9	-
県 西	17	52.9	47.1	23.5	11.8	5.9	-	-	-	11.8	-	-

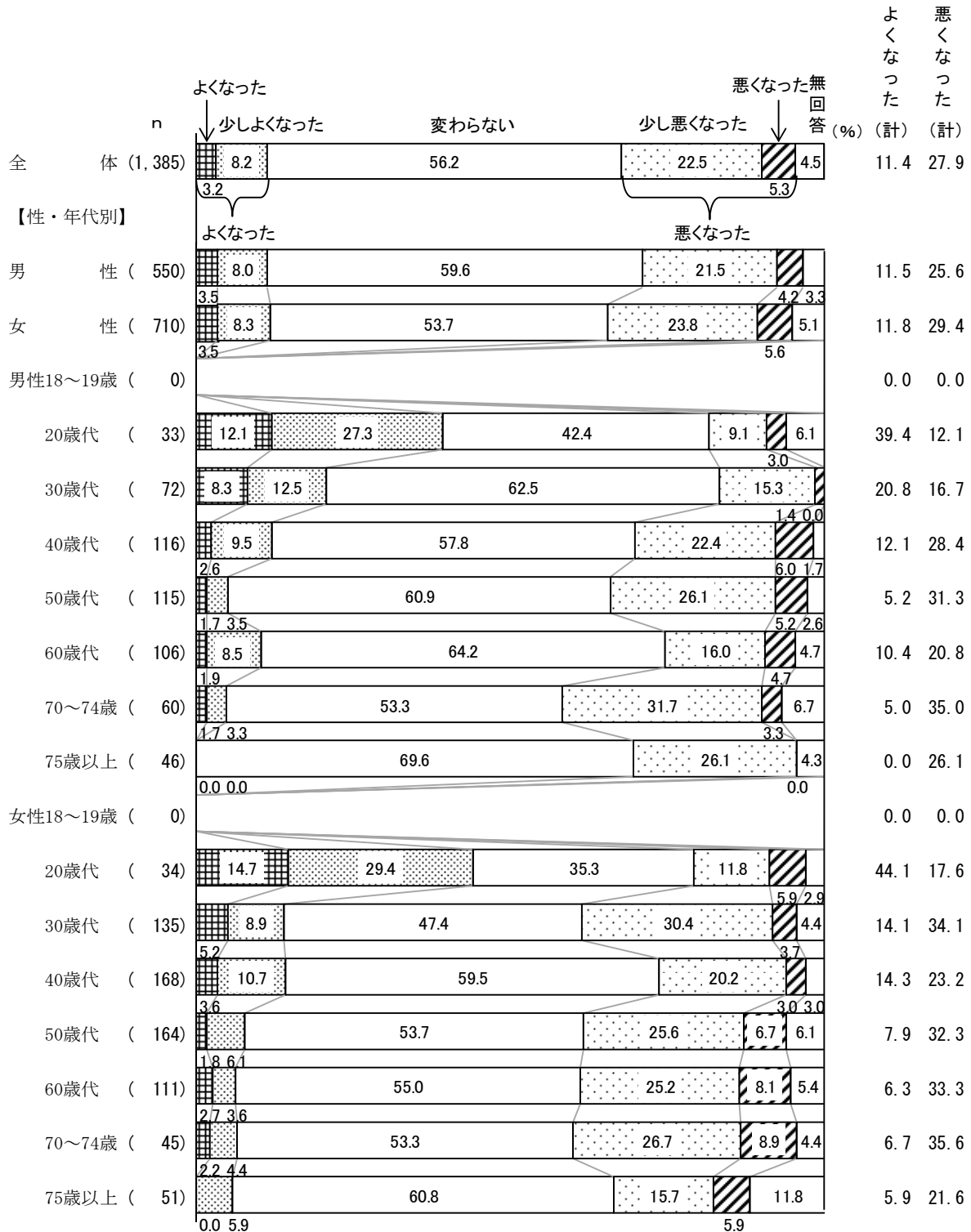
【性・年代別の状況】

暮らし向きの変化を性・年代別にみると、《よくなった》は、女性の20歳代が44.1%で最も多く、次いで男性の20歳代が39.4%であった。

一方、《悪くなった》は、男女ともに70～74歳（男性35.0%、女性35.6%）が最も多かった。

(図表1-2-7)

図表1-2-7 暮らし向きの変化－性・年代別



暮らし向きが《悪くなった》理由を性別にみると、「日常の生活費が増えたため」は、女性（50.2%）が男性（37.6%）を12.6ポイント上回った。（図表1-2-8）

図表1-2-8 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－性・年代別

		(%)										
	n	日常の生活費が増えたため	賃金などの収入が減ったため	教育費が増えたため	産、特別の事情による（結婚、出産、病気など）	低金利が続いているため	事業などの経費が増えたため	住宅を購入したため	倒産・解雇などのため	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全体	386	45.3	45.1	25.4	20.7	11.7	3.9	3.4	2.1	9.6	2.1	0.5
【性・年代別】												
男性	141	37.6	47.5	26.2	14.9	12.8	5.0	3.5	1.4	10.6	5.0	-
女性	209	50.2	44.0	26.3	23.9	10.0	2.9	3.8	1.9	9.1	0.5	1.0
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	4	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-
30歳代	12	66.7	25.0	58.3	16.7	-	-	8.3	-	16.7	-	-
40歳代	33	33.3	33.3	54.5	6.1	9.1	-	6.1	3.0	12.1	9.1	-
50歳代	36	33.3	55.6	25.0	16.7	5.6	2.8	-	-	13.9	-	-
60歳代	22	22.7	81.8	-	9.1	27.3	27.3	4.5	-	9.1	-	-
70～74歳	21	38.1	61.9	4.8	19.0	14.3	-	-	4.8	4.8	4.8	-
75歳以上	12	58.3	-	-	16.7	25.0	-	-	-	8.3	25.0	-
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	6	100.0	16.7	50.0	66.7	16.7	-	-	-	-	-	-
30歳代	46	60.9	28.3	37.0	26.1	6.5	4.3	8.7	-	17.4	-	-
40歳代	39	53.8	38.5	51.3	15.4	7.7	-	2.6	5.1	5.1	-	-
50歳代	53	35.8	62.3	26.4	18.9	11.3	3.8	3.8	3.8	9.4	1.9	-
60歳代	37	54.1	54.1	2.7	29.7	10.8	-	2.7	-	2.7	-	-
70～74歳	16	50.0	50.0	-	25.0	18.8	12.5	-	-	6.3	-	-
75歳以上	11	27.3	18.2	-	27.3	9.1	-	-	-	18.2	-	9.1

3 今後の暮らし向きの見通し【問3】

【全体の状況】

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(4.3%)と「やや明るい」(10.0%)を合わせた《明るい》は14.3%であった。

一方、「暗い」(8.5%)と「やや暗い」(29.0%)を合わせた《暗い》は37.5%となり、《暗い》が《明るい》を23.2ポイント上回った。

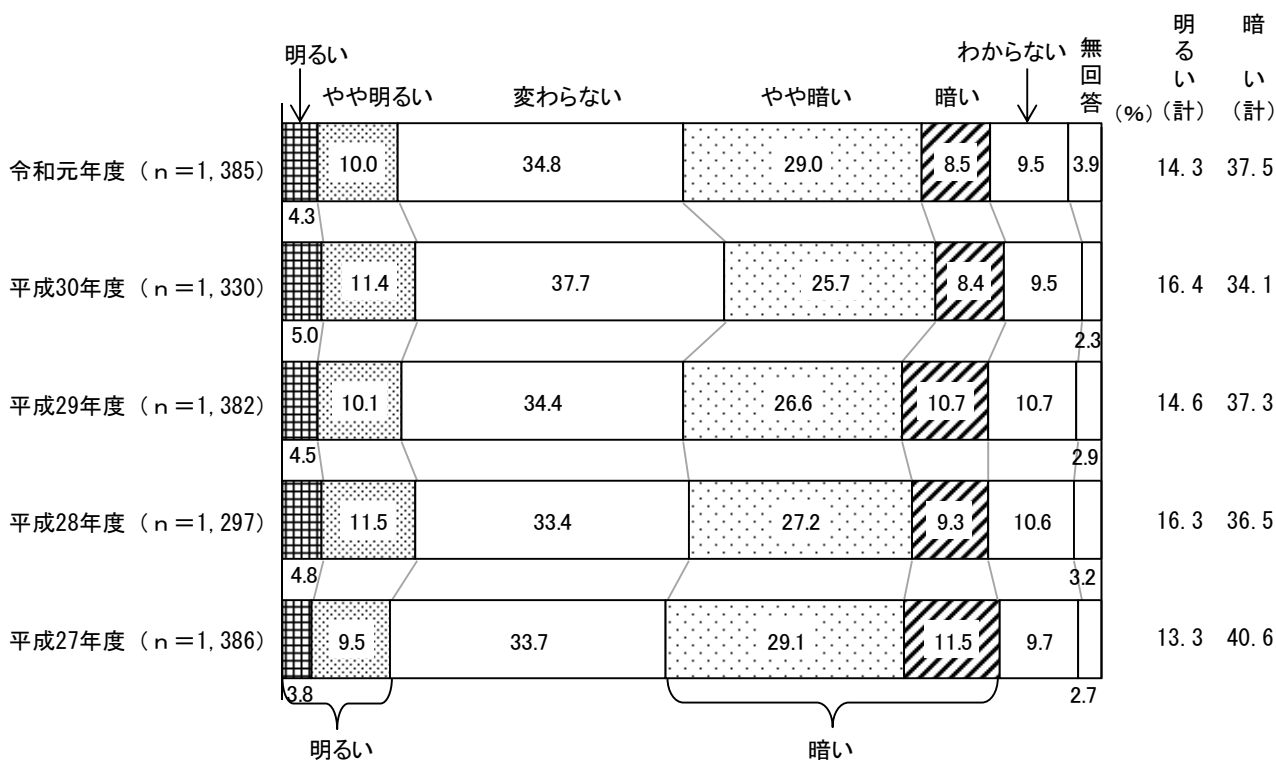
また、「変わらない」は、34.8%であった。(図表1-3-1)

【過去との比較】

過去の調査と比較すると、《明るい》は、平成30年度は平成29年度と比べて1.8ポイント増(14.6%→16.4%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて2.1ポイント減(16.4%→14.3%)となった。

一方、《暗い》は、平成30年度は平成29年度と比べて3.2ポイント減(37.3%→34.1%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.4ポイント増(34.1%→37.5%)となった。(図表1-3-1)

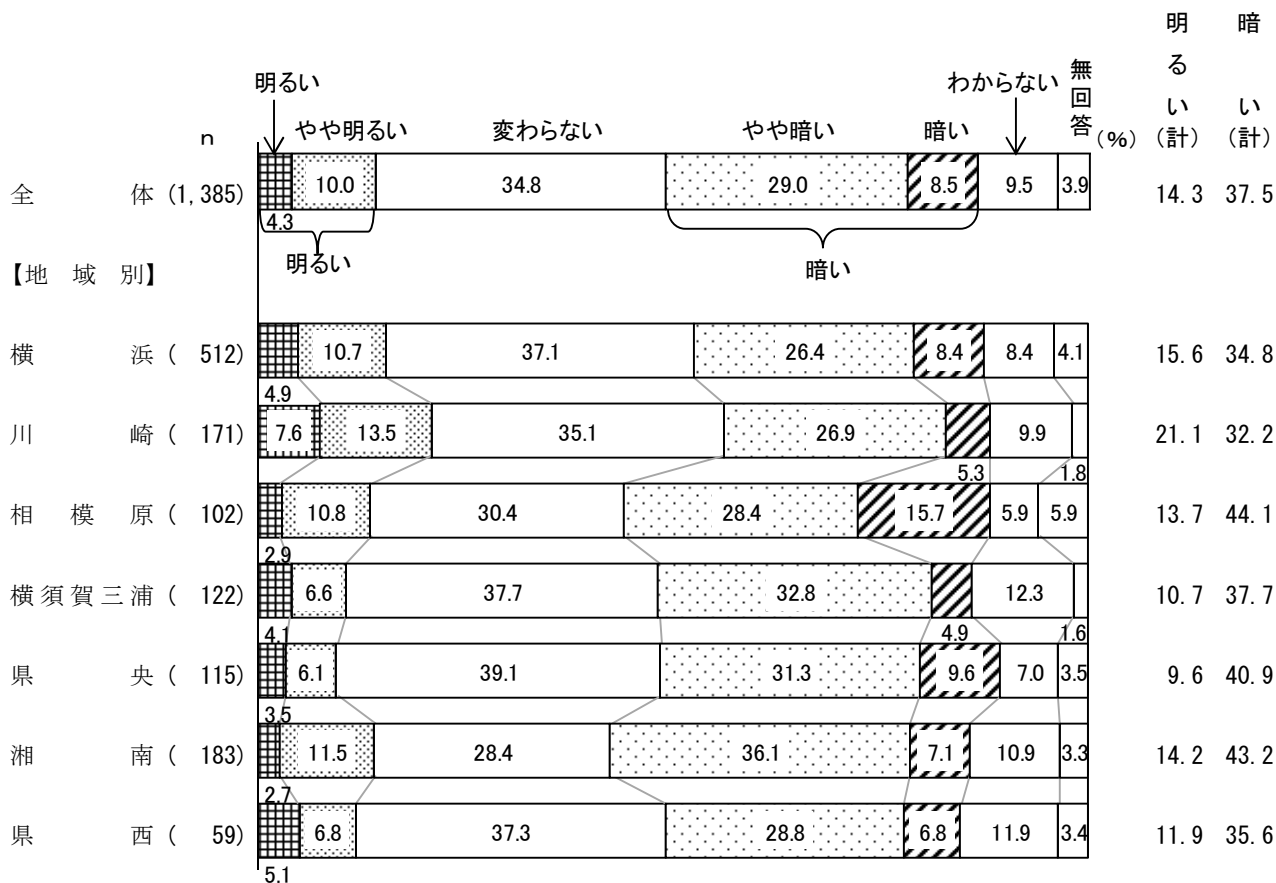
図表1-3-1 今後の暮らし向きの見通し—過去との比較



【地域別の状況】

地域別にみると、《明るい》は、川崎が21.1%で最も多く、次いで横浜が15.6%であった。一方、《暗い》は、相模原が44.1%で最も多く、次いで湘南が43.2%であった。（図表1-3-2）

図表1-3-2 今後の暮らし向きの見通し—地域別



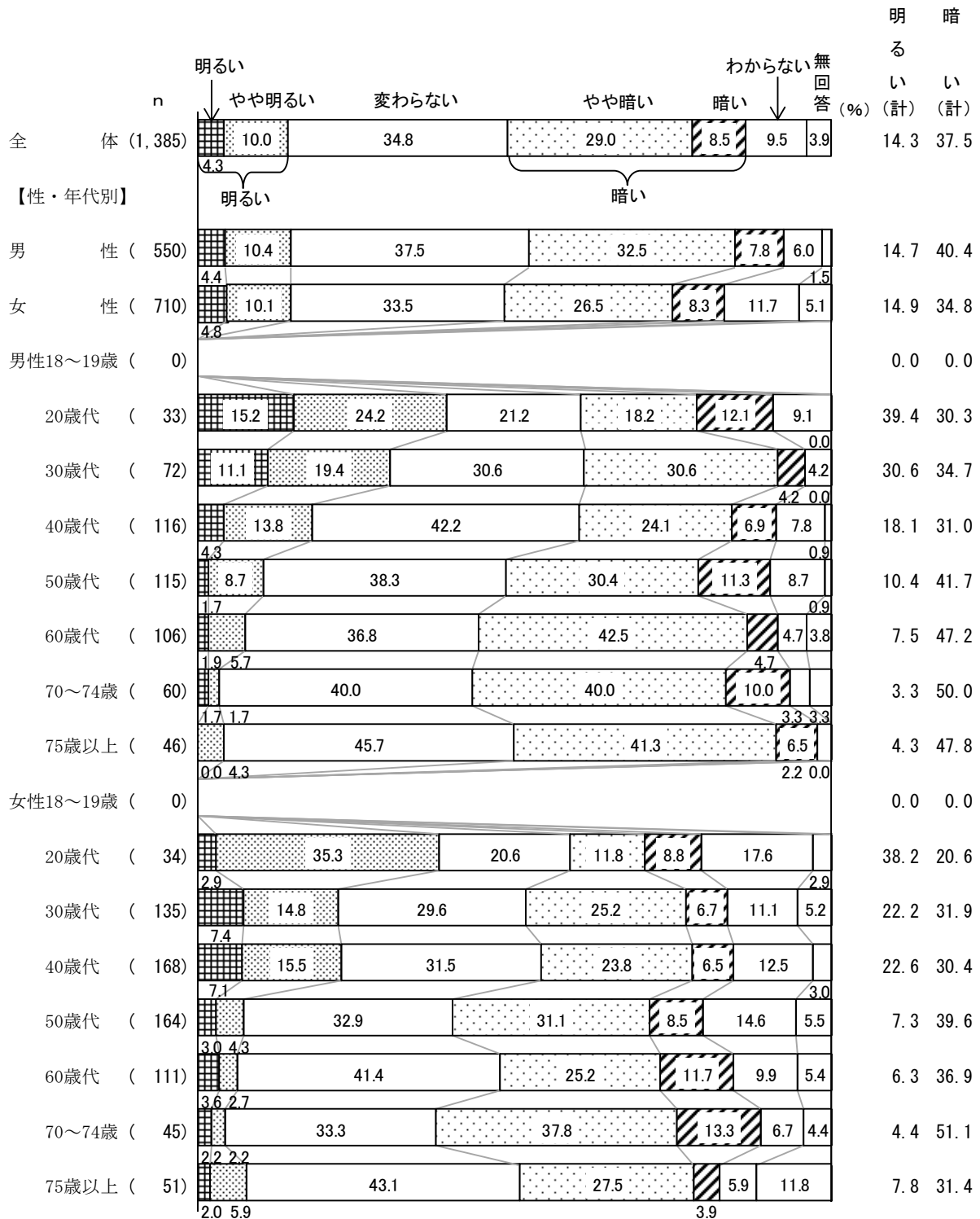
【性・年代別の状況】

性別にみると、《暗い》は、男性（40.4%）が女性（34.8%）を5.6ポイント上回った。

性・年代別にみると、《明るい》は、男女ともに20歳代（男性39.4%、女性38.2%）が約4割で最も多かった。

一方、《暗い》は、男女ともに70～74歳（男性50.0%、女性51.1%）が最も多かった。（図表1-3-3）

図表1-3-3 今後の暮らし向きの見通し－性・年代別



4 地域の住みよさ【問4】

【全体の状況】

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(13.1%)と「どちらかといえば住みよい」(56.7%)を合わせた《住みよい》は69.7%であった。

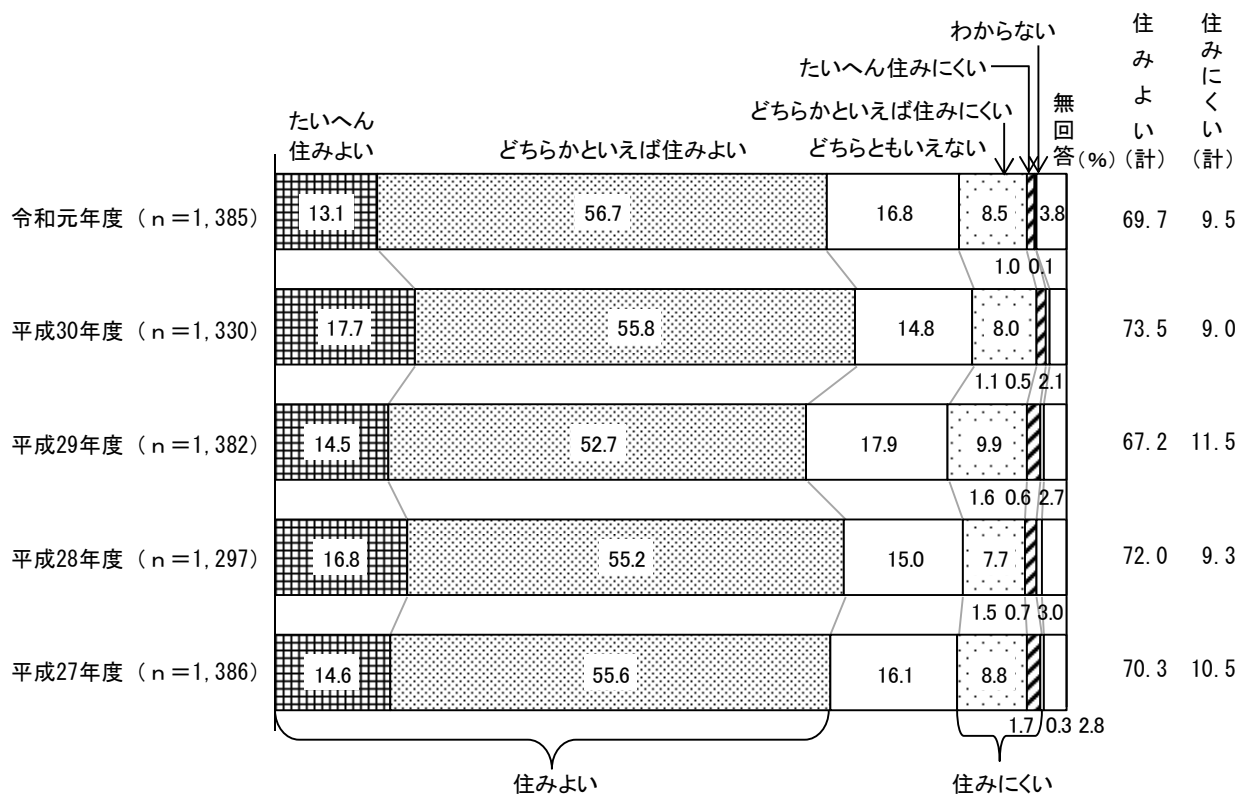
一方、「たいへん住みにくい」(1.0%)と「どちらかといえば住みにくい」(8.5%)を合わせた《住みにくい》は9.5%で、《住みよい》が《住みにくい》を60.2ポイント上回った。(図表1-4-1)

【過去との比較】

過去の調査と比較すると、《住みよい》は、平成30年度は平成29年度と比べて6.3ポイント増(67.2%→73.5%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(73.5%→69.7%)となった。

一方、《住みにくい》は、平成30年度は平成29年度と比べて2.5ポイント減(11.5%→9.0%)であったが、令和元年度は平成30年度と比べて0.5ポイント増(9.0%→9.5%)となった。(図表1-4-1)

図表1-4-1 地域の住みよさー過去との比較

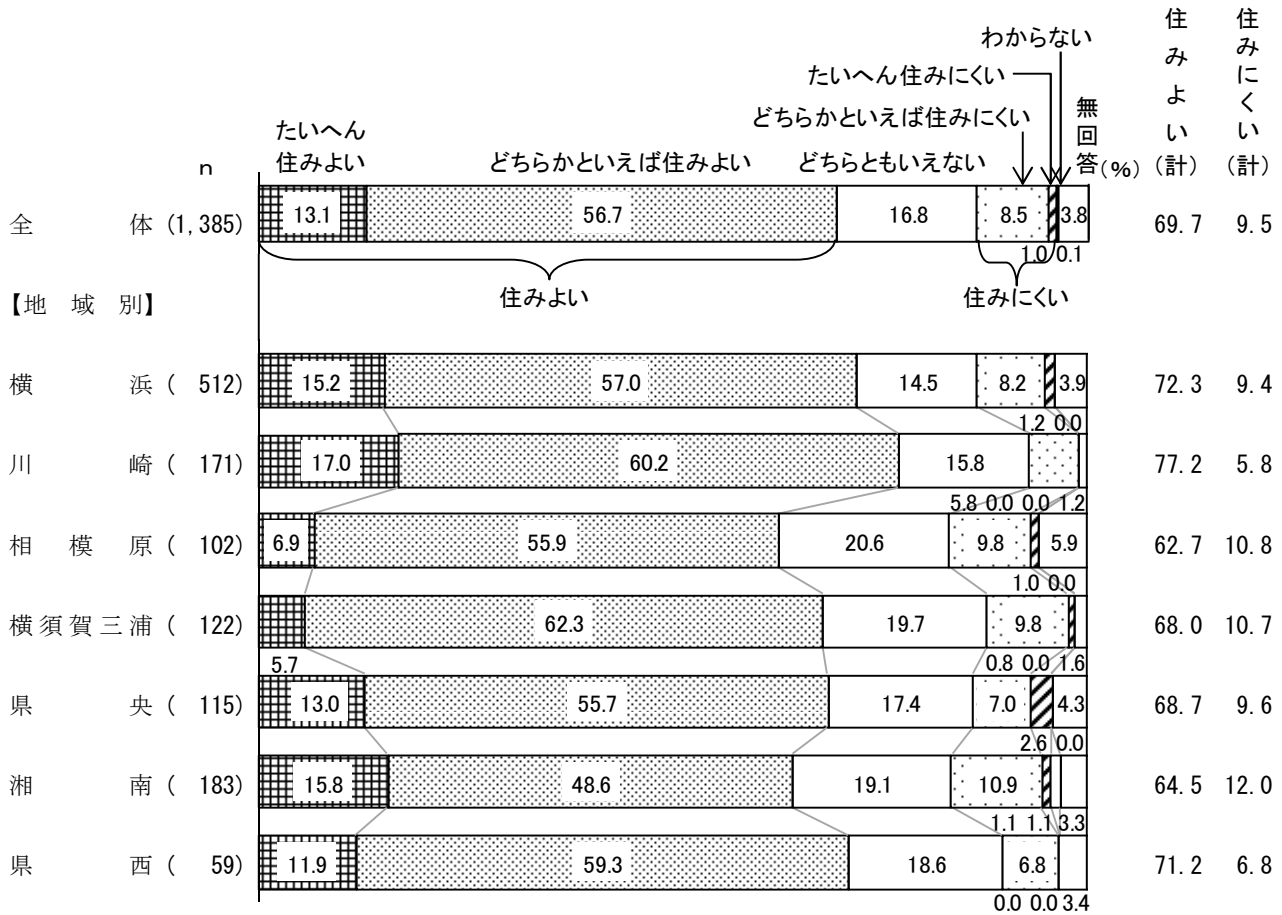


【地域別の状況】

地域別にみると、《住みよい》は、川崎（77.2%）、横浜（72.3%）、県西（71.2%）がそれぞれ7割を超えた。

一方、《住みにくい》は、湘南が12.0%で最も多かった。（図表1-4-2）

図表1-4-2 地域の住みよさー地域別

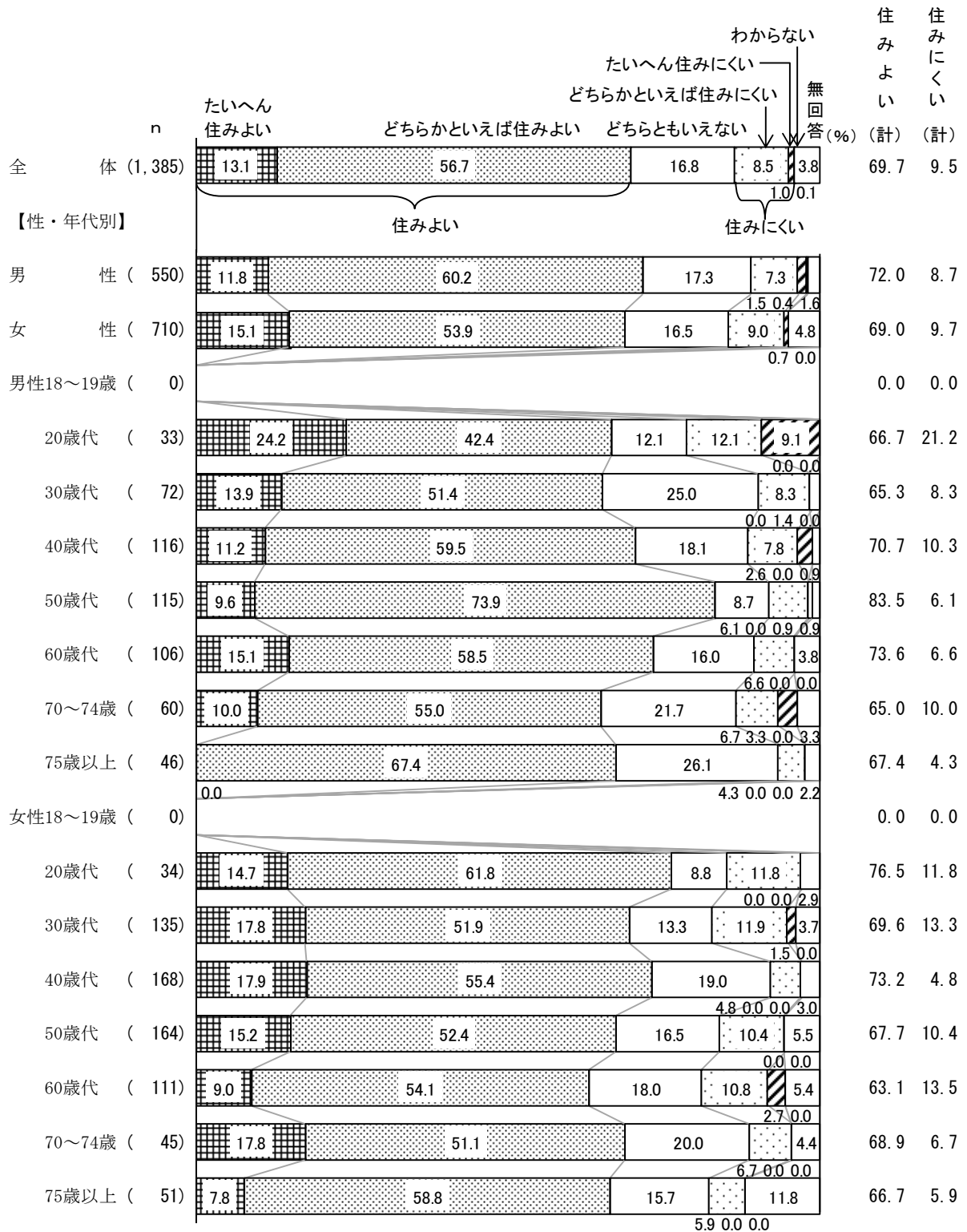


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「住みよい」は、男性の50歳代が83.5%で最も多く、次いで女性の20歳代が76.5%であった。

一方、「住みにくい」は、男性の20歳代が21.2%で最も多かった。(図表1-4-3)

図表1-4-3 地域の住みよさー性・年代別



5 定住意向【問5】

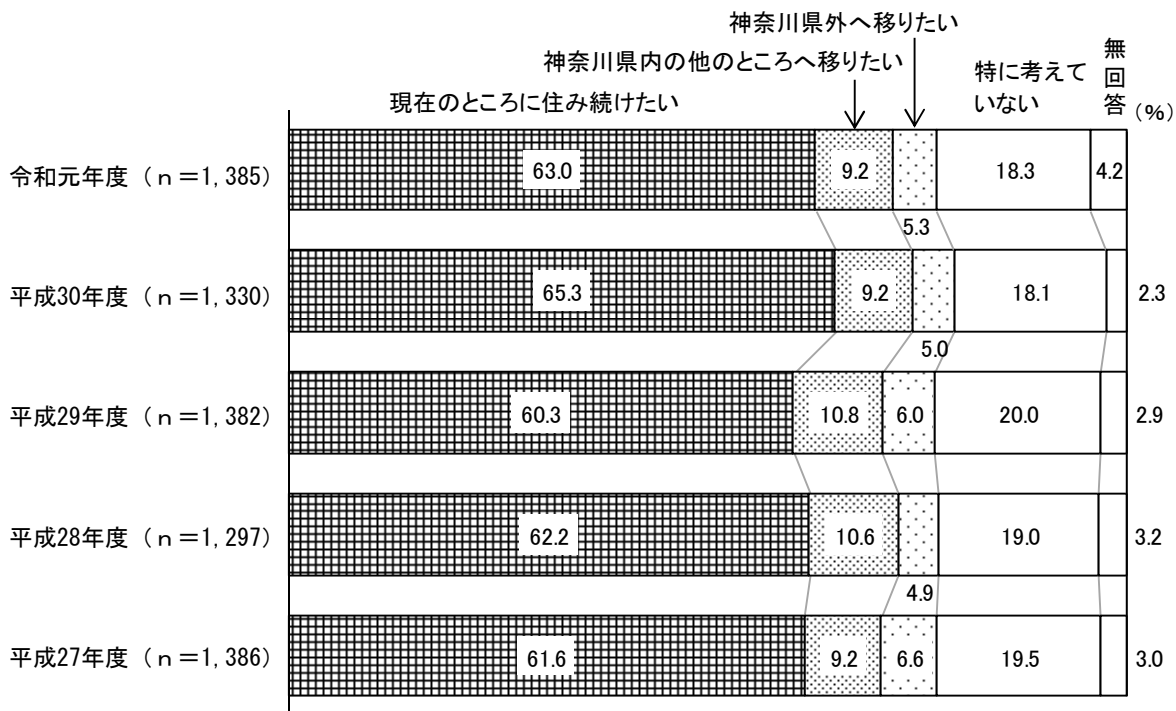
【全体の状況】

今後も現在のところに住みたいか尋ねたところ、「現在のところに住みたい」が63.0%で最も多かった。また、「神奈川県外へ移りたい」は、5.3%であった。（図表1-5-1）

【過去との比較】

過去の調査と比較すると、「現在のところに住みたい」は、平成30年度は平成29年度と比べて5.0ポイント増（60.3%→65.3%）であったが、令和元年度は平成30年度と比べて2.3ポイント減（65.3%→63.0%）となった。（図表1-5-1）

図表1-5-1 定住意向－過去との比較

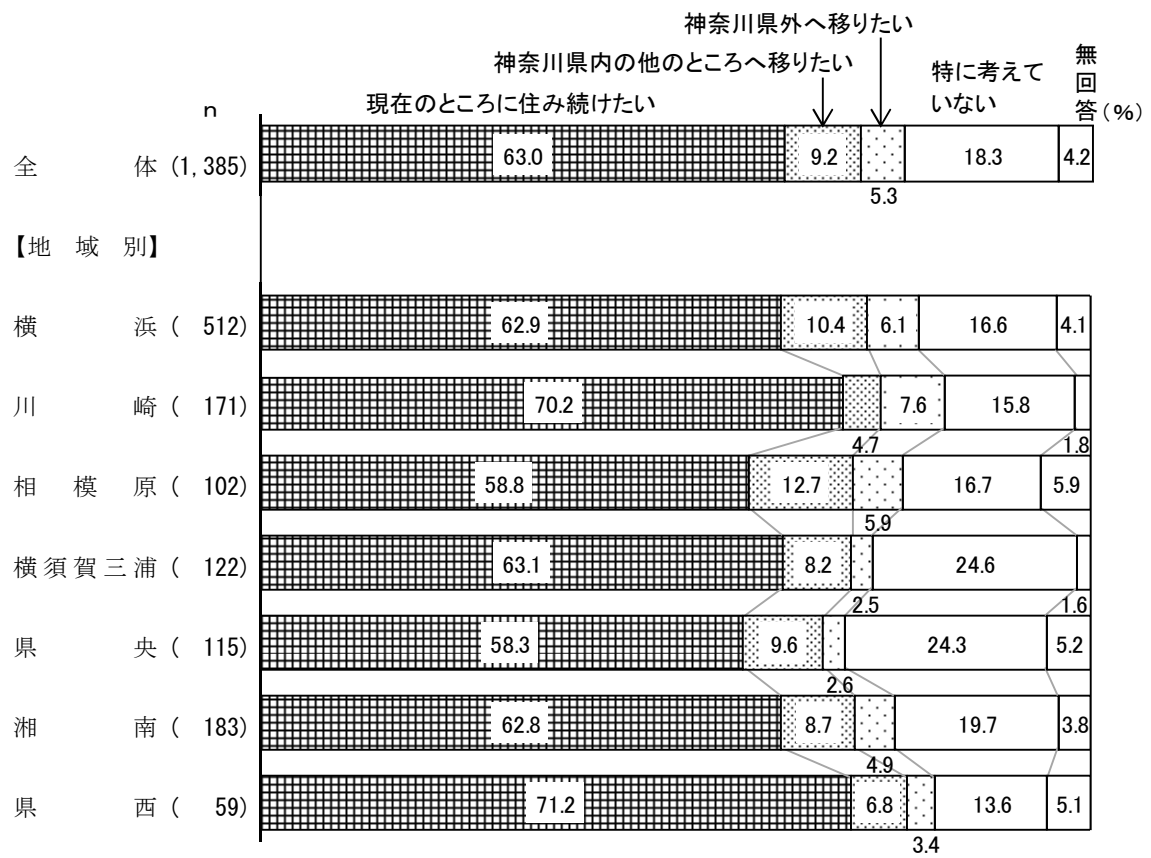


【地域別の状況】

地域別にみると、「現在のところに住み続けたい」は、県西が71.2%で最も多く、次いで川崎が70.2%であった。

一方、「神奈川県内の他のところへ移りたい」は、相模原が12.7%で最も多く、次いで横浜が10.4%であった。(図表1-5-2)

図表1-5-2 定住意向—地域別

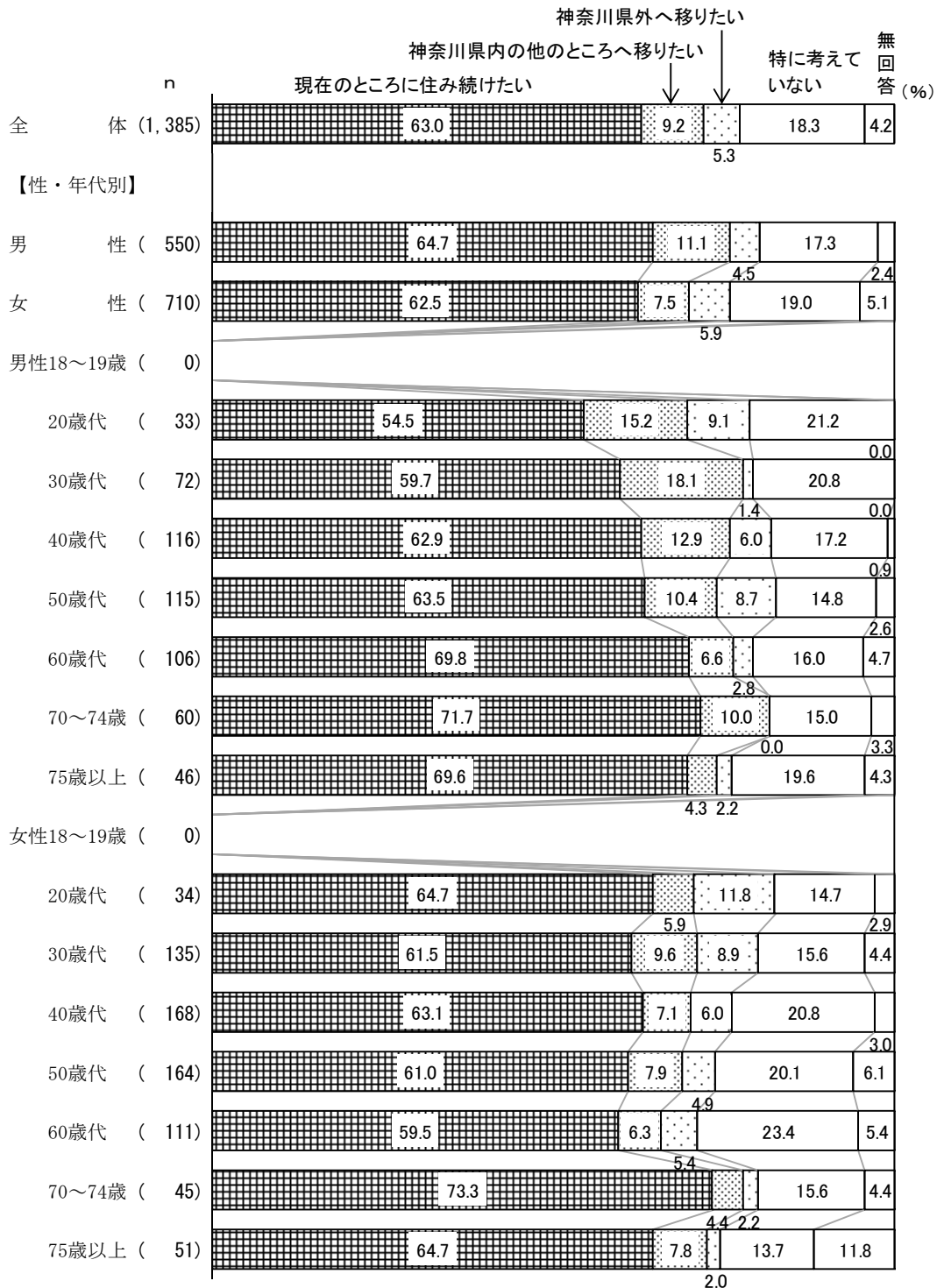


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「現在のところに住み続けたい」は、男女ともに70～74歳（男性71.7%、女性73.3%）が最も多かった。

一方、「神奈川県内の他のところへ移りたい」は、男性の30歳代（18.1%）が最も多く、男性の20歳代（15.2%）・40歳代（12.9%）が続いた。（図表1-5-3）

図表1-5-3 定住意向－性・年代別



第2章 生活意識【問6】

【全体の状況】

県民の様々な生活意識を把握するために、34項目を提示して「そう思う」と「そう思わない」で尋ねた。

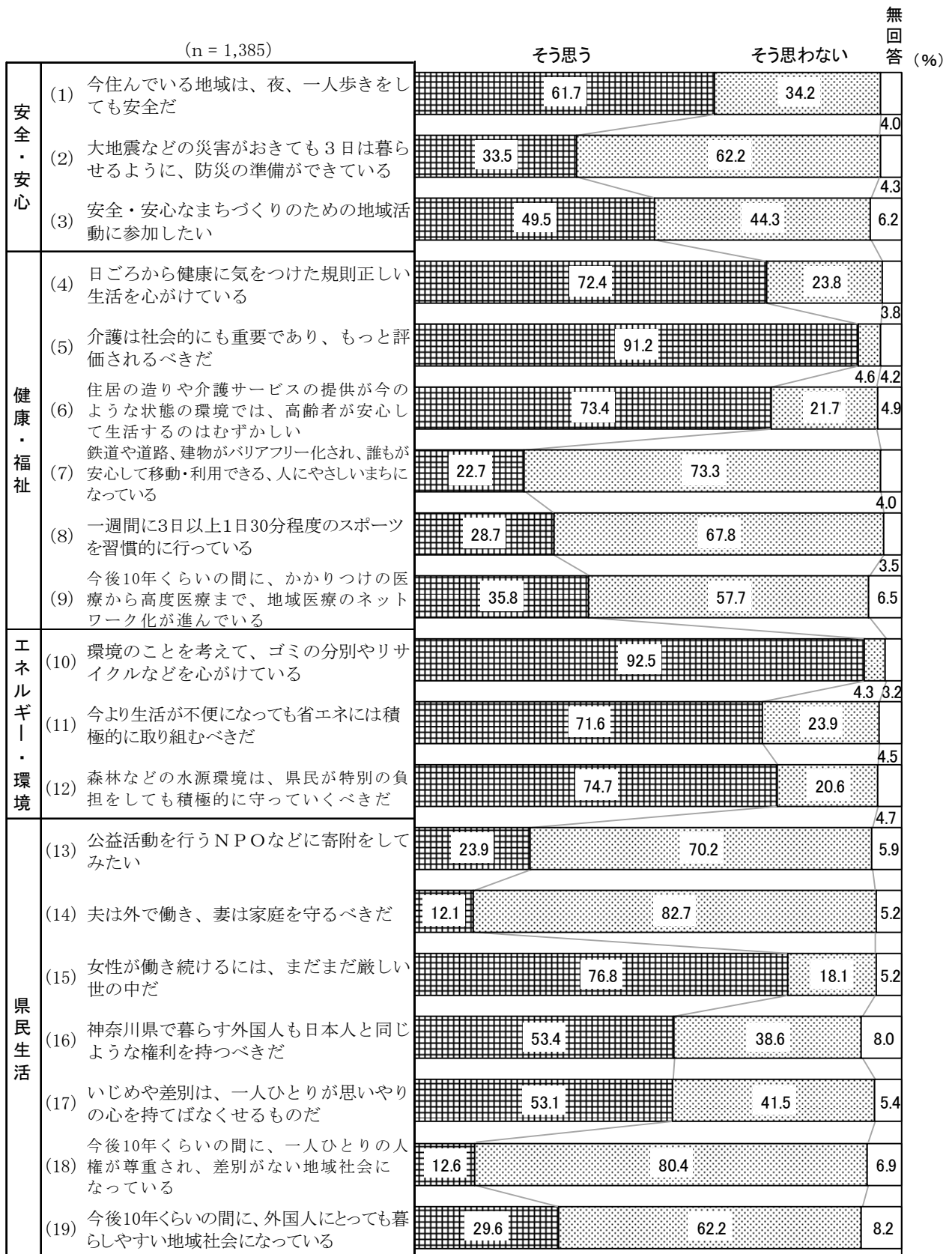
「そう思う」では、「(10) 環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」が92.5%で最も多く、次いで「(5) 介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が91.2%であった。

以下、「(21) 育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」(88.8%)、「(31) 神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ」(82.2%)、「(29) 県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい」(80.6%)が続いた。

「そう思わない」では、「(14) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が82.7%で最も多かった。

(図表2)

図表2 生活意識



図表2 生活意識（つづき）

		(n = 1,385)		無回答 (%)
		そう思う	そう思わない	
教育・子育て	(20) 子どもを生み育てる環境が今のままで、子どもを持つのはむずかしい	57.8	35.5	6.7
	(21) 育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ	88.8	5.1	6.1
	(22) 国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい	70.5	22.5	6.9
	(23) 若者の「ひきこもり」など、青少年が自分自身の価値や存在感を実感しにくい世の中になっている	69.1	24.3	6.6
	(24) 青少年をめぐる昨今の問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい	64.9	28.4	6.6
	(25) 教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている	17.3	73.9	8.8
	(26) 今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもり等の子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている	25.2	66.6	8.2
	(27) 今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっていく	13.6	77.8	8.7
産業	(28) 今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっていく	16.0	75.2	8.7
	(29) 県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい	80.6	13.1	6.3
県土・まちづくり	(30) 県内には、世界に発信できる魅力ある観光資源がある	70.5	22.2	7.3
	(31) 神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ	82.2	11.7	6.1
	(32) まちなみ、歴史的建造物の保全や公園づくりなど、まちづくり関係の活動に参加してみたい	43.6	48.8	7.6
	(33) 県内では、交通渋滞が激しく自動車での移動が不便だ	53.1	40.0	6.9
	(34) 今後10年くらいの間に、道路や公共交通網がさらに充実し、県内外への利便性がよくなっている	57.7	35.5	6.9

【過去との比較】

「そう思う」の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「(10) 環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」が第1位、「(5) 介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第2位、「(21) 育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第3位となった。(図表2(1))

図表2(1) 生活意識「そう思う」の上位10項目—過去との比較

	平成27年度 (n = 1,386)	平成28年度 (n = 1,297)	平成29年度 (n = 1,382)	平成30年度 (n = 1,330)	令和元年度 (n = 1,385)
1位	環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている (94.6%)	環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている (93.4%)	環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている (92.3%)	環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている (93.2%)	環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている (92.5%)
2位	介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (92.6%)	介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (91.9%)	介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (91.8%)	介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (91.9%)	介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (91.2%)
3位	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (90.6%)	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (91.1%)	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (87.7%)	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (89.5%)	育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ (88.8%)
4位	個人情報の漏えいやインターネットを通じた情報の流出など、自分の情報の漏えいに不安を感じることがある (88.3%)	個人情報の漏えいやインターネットを通じた情報の流出など、自分の情報の漏えいに不安を感じることがある (87.7%)	個人情報の漏えいやインターネットを通じた情報の流出など、自分の情報の漏えいに不安を感じることがある (83.5%)	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (84.4%)	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (82.2%)
5位	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (86.5%)	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (87.5%)	値段や外観にかかわらず、安全な農産物を食べたい (82.4%)	食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけている (84.1%)	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (80.6%)
6位	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (83.7%)	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (83.5%)	神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ (82.3%)	値段や外観にかかわらず、安全な農産物を食べたい	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (76.8%)
7位	値段や外観にかかわらず、安全な農産物を食べたい (83.5%)	値段や外観にかかわらず、安全な農産物を食べたい (83.3%)	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (79.1%)	個人情報の漏えいやインターネットを通じた情報の流出など、自分の情報の漏えいに不安を感じることがある (83.5%)	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (74.7%)
8位	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (80.7%)	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (81.7%)	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (77.6%)	県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい (81.4%)	住居の造りや介護サービスの提供が今の状態の環境では、高齢者が安心して生活するのはむずかしい (73.4%)
9位	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (77.9%)	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (76.9%)	住居の造りや介護サービスの提供が今の状態の環境では、高齢者が安心して生活するのはむずかしい (74.9%)	女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ (77.4%)	日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている (72.4%)
10位	青少年をめぐる昨今の問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい (76.3%)	住居の造りや介護サービスの提供が今の状態の環境では、高齢者が安心して生活するのはむずかしい (75.6%)	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (71.6%)	森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ (77.3%)	今より生活が不便になっても省エネには積極的に取り組むべきだ (71.6%)

「そう思わない」の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回調査と同様に、「(14) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が第1位、「(18) 今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている」が第2位、「(27) 今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっていく」が第3位となった。(図表2(2))

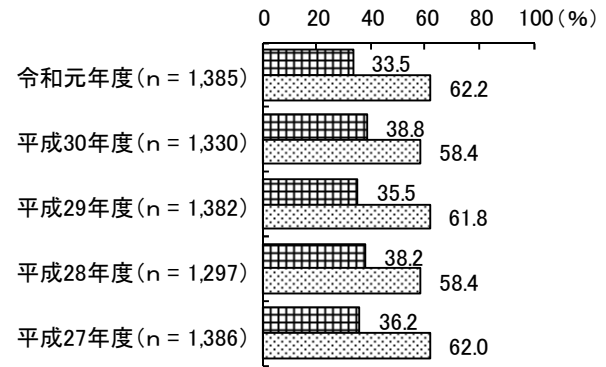
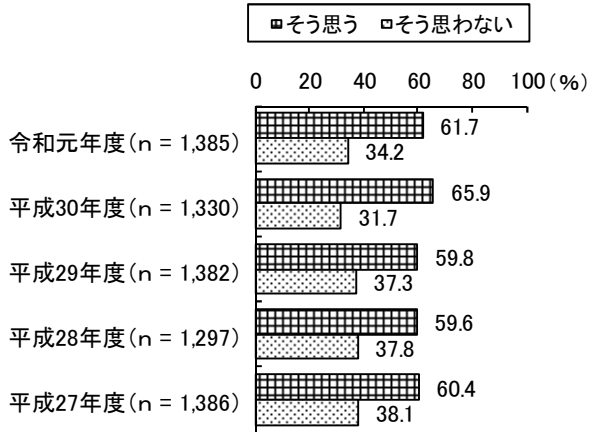
図表2(2) 生活意識「そう思わない」の上位10項目—過去との比較

	平成27年度 (n = 1,386)	平成28年度 (n = 1,297)	平成29年度 (n = 1,382)	平成30年度 (n = 1,330)	令和元年度 (n = 1,385)
1位	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている(81.5%)	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている(83.5%)	今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっていく(80.6%)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ(81.4%)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ(82.7%)
2位	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている(80.8%)	今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっていく(80.3%)	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている(78.5%)	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている(78.1%)	今後10年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている(80.4%)
3位	今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっていく(79.9%)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ(78.4%)	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ(78.2%)	今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっていく(78.0%)	今後10年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっていく(77.8%)
4位	夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ(79.7%)	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている(76.5%)	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている(77.9%)	NPO法人に寄付してみたい(75.3%)	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている(75.2%)
5位	NPO法人に寄付してみたい(77.3%)	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている(75.7%)	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている(77.0%)	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている(74.7%)	教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている(73.9%)
6位	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている(75.7%)	NPO法人に寄付してみたい(74.3%)	NPO法人に寄付してみたい(76.0%)	今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている(73.2%)	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている(73.3%)
7位	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている(73.2%)	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている(70.2%)	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている(73.1%)	鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている(70.2%)	公益活動を行うNPOなどに寄附してみたい(70.2%)
8位	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている(71.4%)	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている(69.7%)	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている(70.1%)	一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている(69.3%)	一週間に3日以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている(67.8%)
9位	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもり等の子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている(68.3%)	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもり等の子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている(68.7%)	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもり等の子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている(66.9%)	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもり等の子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている(66.9%)	今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもり等の子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている(66.6%)
10位	今後10年くらいの間に、外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている(64.1%)	今後10年くらいの間に、外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている(63.5%)	今後10年くらいの間に、外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている(62.2%)	今後10年くらいの間に、外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている(59.8%)	今後10年くらいの間に、外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている 大地震などの災害がおきても3日は暮らせるように、防災の準備ができている(62.2%)

図表 2 (3) 生活意識（過去との比較）

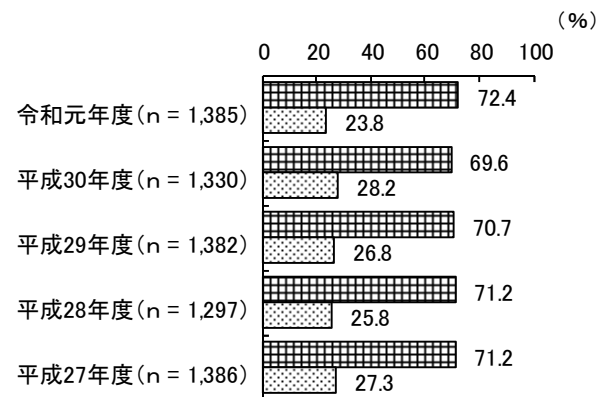
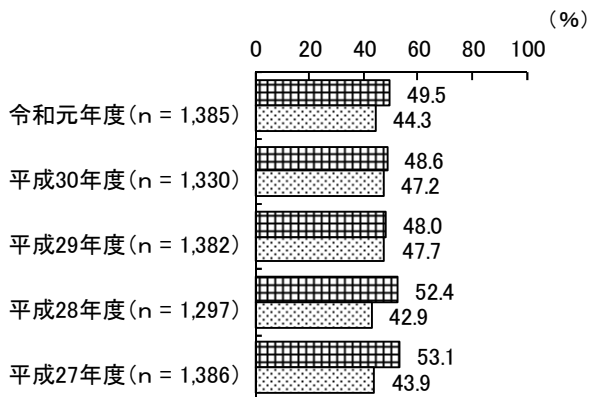
(1) 今住んでいる地域は、夜、一人歩きをしても安全だ

(2) 大地震などの災害がおきても3日は暮らせるように、防災の準備ができています



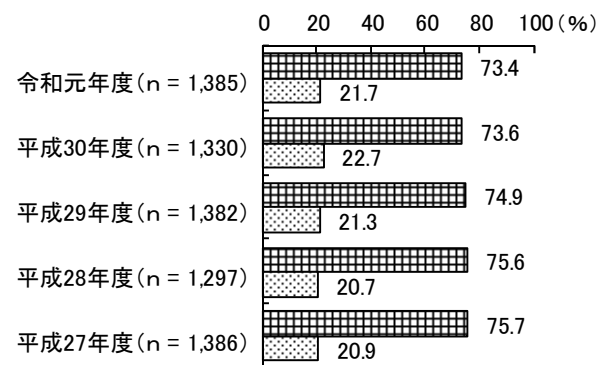
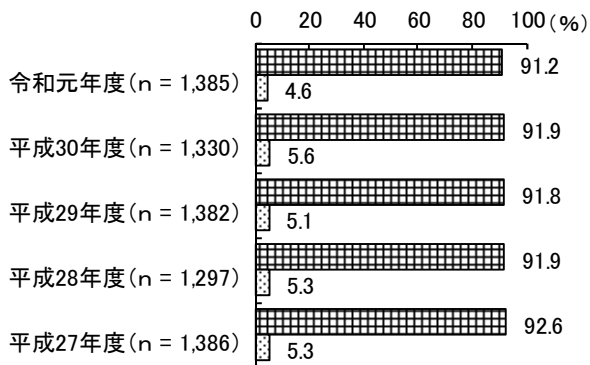
(3) 安全・安心なまちづくりのための地域活動に参加したい

(4) 日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている



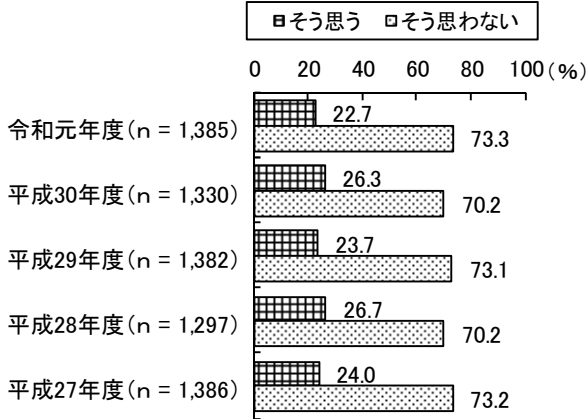
(5) 介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ

(6) 住居の造りや介護サービスの提供が今の様な状態の環境では、高齢者が安心して生活するのはむずかしい

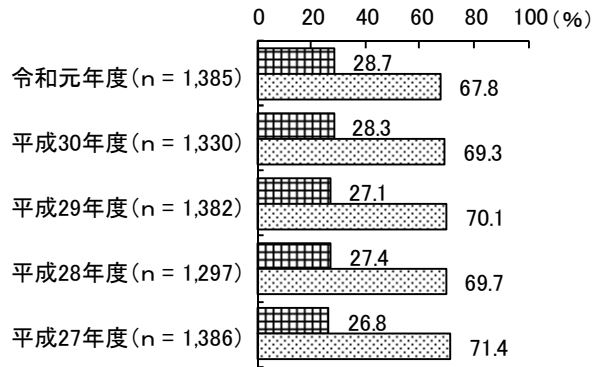


図表 2 (3) 生活意識 (過去との比較) (つづき)

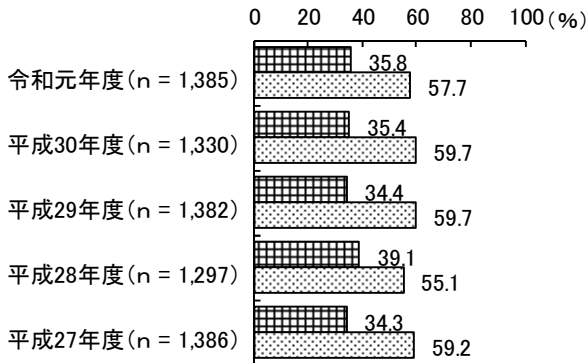
(7) 鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている



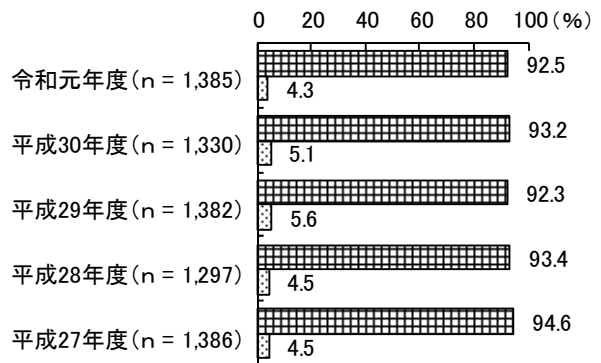
(8) 一週間に3日以上1日30分程度のスポーツを習慣的にやっている



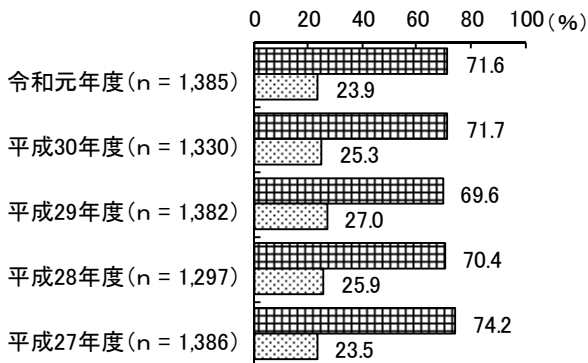
(9) 今後10年くらいの間に、かかりつけの医療から高度医療まで、地域医療のネットワーク化が進んでいる



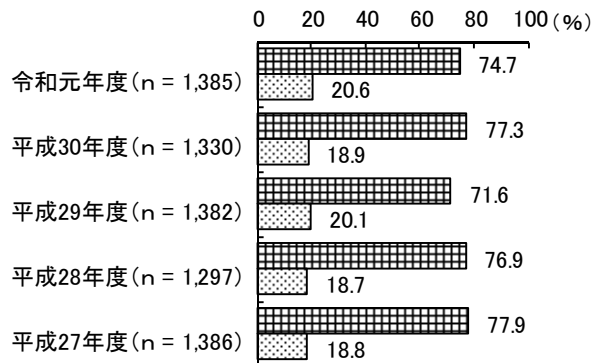
(10) 環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている



(11) 今より生活が不便になっても省エネには積極的に取り組むべきだ

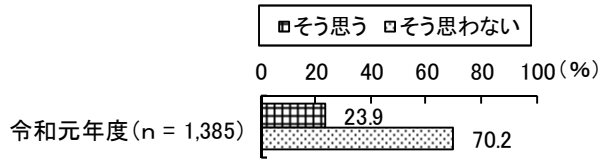


(12) 森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ

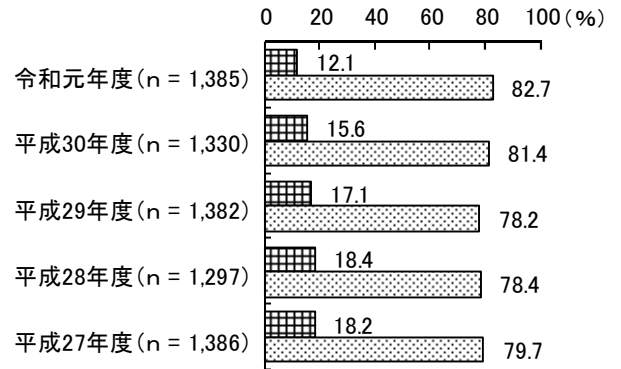


図表 2 (3) 生活意識（過去との比較）（つづき）

(13) 公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい

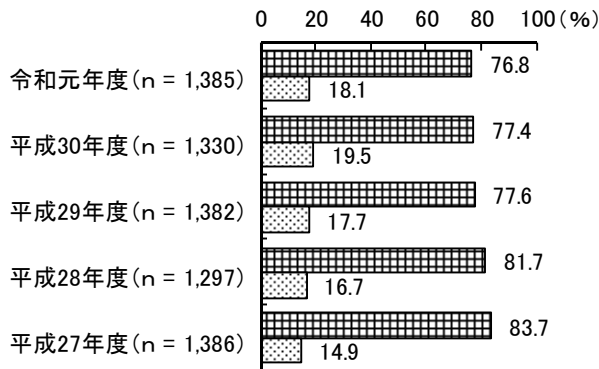


(14) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

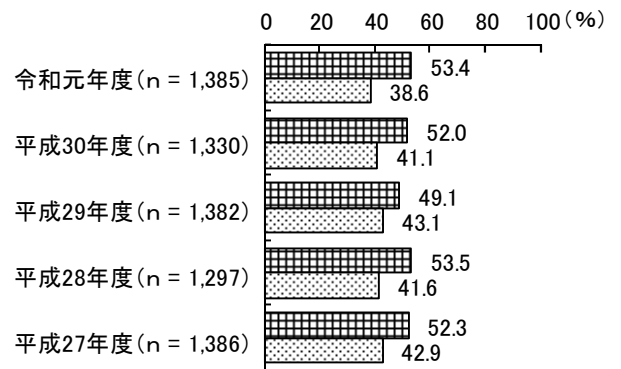


(注) 令和元年度から追加された項目である

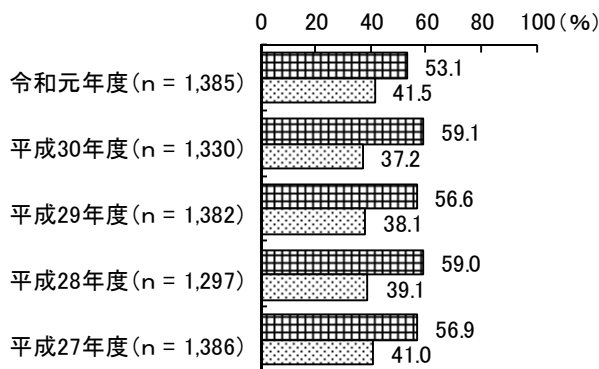
(15) 女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ



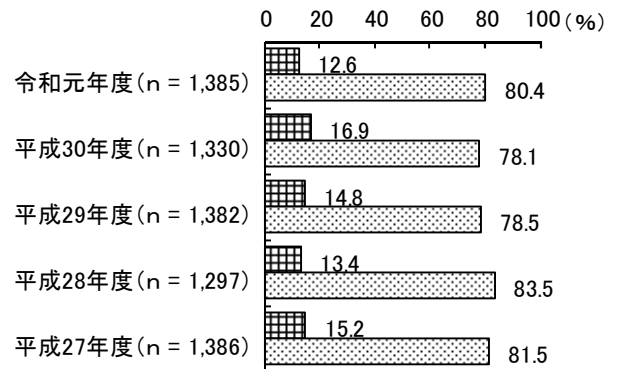
(16) 神奈川県で暮らす外国人も日本人と同じような権利を持つべきだ



(17) いじめや差別は、一人ひとりが思いやりの心を持ってばなくせるものだ

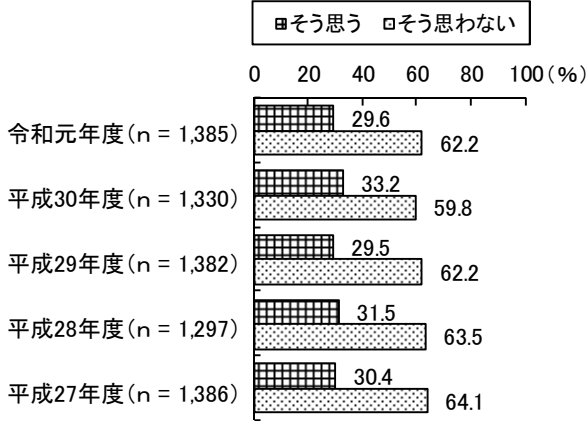


(18) 今後10年くらいの間、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている

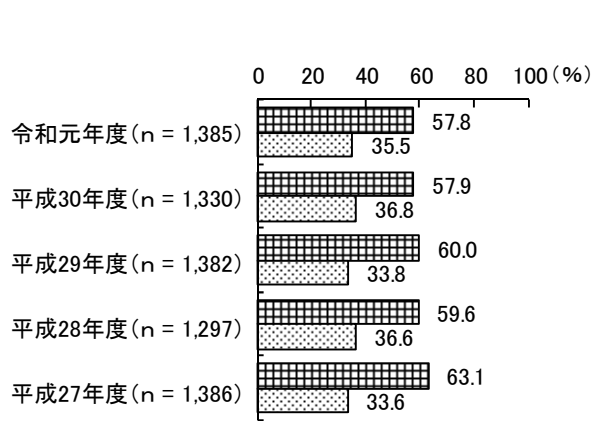


図表 2 (3) 生活意識 (過去との比較) (つづき)

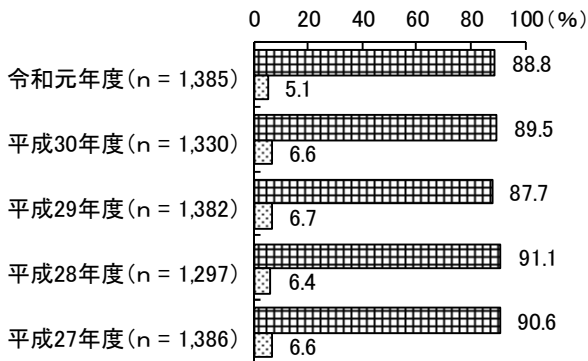
(19) 今後10年くらいの間に、外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている



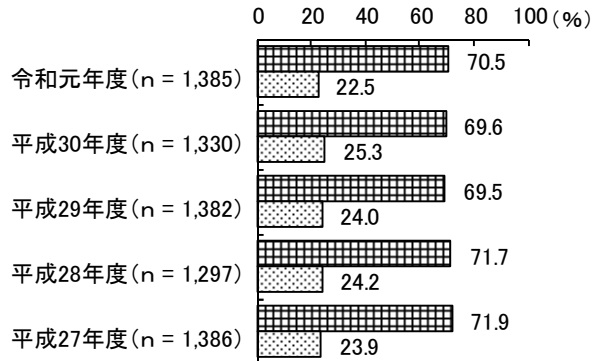
(20) 子どもを生み育てる環境が今のままでは、子どもを持つのはむずかしい



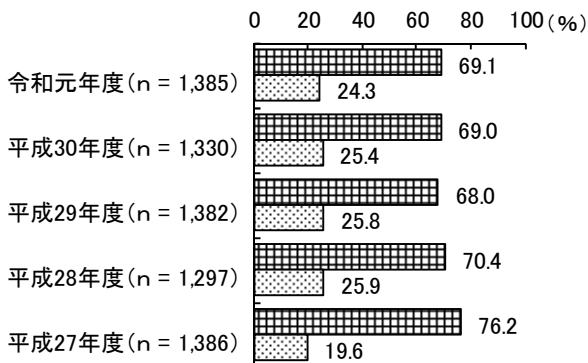
(21) 育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ



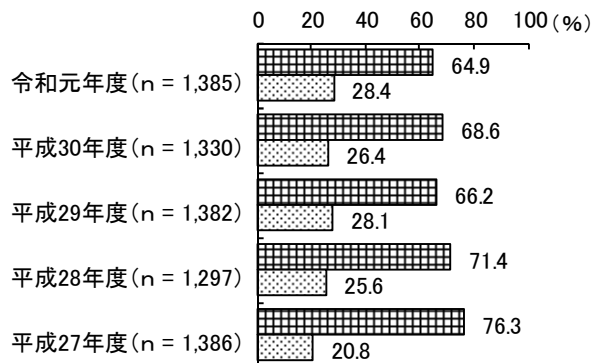
(22) 国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい



(23) 若者の「ひきこもり」など、青少年が自分自身の価値や存在感を実感しにくい世の中になっている

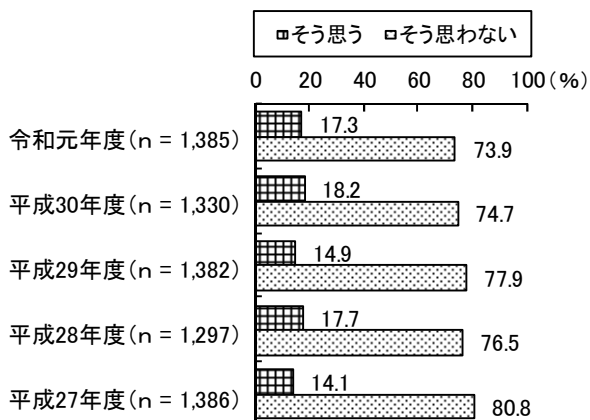


(24) 青少年をめぐる昨今の問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい

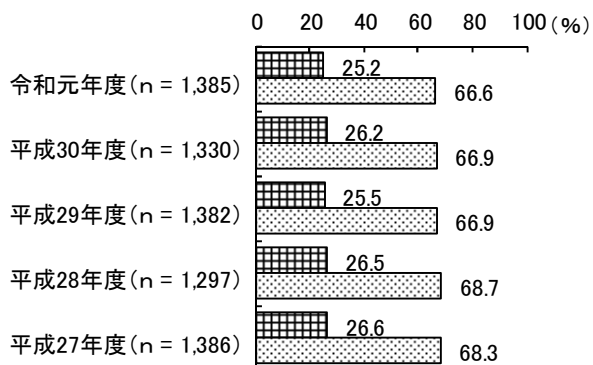


図表 2 (3) 生活意識 (過去との比較) (つづき)

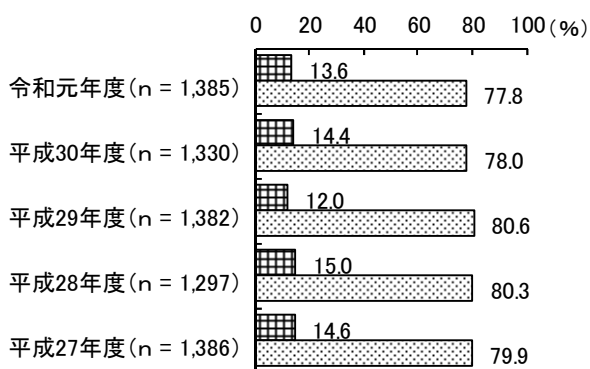
(25) 教員の指導力が向上し、
子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている



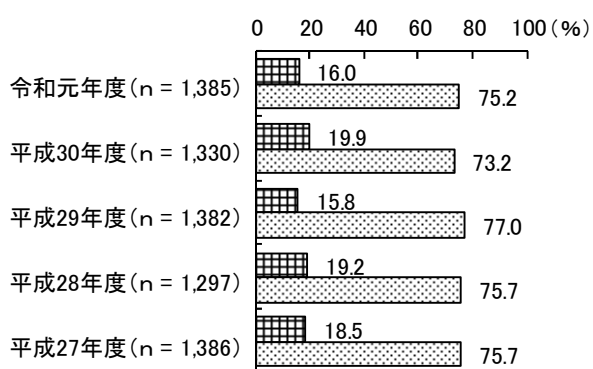
(26) 今後10年くらいの間に、不登校・ひきこもり等の
子ども・若者の支援を行うフリースクールや
フリースペース、相談機関などが整っている



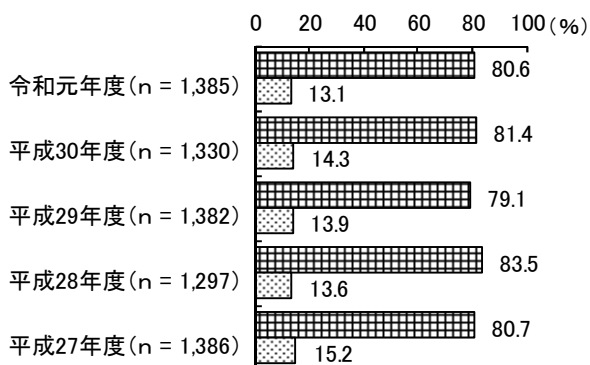
(27) 今後10年くらいの間に、地域の大人が、
青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている



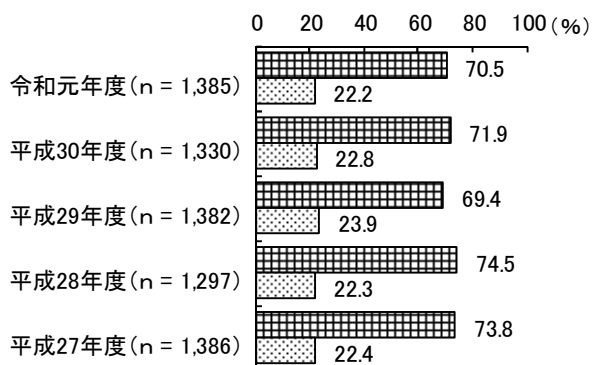
(28) 今後10年くらいの間に、子どもたちの教育に
誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが
連携し県民全体で進めるようになっている



(29) 県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、
身近な森林を守ることにつながるなら、
積極的に使いたい



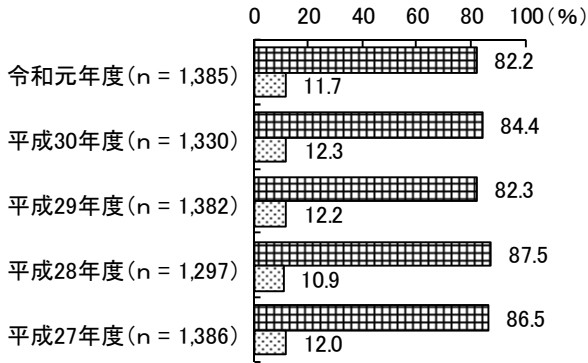
(30) 県内には、世界に発信できる魅力ある
観光資源がある



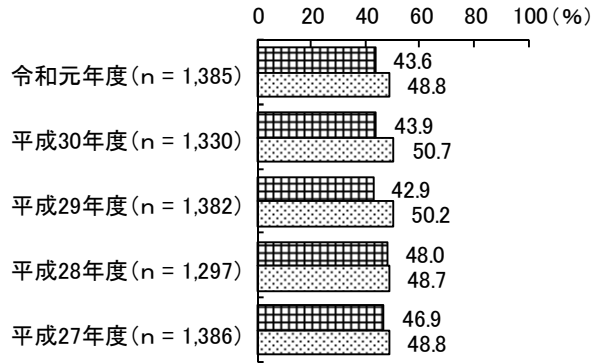
図表 2 (3) 生活意識 (過去との比較) (つづき)

(31) 神奈川県は、歴史や文化、自然など、
地域ごとに特色があり魅力的な県だ

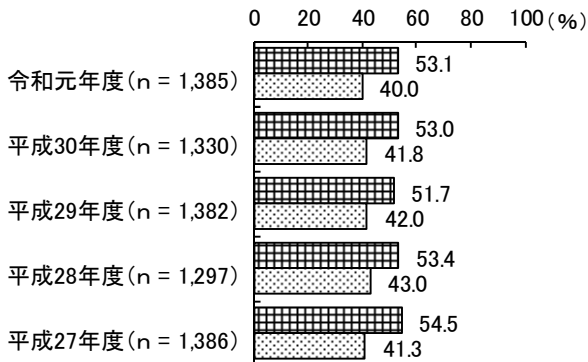
■ そう思う □ そう思わない



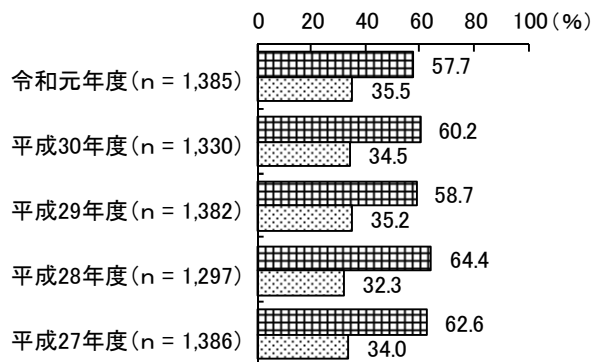
(32) まちなみ、歴史的建造物の保全や
公園づくりなど、まちづくり関係の活動に
参加してみたい



(33) 県内では、交通渋滞が激しく
自動車での移動が不便だ



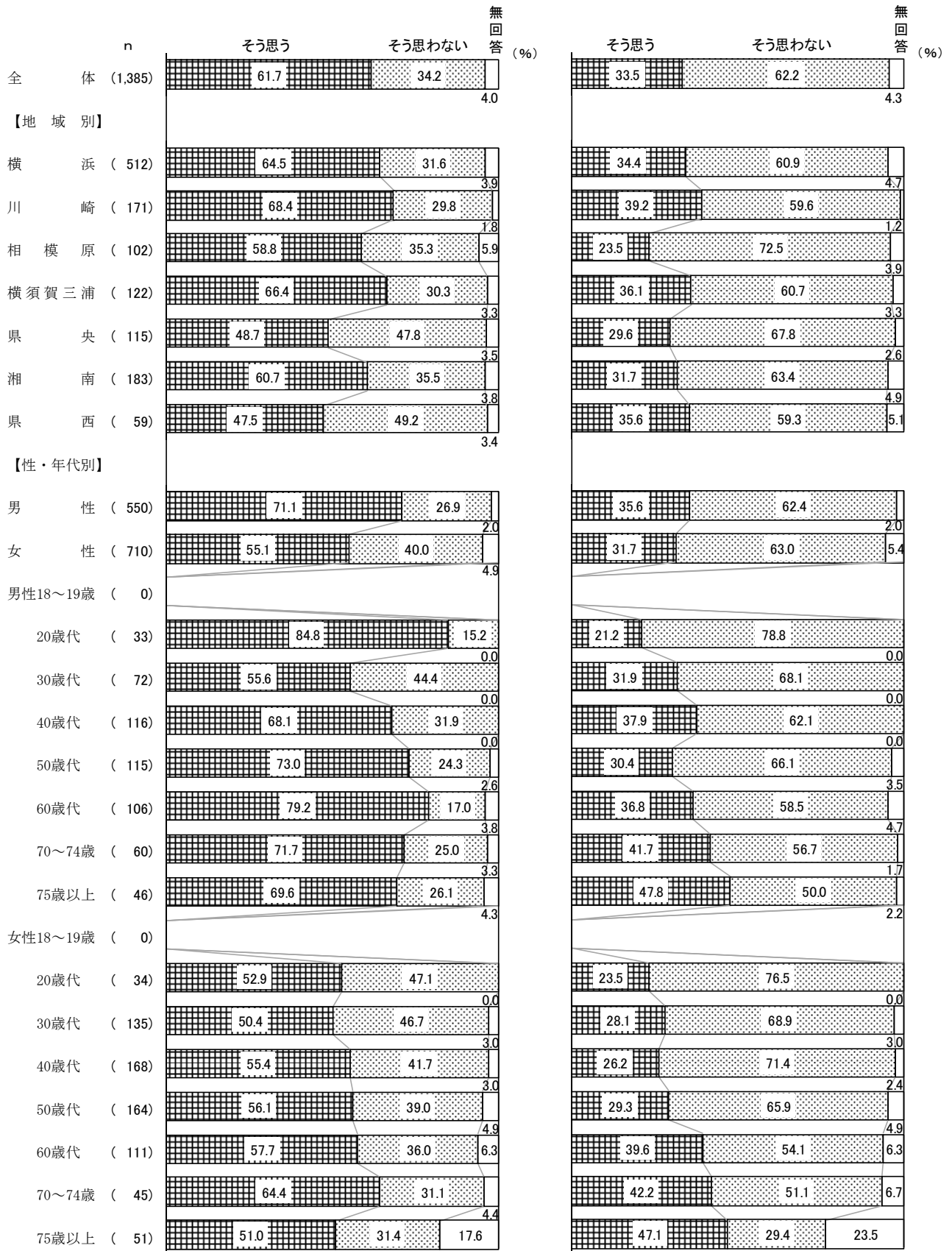
(34) 今後10年くらいの間に、道路や公共交通網が
さらに充実し、県内外への利便性がよくなっている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別)

(1) 今住んでいる地域は、夜、一人歩きをしても安全だ

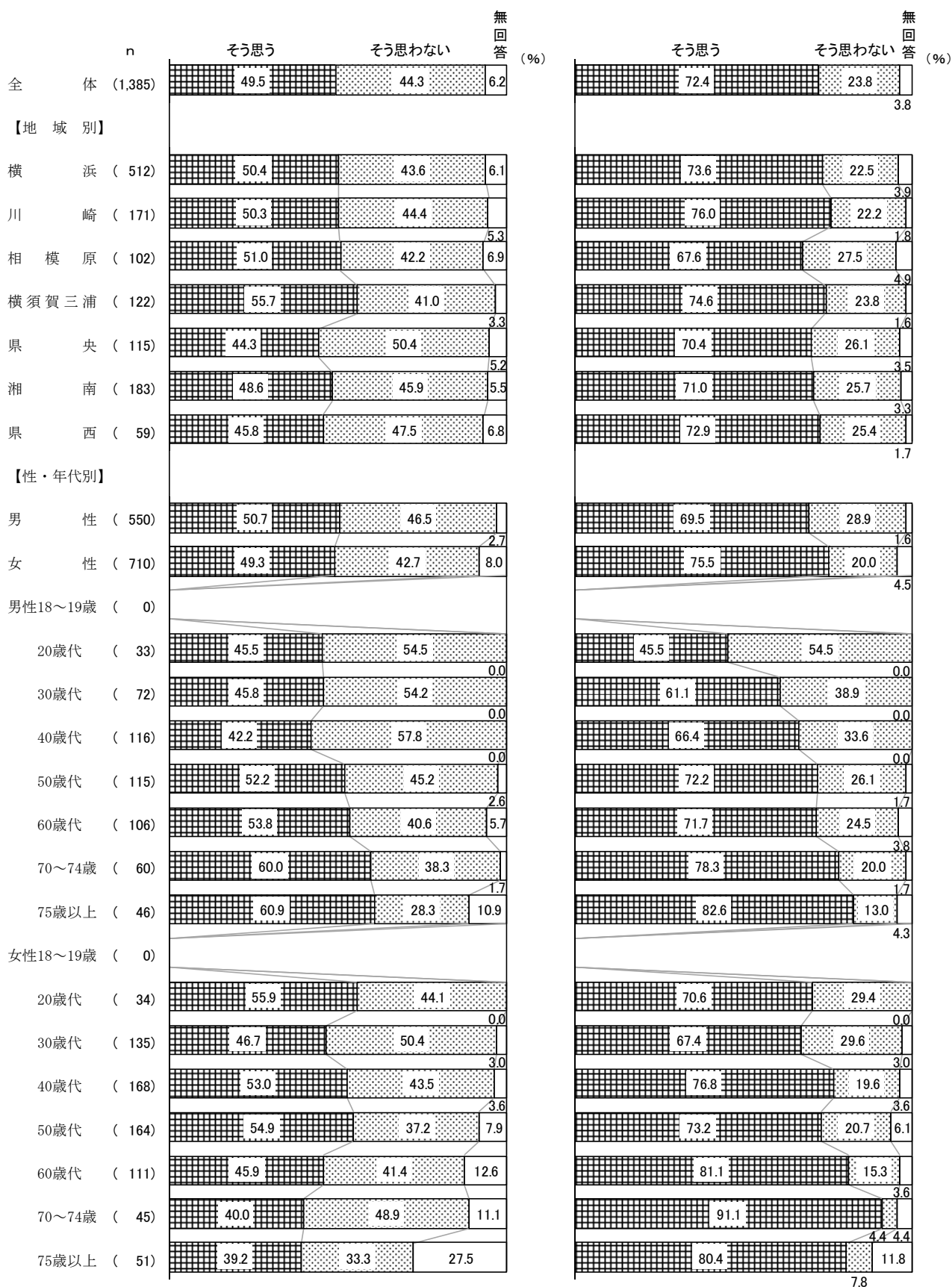
(2) 大地震などの災害がおきても3日は暮らせるように、防災の準備ができている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(3) 安全・安心なまちづくりのための地域活動に参加したい

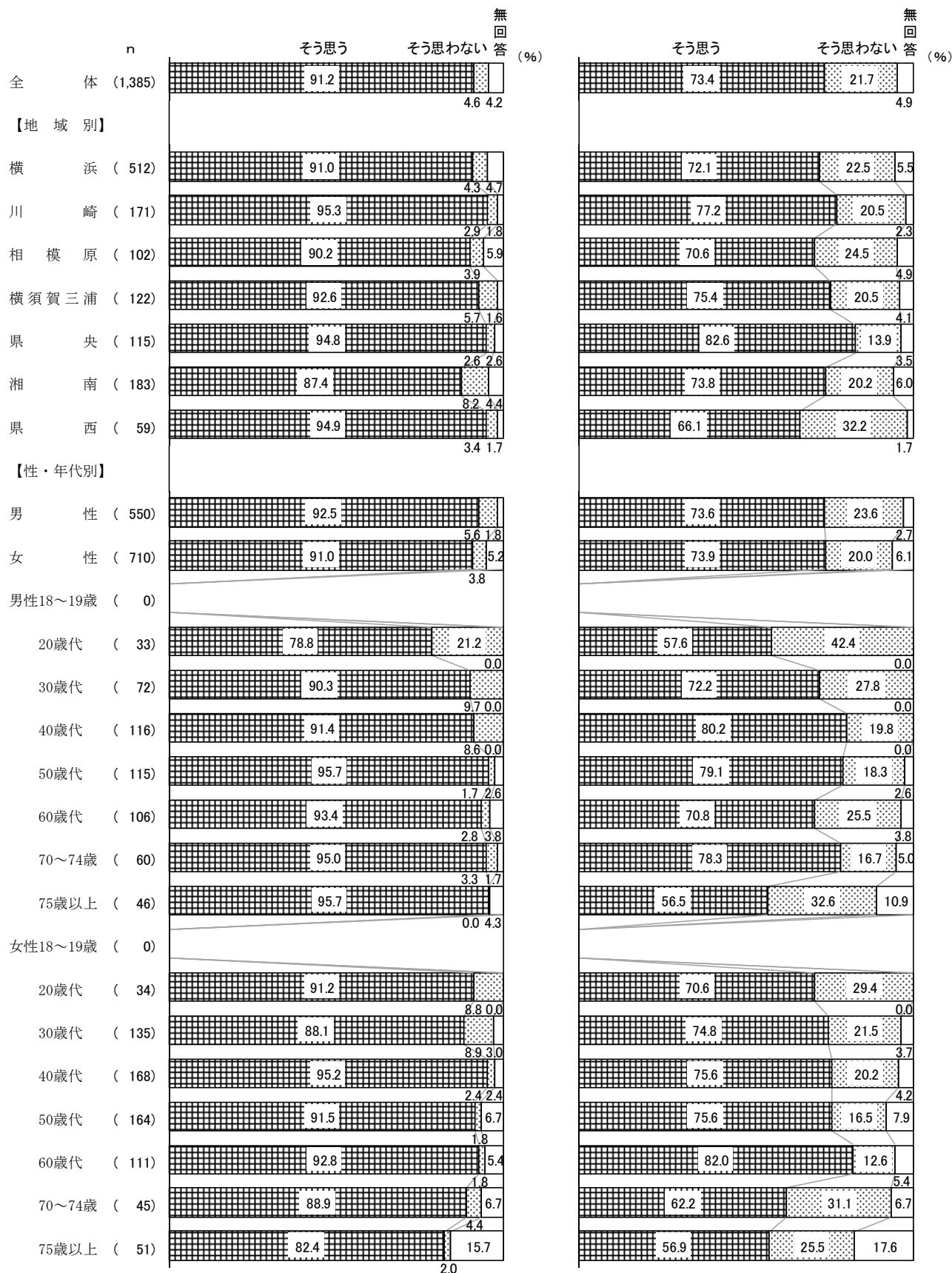
(4) 日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(5) 介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ

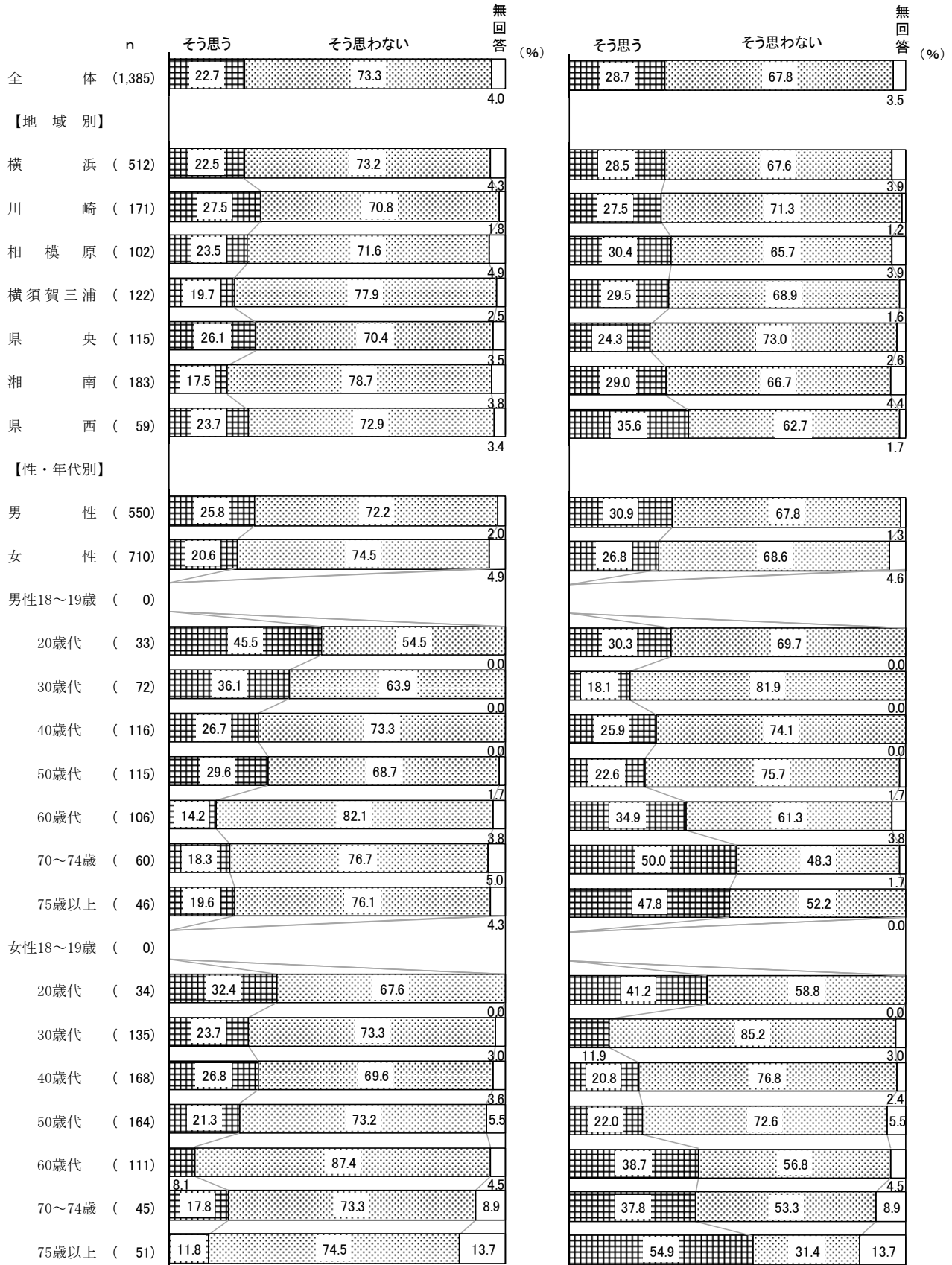
(6) 住居の造りや介護サービスの提供が今の様な状態の環境では、高齢者が安心して生活するのはむずかしい



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(7) 鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人によさしいまちになっている

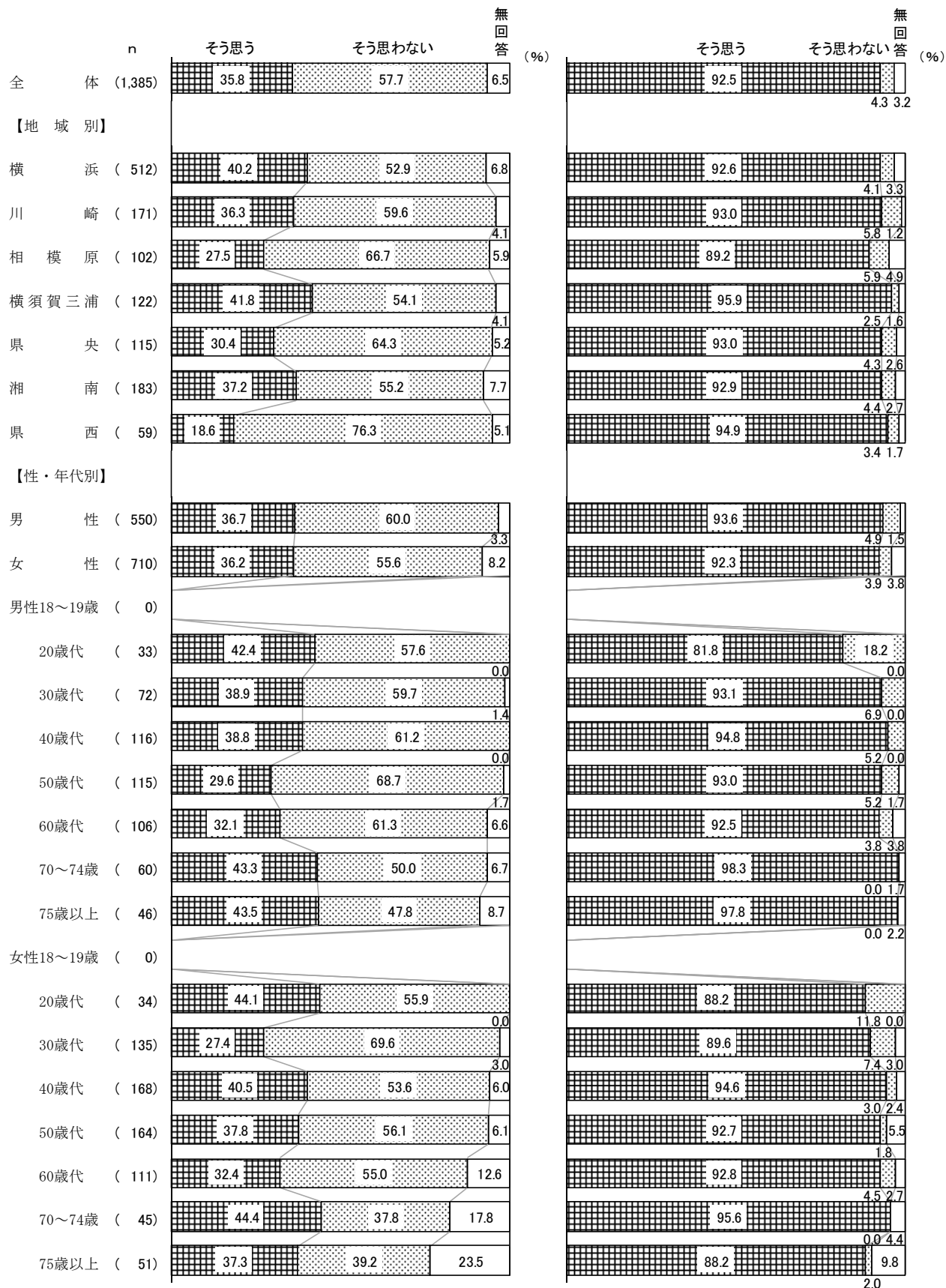
(8) 一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(9) 今後 10 年くらいの間に、かかりつけの医療から高度医療まで、地域医療のネットワーク化が進んでいる

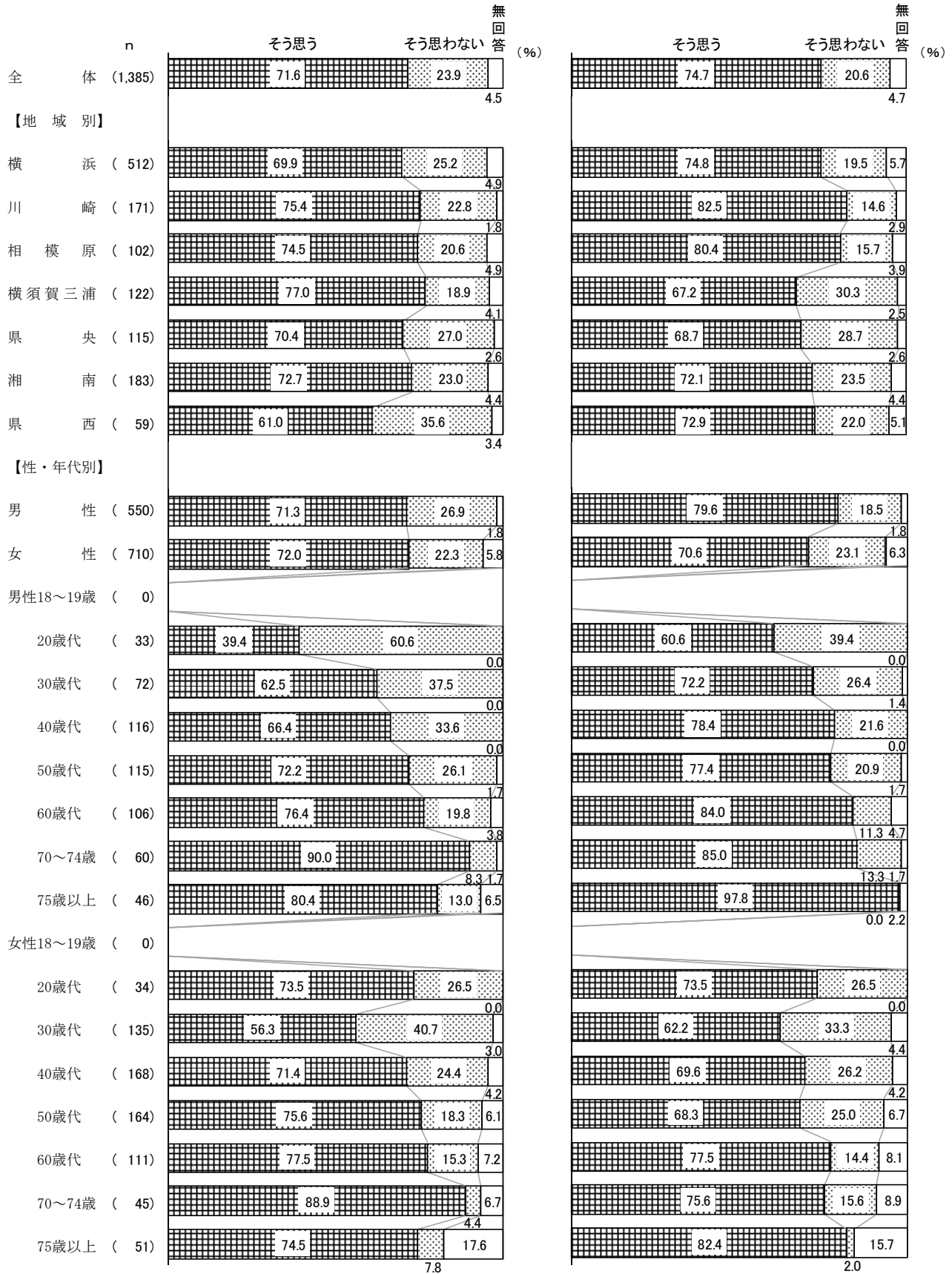
(10) 環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(11) 今より生活が不便になっても省エネには積極的に取り組むべきだ

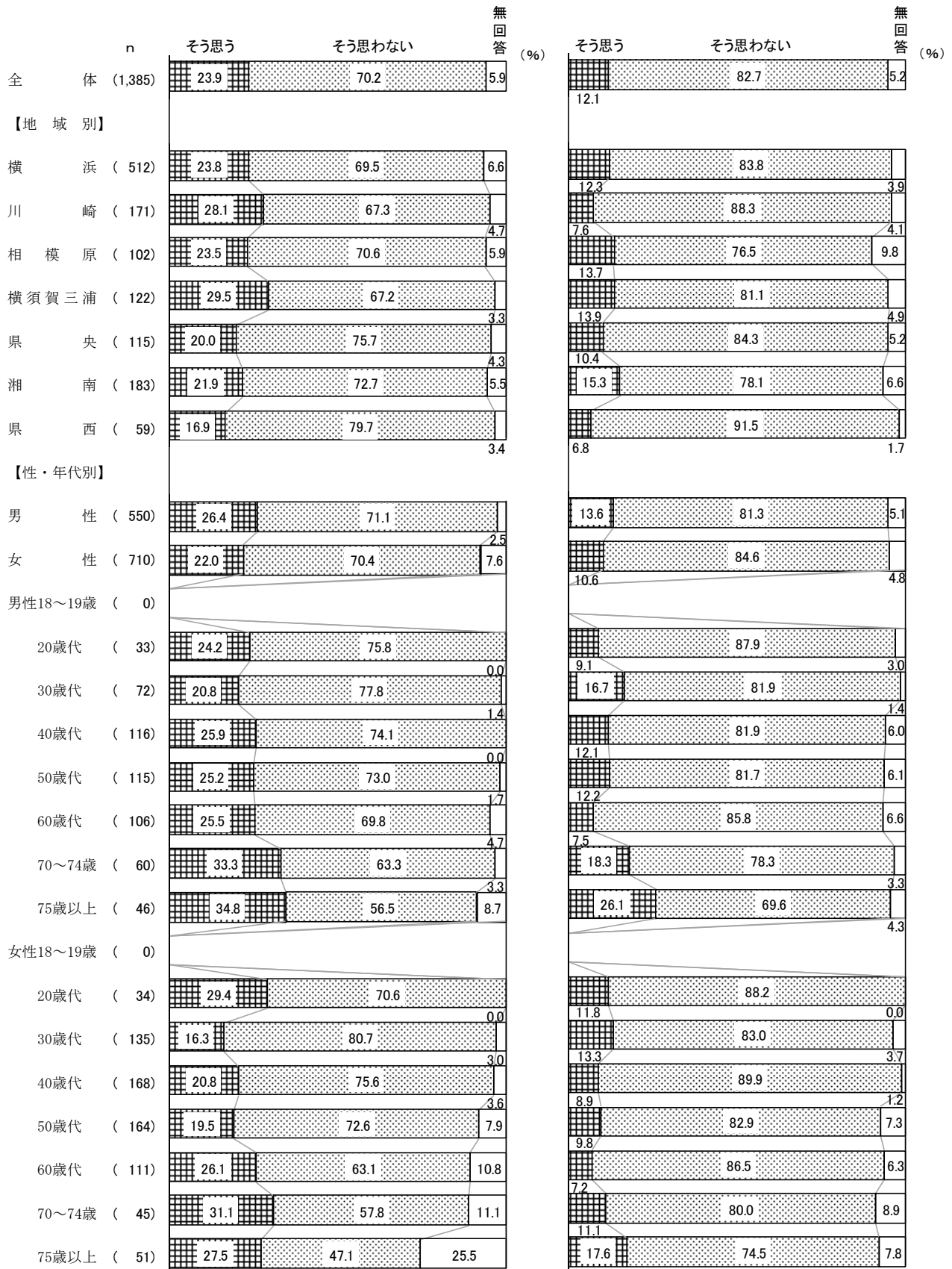
(12) 森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(13) 公益活動を行うNPOなどに
寄附をしてみたい

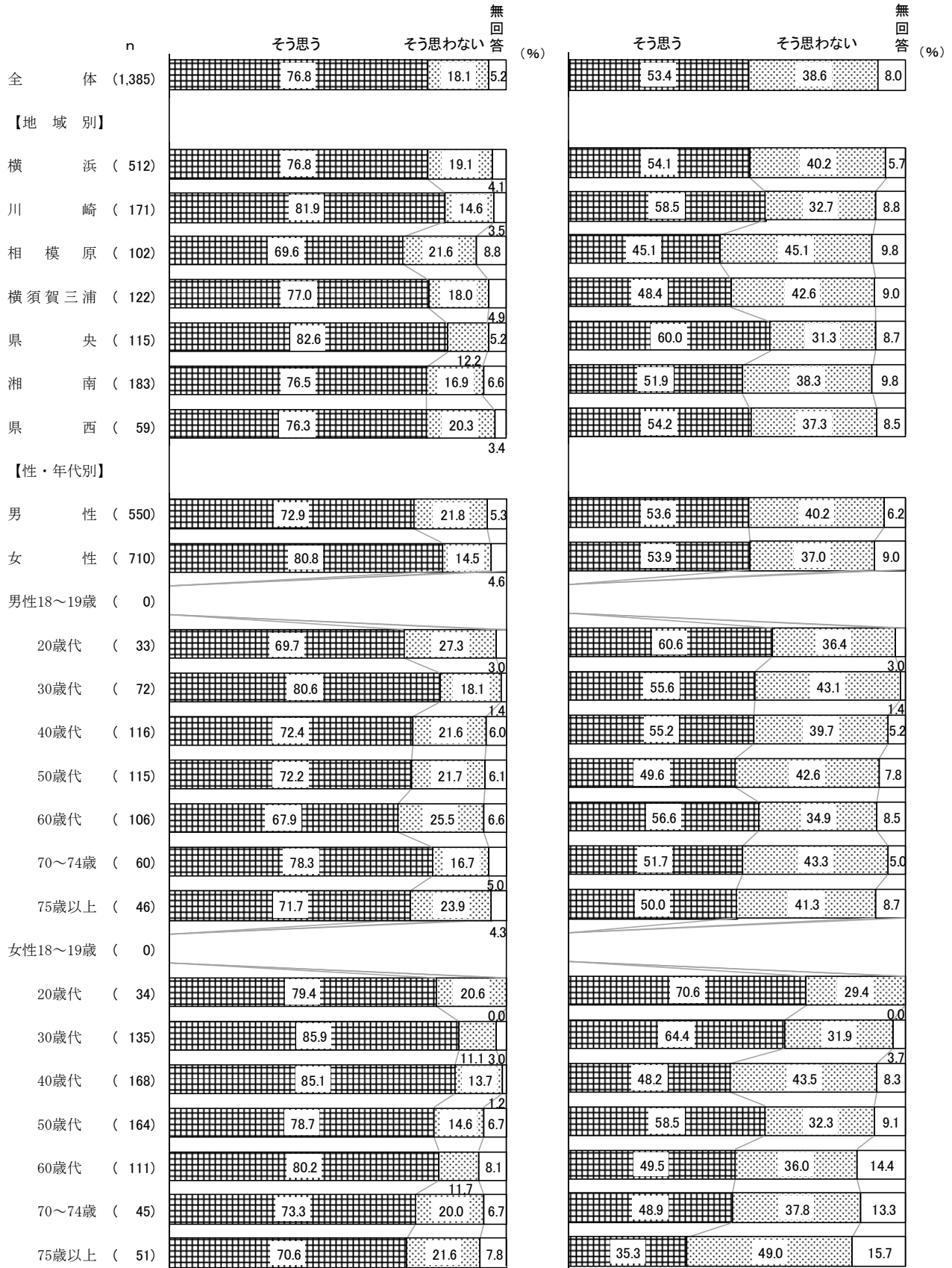
(14) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(15) 女性が働き続けるには、まだまだ
厳しい世の中だ

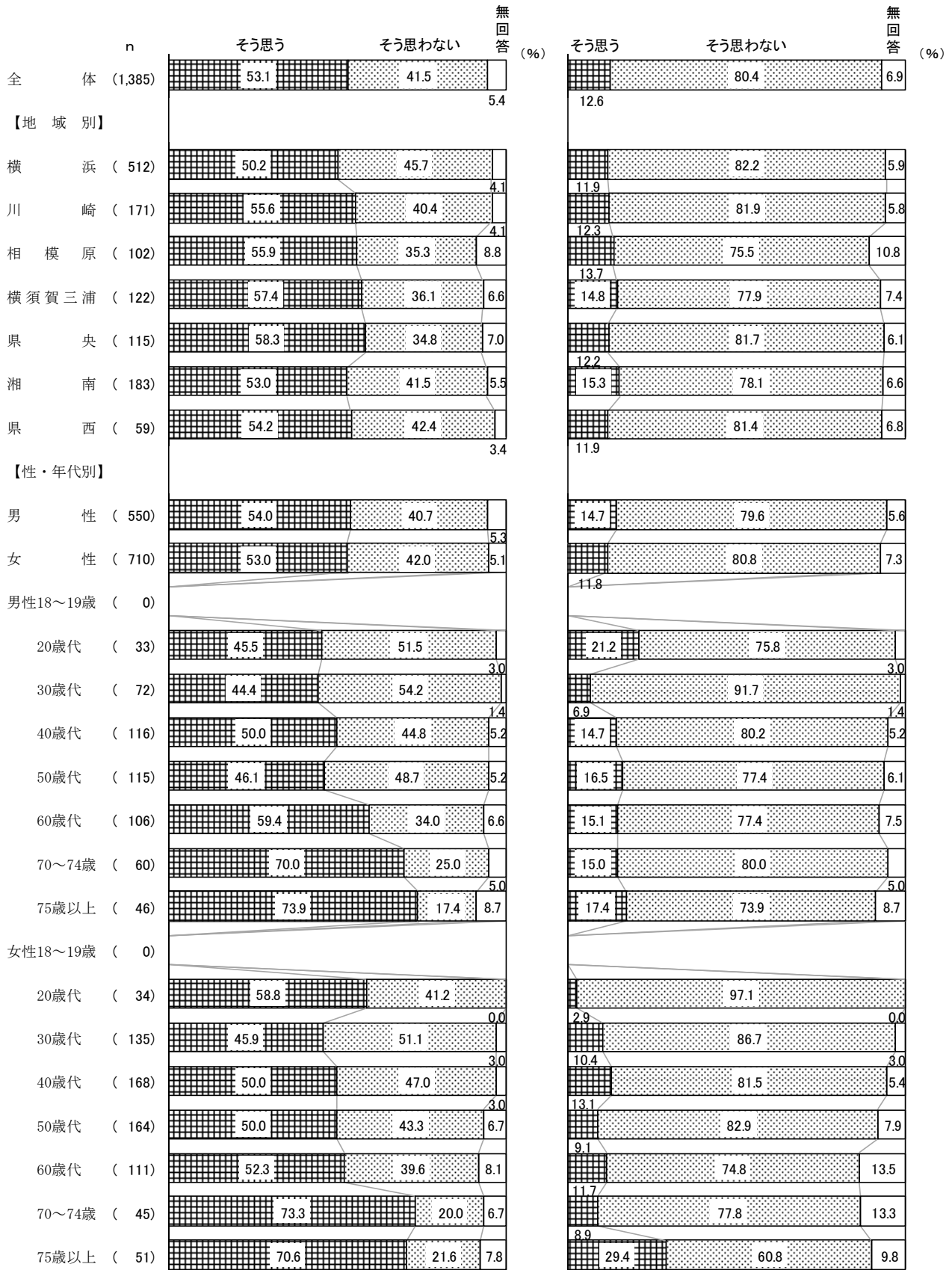
(16) 神奈川県で暮らす外国人も日本人と
同じような権利を持つべきだ



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(17) いじめや差別は、一人ひとりが思いやりの心を持ってばなくせるものだ

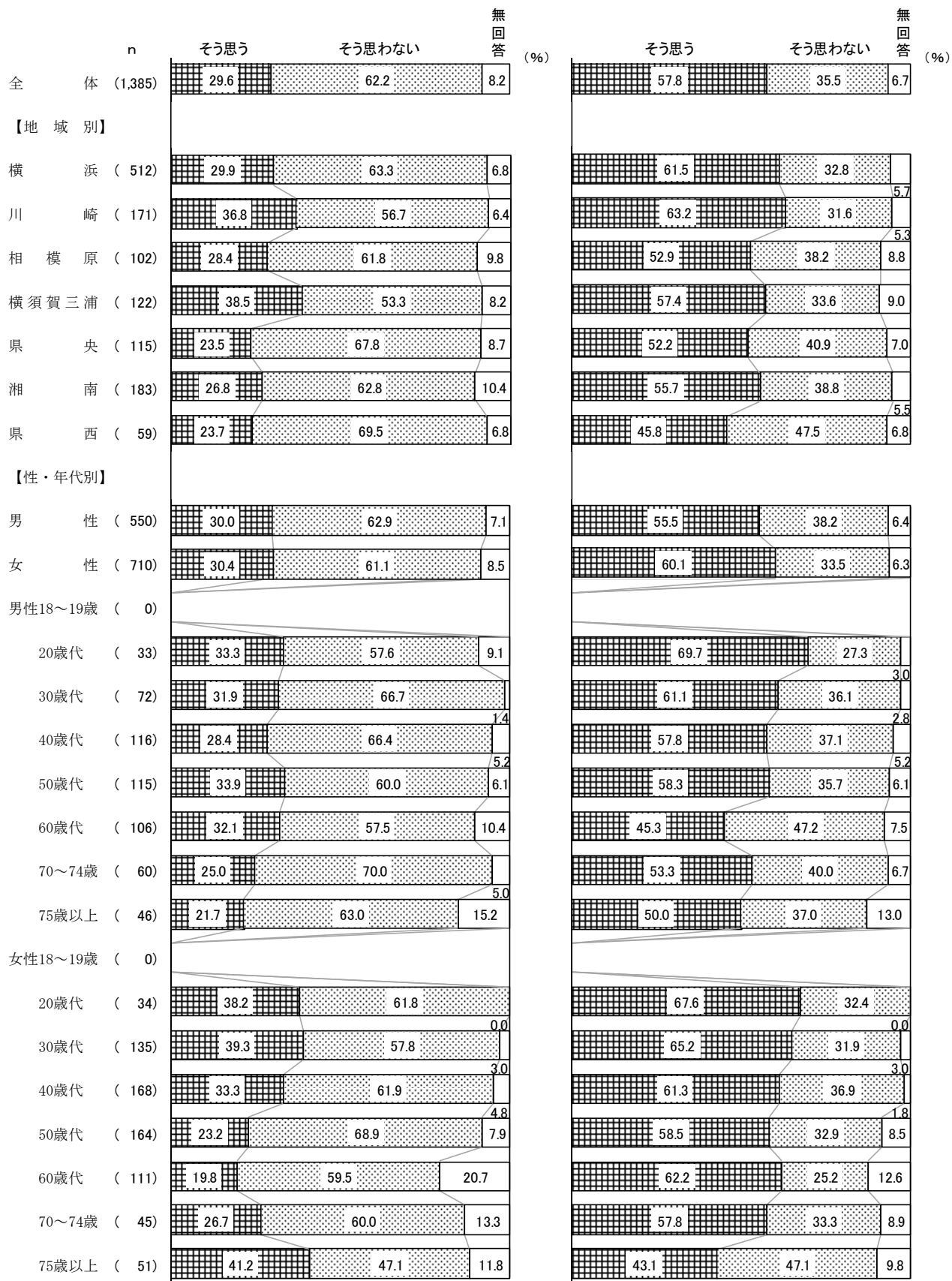
(18) 今後 10 年くらいの間に、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(19) 今後 10 年くらいの間に、外国人にとっても
暮らしやすい地域社会になっている

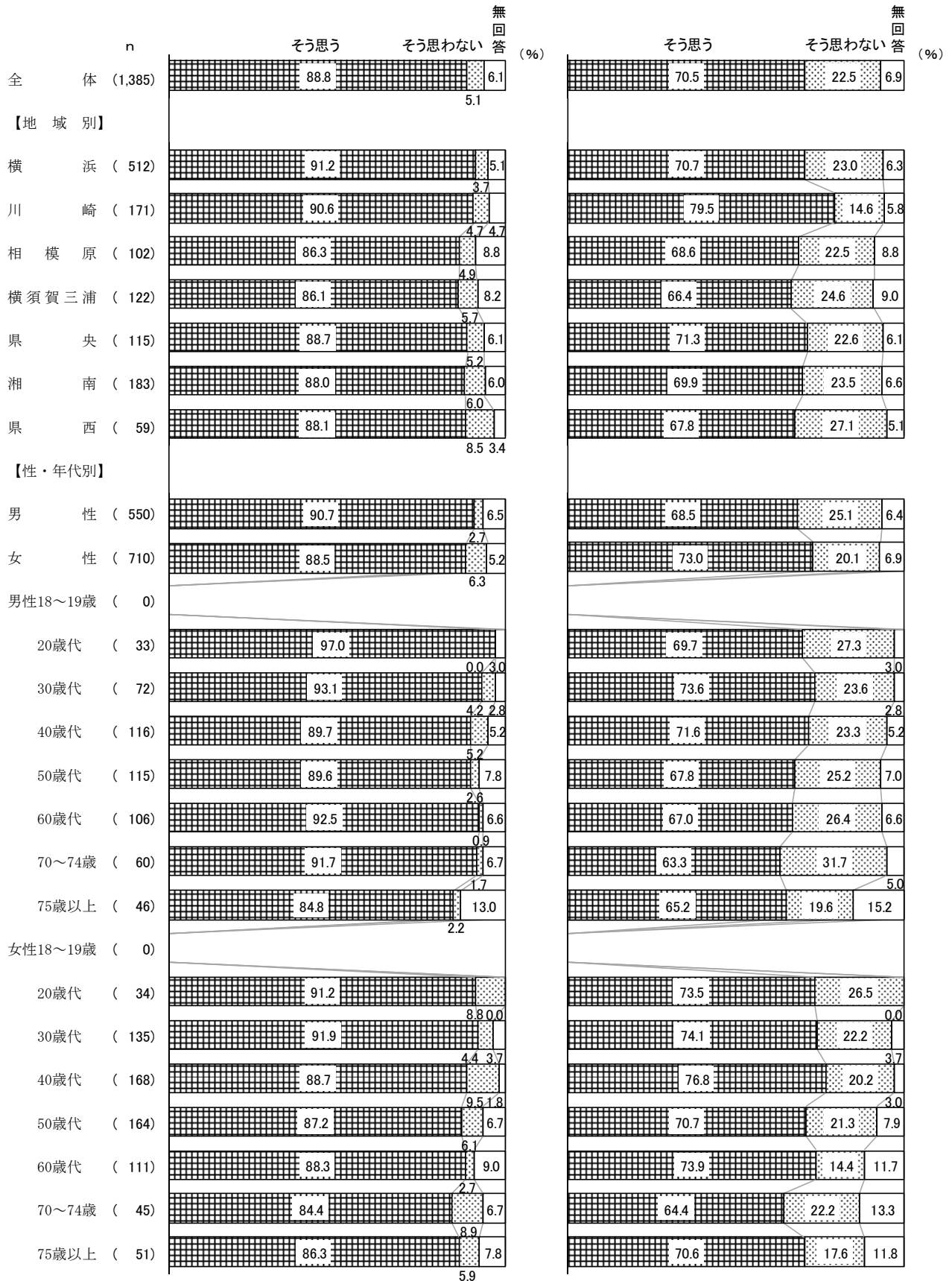
(20) 子どもを生み育てる環境が今のままでは、
子どもを持つのはむずかしい



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(21) 育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ

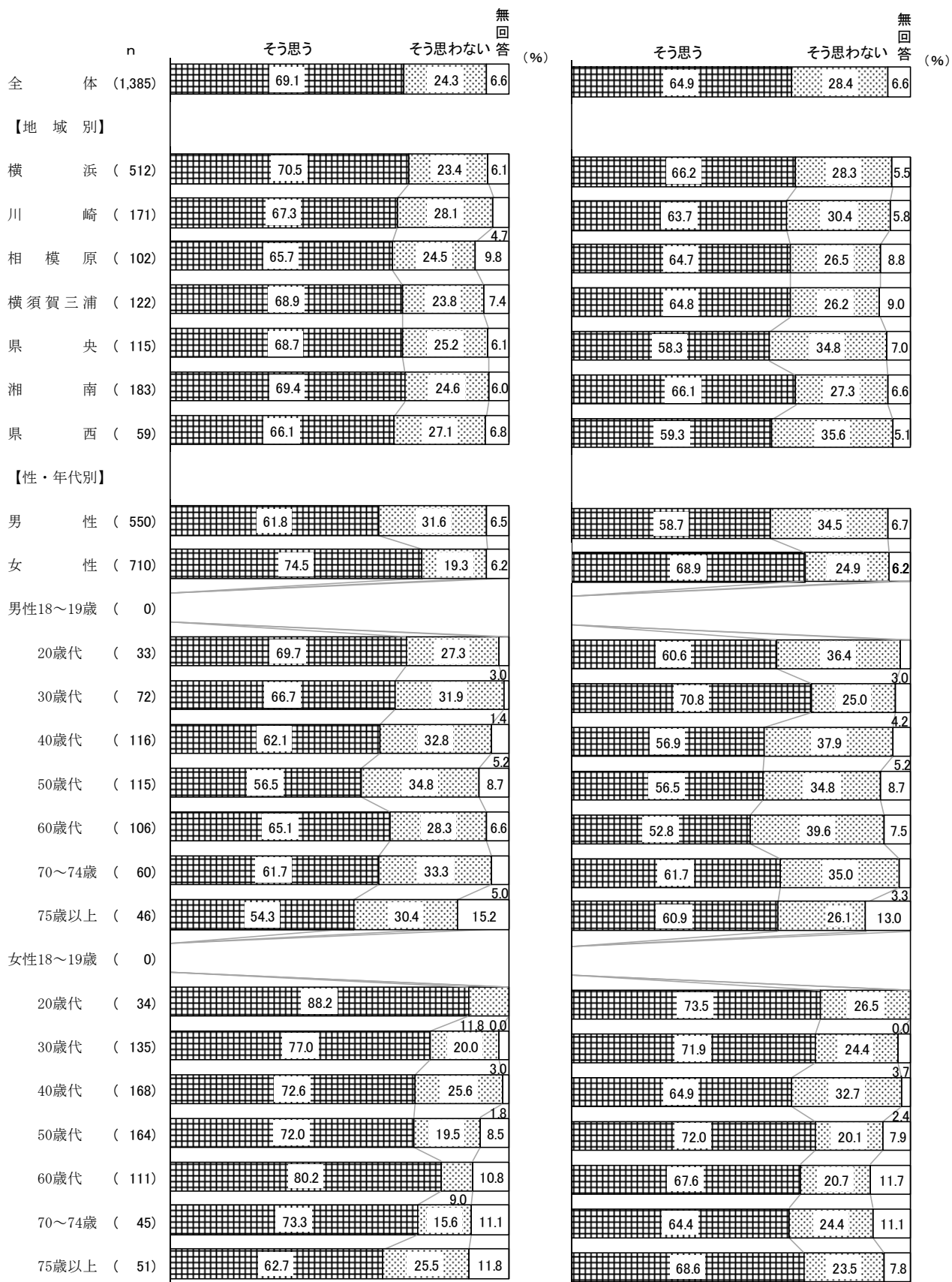
(22) 国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(23) 若者の「ひきこもり」など、青少年が自分自身の価値や存在感を実感しにくい世の中になっている

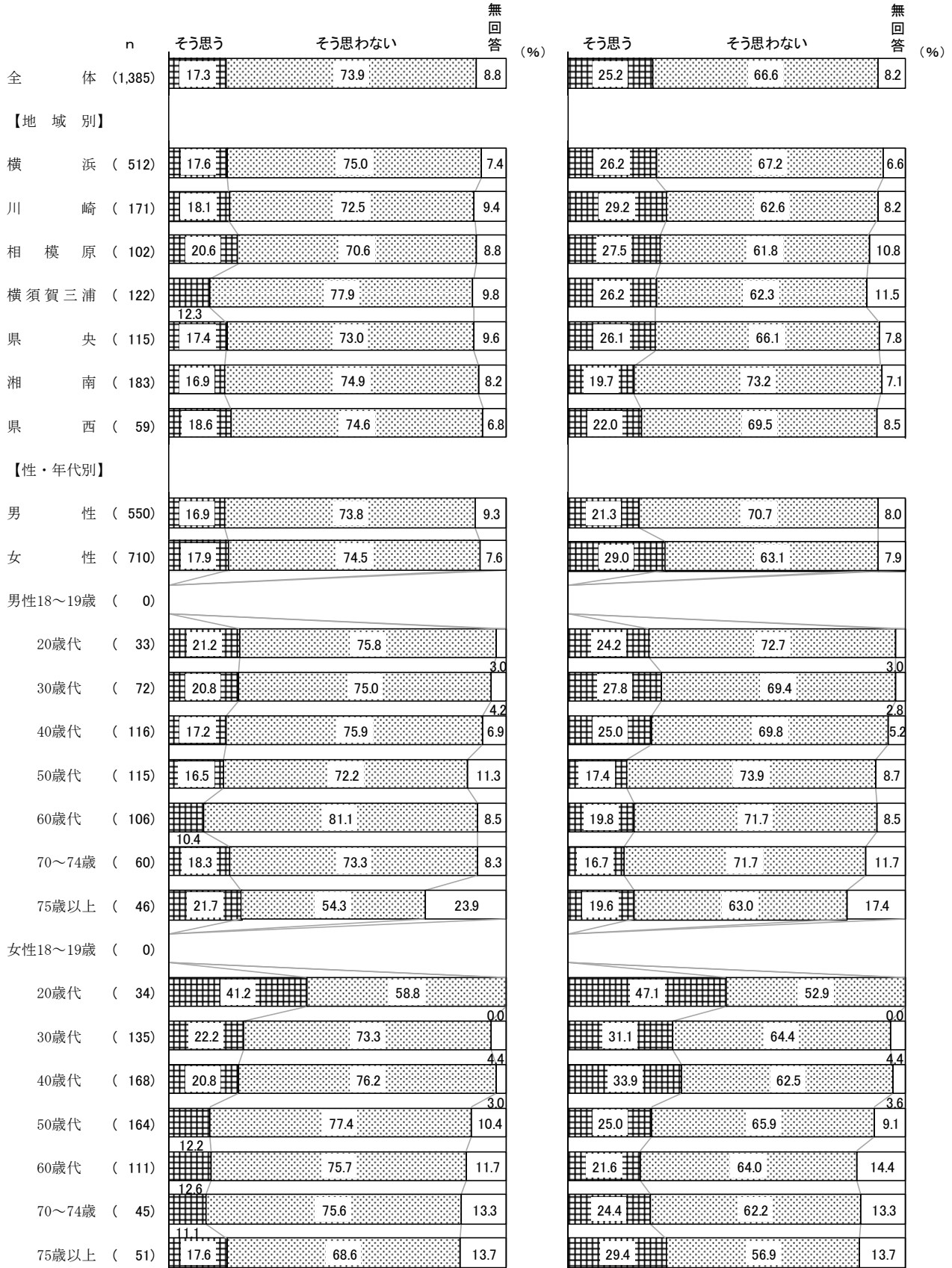
(24) 青少年をめぐる昨今問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(25) 教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている

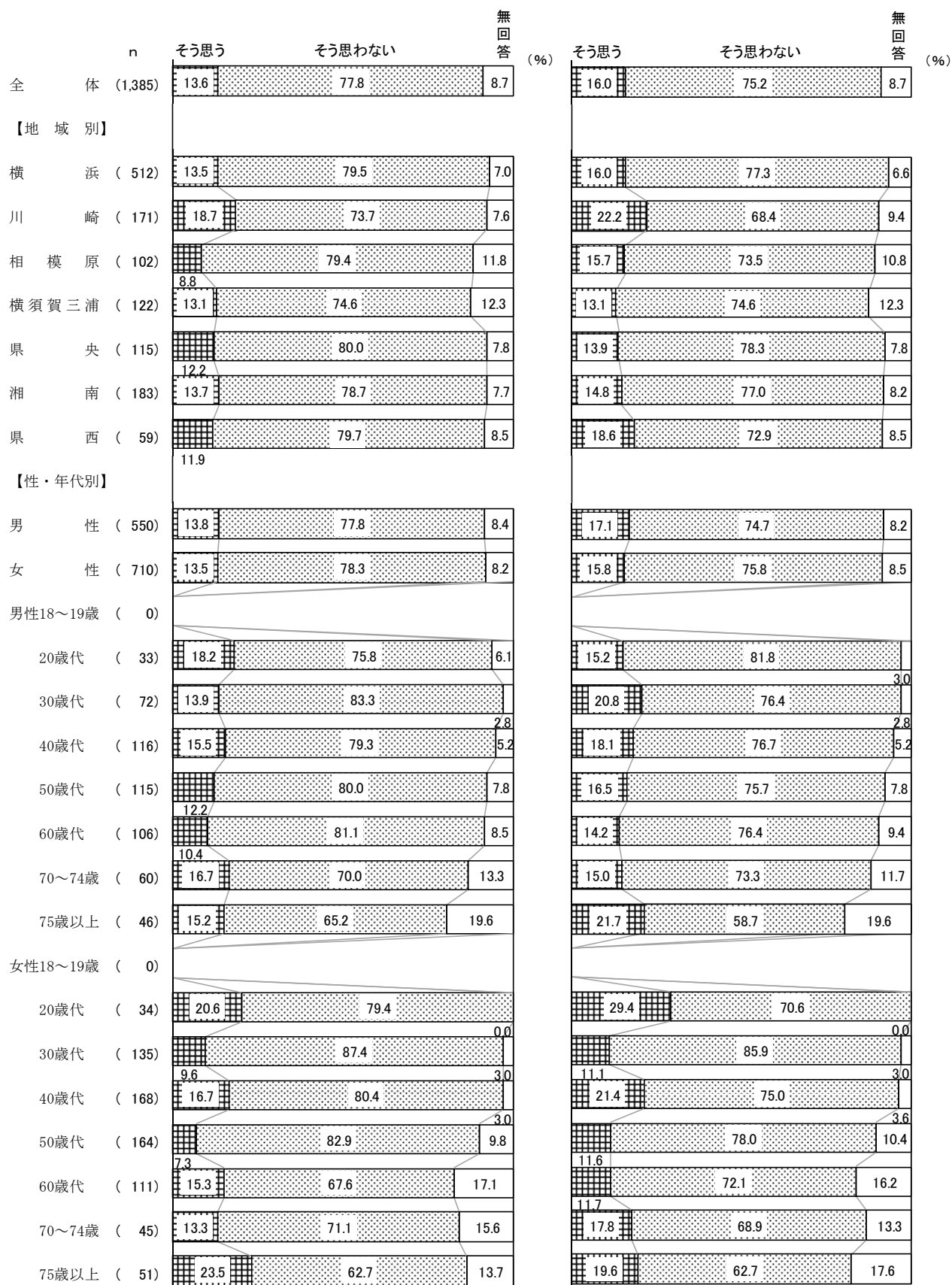
(26) 今後 10 年くらいの間に、不登校・ひきこもり等の子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(27) 今後 10 年くらいの間に、地域の大人が、
青少年の健やかな成長に責任を持つよう
になっている

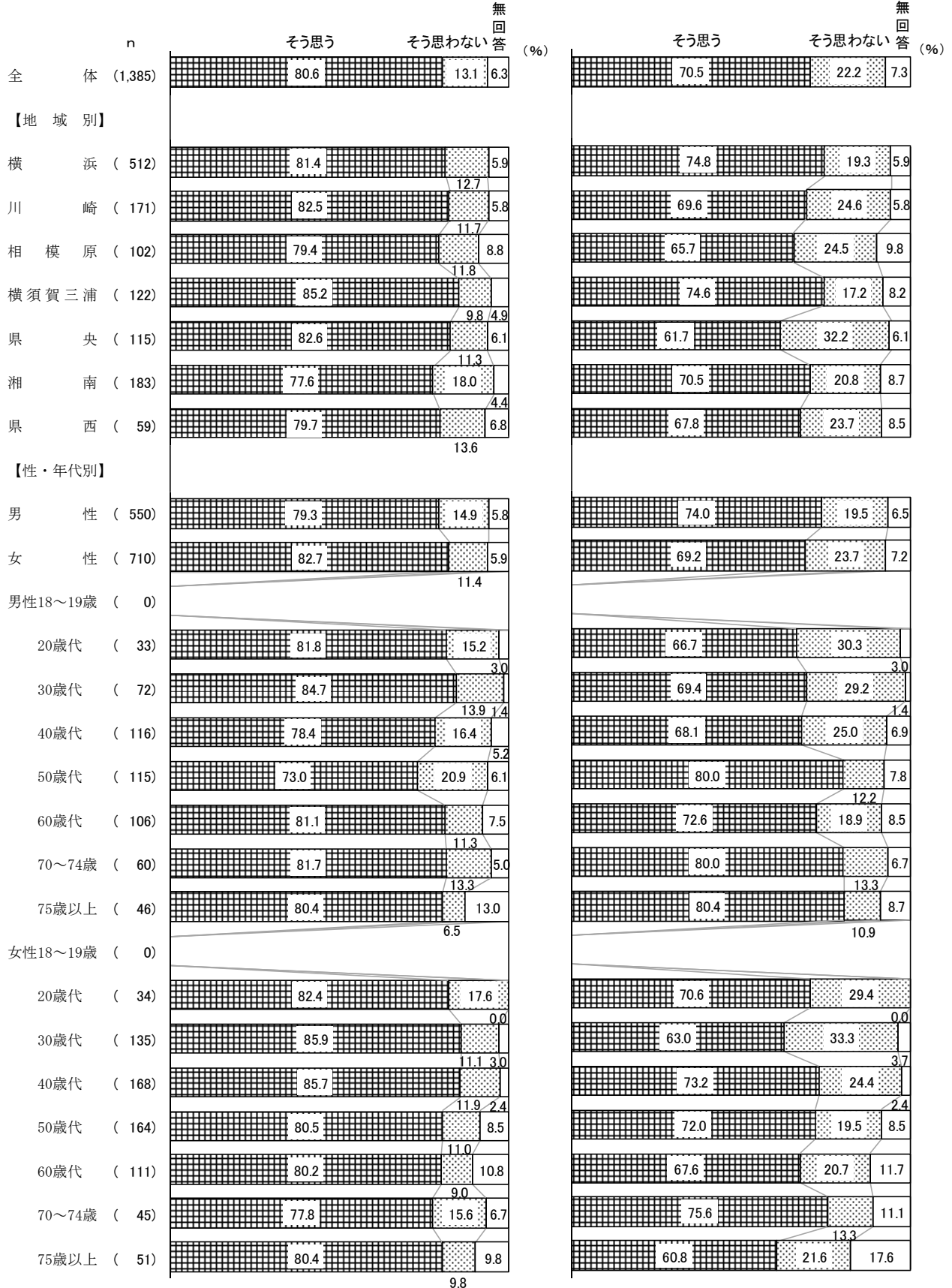
(28) 今後 10 年くらいの間に、子どもたちの
教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・
地域などが提携し県民全体で進めるよう
になっている



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(29) 県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい

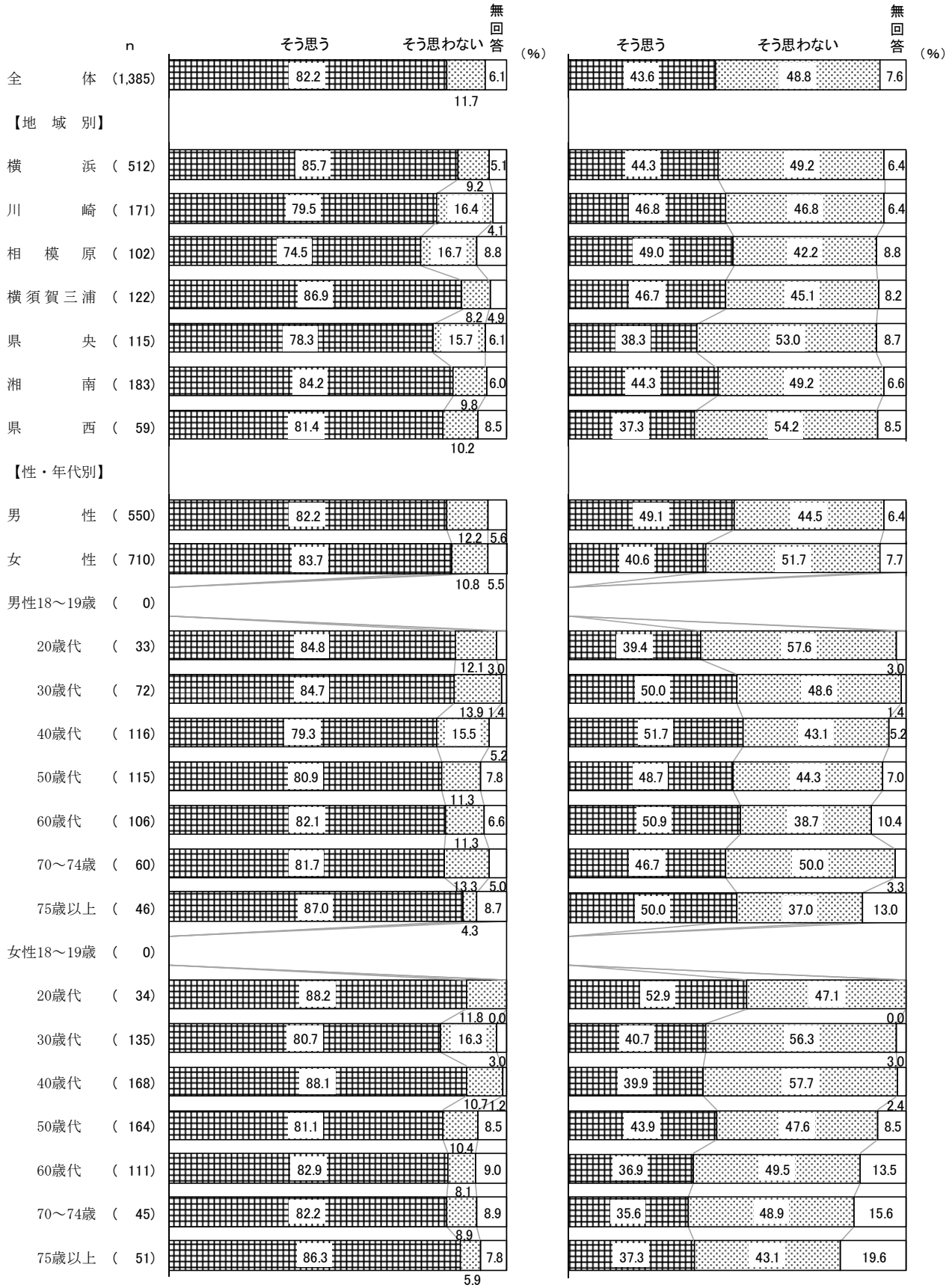
(30) 県内には、世界に発信できる魅力ある観光資源がある



図表2(4) 生活意識(地域別、性・年代別)(つづき)

(31) 神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ

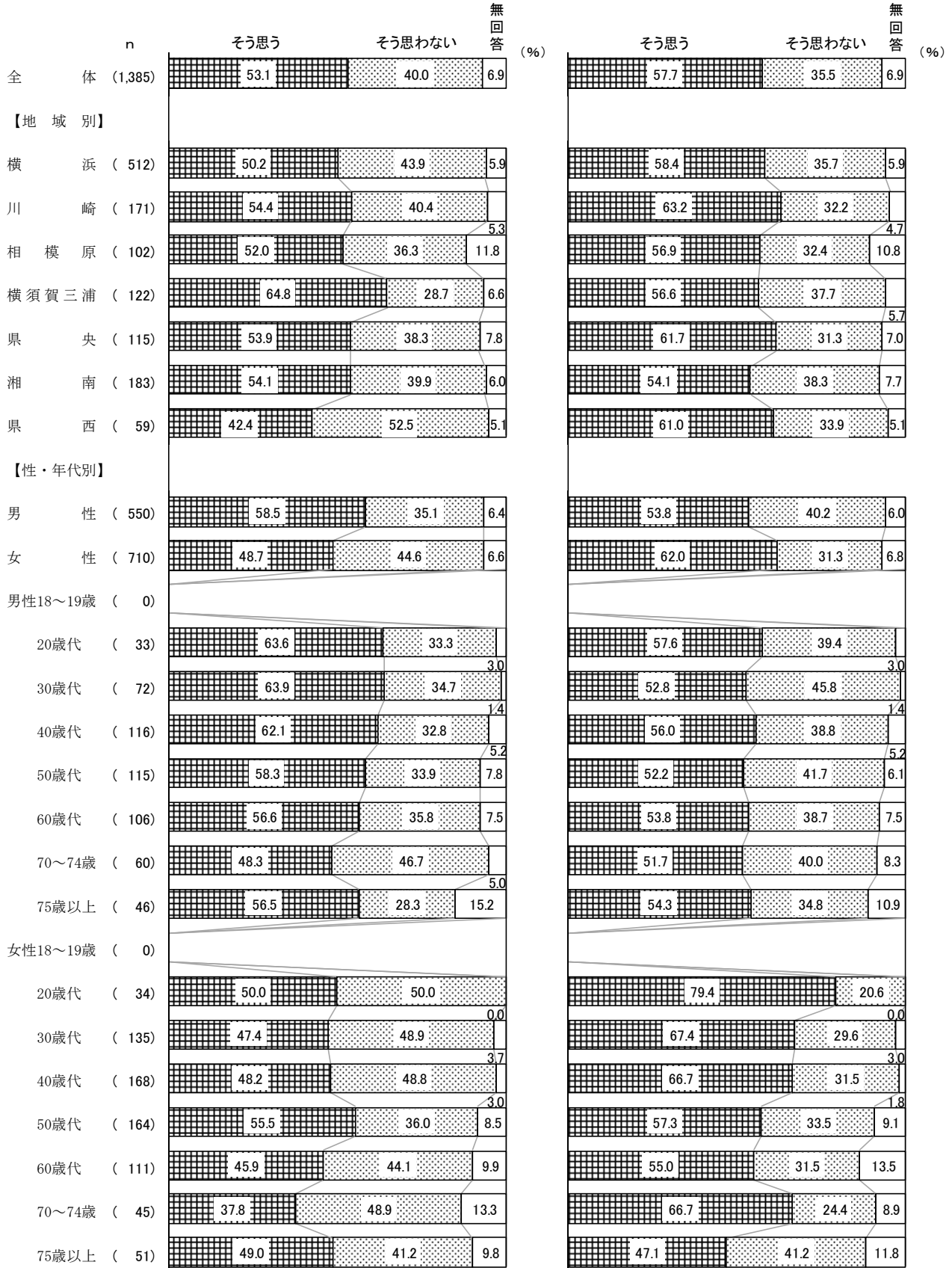
(32) まちなみ、歴史的建造物の保全や公園づくりなど、まちづくり関係の活動に参加してみたい



図表 2 (4) 生活意識 (地域別、性・年代別) (つづき)

(33) 県内では、交通渋滞が激しく自動車での移動が不便だ

(34) 今後 10 年くらいの間に、道路や公共交通網がさらに充実し、県内外への利便性がよくなっている



第3章 暮らしの満足度【問7】

1 生活重要度【問7】

身近な生活に関する44項目について、どの程度重要だと感じているかを尋ねた。項目ごとに重要度を「非常に重要である」から「まったく重要ではない」までの5段階で回答してもらった。

なお、回答選択肢は、「非常に重要である」「かなり重要である」「どちらともいえない」「さほど重要でない」「まったく重要ではない」の5区分に「わからない」を加えた6区分とした。

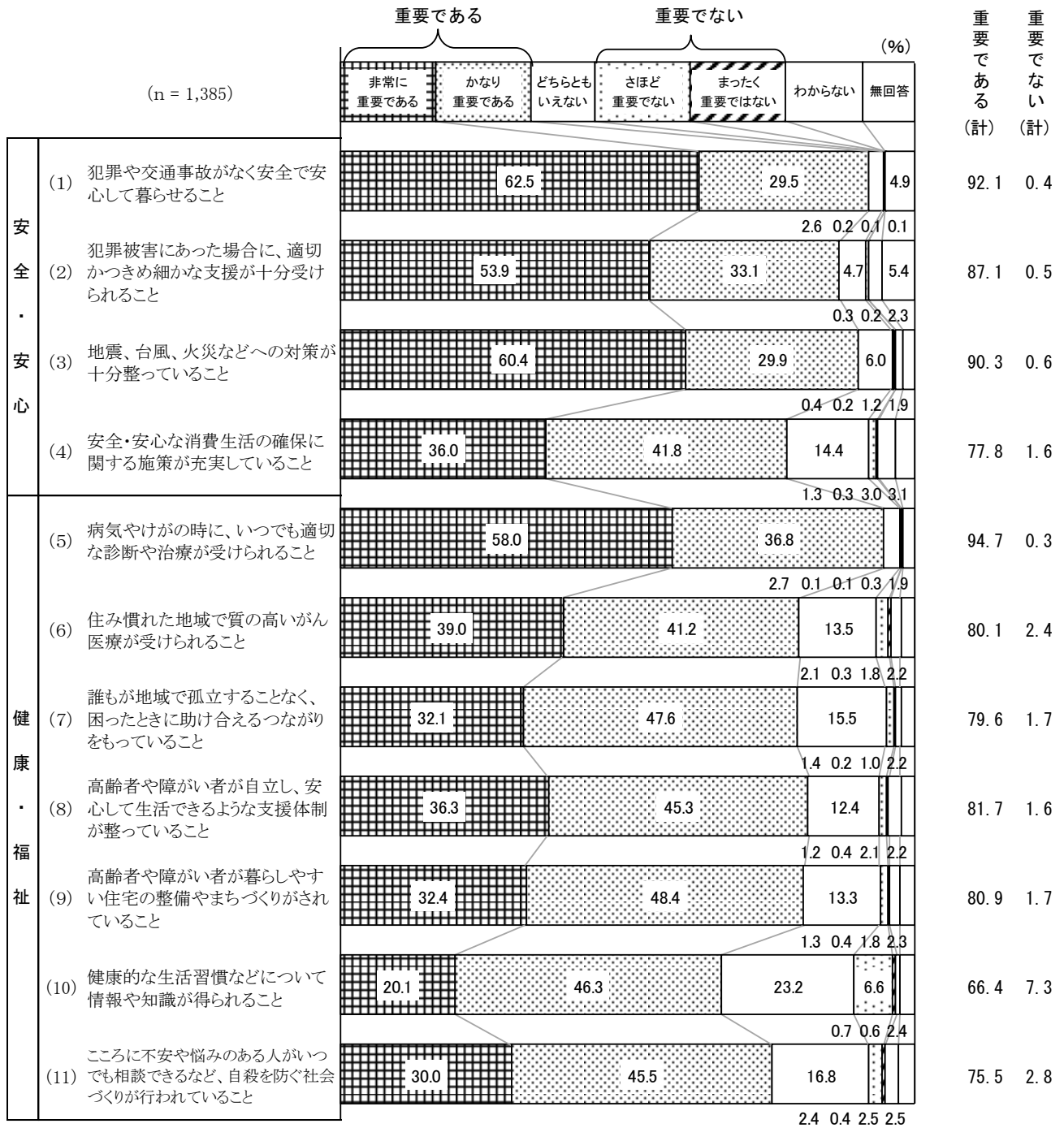
【全体の状況】

項目別の生活重要度の回答状況は、図表3-1-1に示すとおりである。

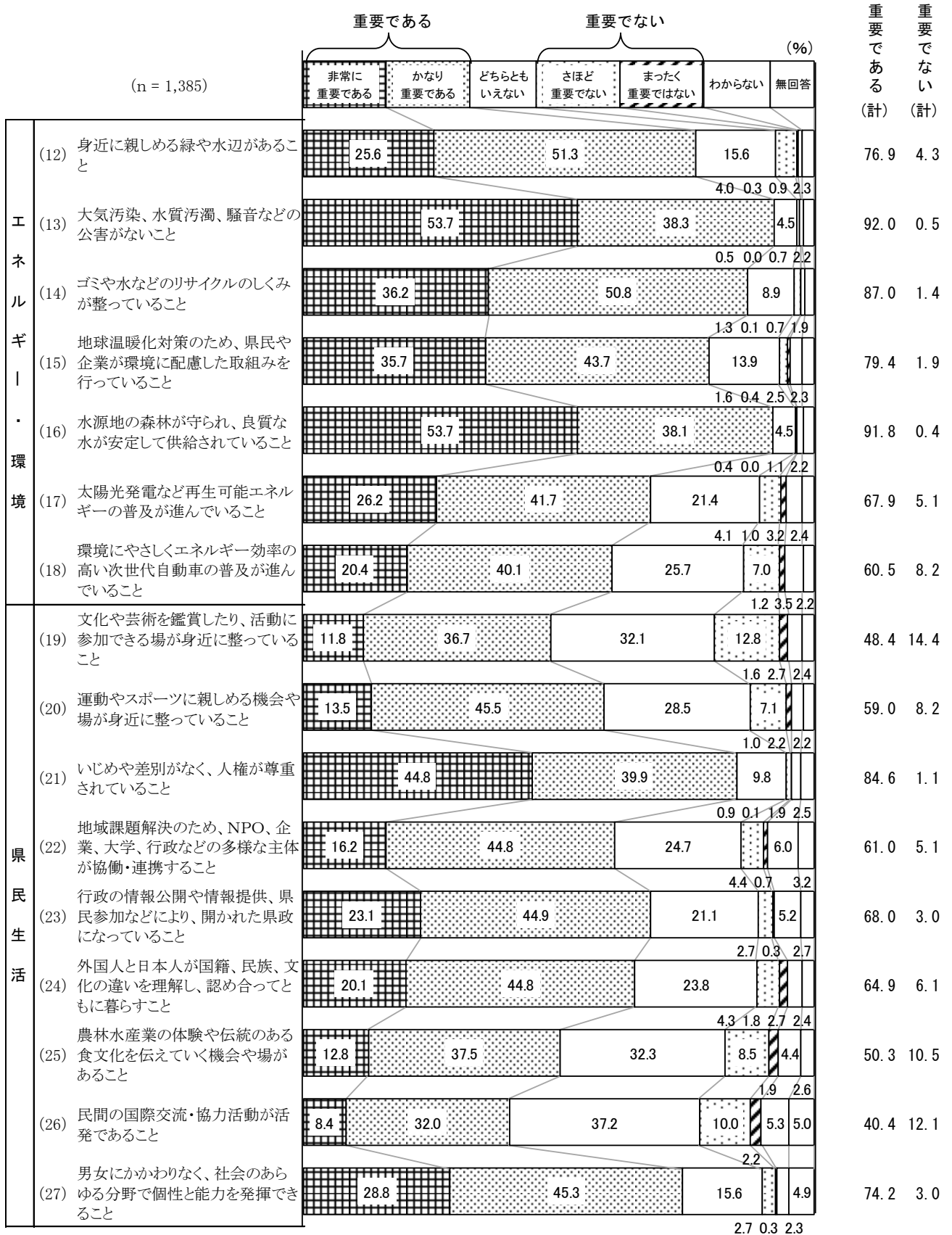
「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせた《重要である》と「さほど重要でない」と「まったく重要ではない」を合わせた《重要でない》を比較すると、すべての項目で《重要である》が《重要でない》を上回った。

《重要である》をみると、「(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」(94.7%)、「(1) 犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」(92.1%)、「(13) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと」(92.0%)、「(16) 水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること」(91.8%)、「(3) 地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」(90.3%)、「(40) 通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」(90.0%)がそれぞれ9割以上であった。(図表3-1-1)

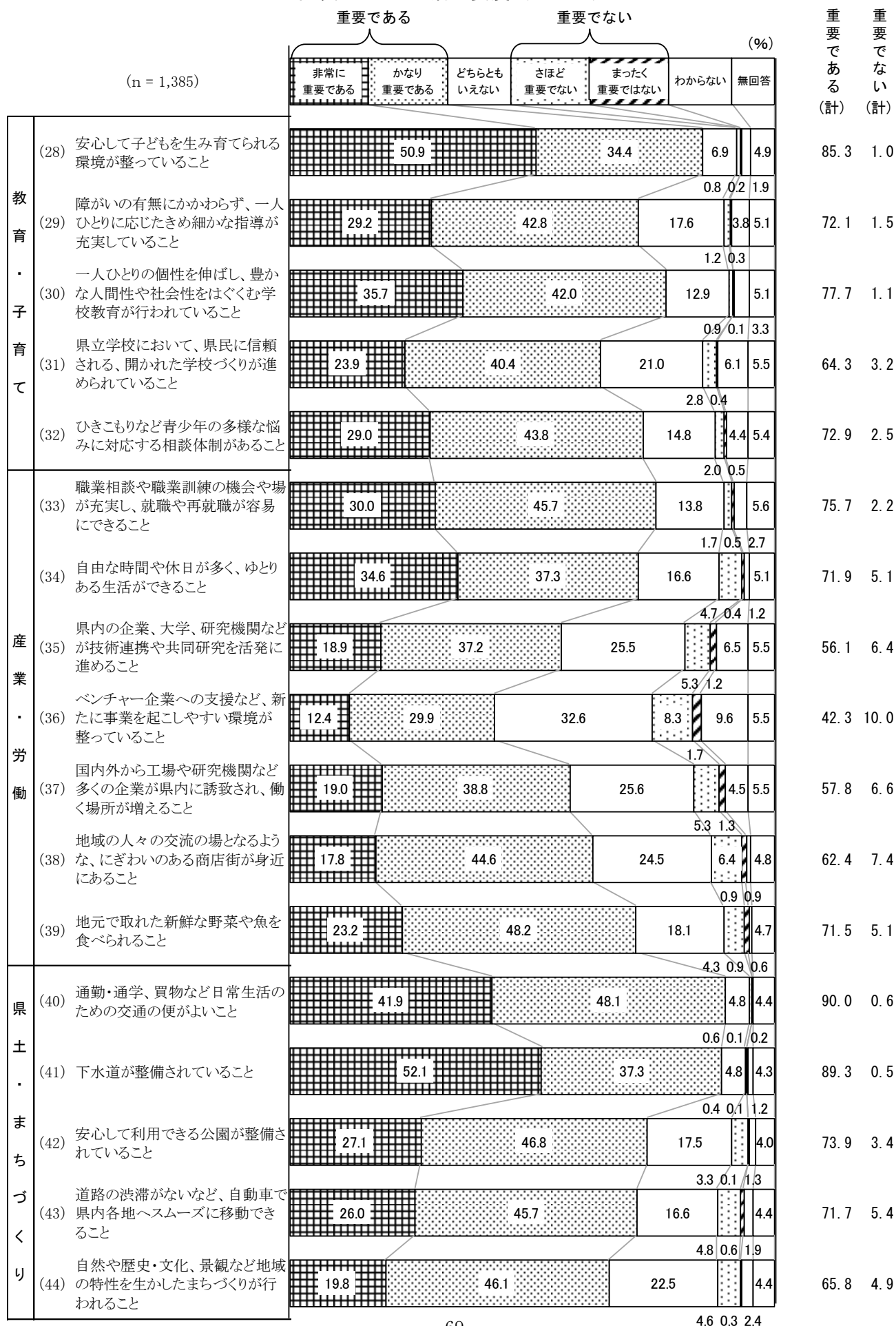
図表3-1-1 生活重要度



図表3-1-1 生活重要度（つづき）



図表3-1-1 生活重要度（つづき）



【過去との比較】

《重要である》の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回第2位であった「(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」が第1位となった。「(1) 犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」は、前回調査の第1位から第2位となった。(図表3-1-2)

図表3-1-2 生活重要度《重要である》の上位10項目－過去との比較

	平成27年度 (n = 1,386)	平成28年度 (n = 1,297)	平成29年度 (n = 1,382)	平成30年度 (n = 1,330)	令和元年度 (n = 1,385)
1位	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (96.3%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること (95.1%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること (94.6%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること (95.8%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (94.7%)
2位	犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること (96.0%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (94.1%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (93.8%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること (95.4%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること (92.1%)
3位	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	下水道が整備されていること (91.8%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと (91.4%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (92.9%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと (92.0%)
4位	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (92.6%)	食の安全が確保され、安心して食生活が送れること (90.8%)	食の安全が確保され、安心して食生活が送れること	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと (92.7%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (91.8%)
5位	食の安全が確保され、安心して食生活が送れること	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (90.8%)	看護師や介護職員などの人材が確保され、安心して保健・医療・福祉サービスが受けられること (92.0%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること (90.3%)
6位	下水道が整備されていること (91.1%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること (90.2%)	下水道が整備されていること (90.0%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること (91.5%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (90.0%)
7位	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること (90.7%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること (89.9%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	食の安全が確保され、安心して食生活が送れること (91.4%)	下水道が整備されていること (89.3%)
8位	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること (90.3%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (89.5%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (89.4%)	下水道が整備されていること (91.3%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること (87.1%)
9位	看護師や介護職員などの人材が確保され、安心して保健・医療・福祉サービスが受けられること (90.0%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること (89.2%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること (89.2%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (91.1%)	ゴミや水などのリサイクルのしくみが整っていること (87.0%)
10位	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと (89.5%)	看護師や介護職員などの人材が確保され、安心して保健・医療・福祉サービスが受けられること (87.8%)	看護師や介護職員などの人材が確保され、安心して保健・医療・福祉サービスが受けられること (89.1%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること (90.7%)	安心して子どもを生育てられる環境が整っていること (85.3%)

※各項目の過去との比較については、図表A (117～127ページ) を参照

【地域別の状況】

《重要である》の上位項目について地域別にみると、県全体で《重要である》の第1位となった「(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」は、県西(96.6%)を除く6地域で第1位となった。県全体で第3位の「(13) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと」は、県西が98.3%で第1位となった。(図表3-1-3)

図表3-1-3 生活重要度《重要である》の上位項目－地域別

(番号) 設問 地域 上段：順位 下段：(%)	(5)	(1)	(13)	(16)	(3)	(40)	(41)	(14)	(28)
	な病 診気 断や けが 治の 療時 がに 受い けらつ れるても 適切	し犯 て罪 暮や らせ せ交 せる通 こと事 故が なく 安全 で安 心	公大 害気 が汚 ない染、 水質 汚濁、 騒音 などの	が水 安源地 定し しての 森林 が守 られ 、良 質な 水	十地 分震、 台風、 火災 など への 対策 が	た通 勤勤 の・通 交学、 便買 が物 よなど い日 常生 活の	下 水水道 道が 整備 され てい ること	みゴ がミ 整や つ水 てな いど の リ サイ クル の しく	る安 環心 境して が整 つて子 ども を 生 み 育 て られ
全 体 (n=1,385)	① 94.7	② 92.1	③ 92.0	④ 91.8	⑤ 90.3	⑥ 90.0	⑦ 89.3	⑨ 87.0	⑩ 85.3
横 浜 (n= 512)	① 95.7	③ 93.8	④ 91.8	② 93.9	⑤ 90.6				
川 崎 (n= 171)	① 95.9	③ 94.2	③ 94.2	⑤ 93.0		⑤ 93.0	② 94.7		
相模原 (n= 102)	① 95.1		② 94.1	⑤ 91.2		③ 93.1	③ 93.1		
横須賀三浦 (n= 122)	① 96.7		② 94.3	③ 93.4	⑤ 91.8	③ 93.4			
県 央 (n= 115)	① 95.7	② 91.3	③ 90.4	③ 90.4	③ 90.4	③ 90.4	③ 90.4		③ 90.4
湘 南 (n= 183)	① 95.1	④ 92.3	② 93.4	③ 92.9	⑤ 91.3				
県 西 (n= 59)	② 96.6	② 96.6	① 98.3		② 96.6			⑤ 94.9	

※各項目の地域別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査 : <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

【性・年代別の状況】

《重要である》の上位項目について性・年代別にみると、県全体で《重要である》の第1位となった「(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」は、男性の20歳代(97.0%)・30歳代(100.0%)・40歳代(94.8%)・50歳代(95.7%)・60歳代(97.2%)・70～74歳(95.0%)及び女性の30～50歳代(94.5%～97.6%)で同率も含めて第1位となった。県全体で第2位の「(1) 犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」は、女性の20歳代(100.0%)・75歳以上(94.1%)で同率も含めて第1位となった。県全体で第3位の「(13) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと」は、女性の50歳代(94.5%)・60歳代(97.3%)で同率も含めて第1位となった。県全体で第4位の「(16) 水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること」は、男性の60歳代(97.2%)と女性の20歳代(100.0%)・70～74歳(100.0%)で同率も含めて第1位となった。(図表3-1-4)

図表3-1-4 生活重要度《重要である》の上位項目－性・年代別

(番号) 設問	(5)	(1)	(13)	(16)	(3)	(40)	(41)	(2)	(14)	(28)	(7)	(34)	(39)
	断病 や気 治療 やけ がの 時に 、い つで も適 切な 診 断 や 治 療 が 受 け ら れ る こ と	暮 ら せ る こ と 犯 罪 や 交 通 事 故 が な く 安 全 で 安 心 し て 暮 ら せ る こ と	大 気 汚 染 、 水 質 汚 濁 、 騒 音 な ど の 公 害 が な い こ と	水 源 地 の 森 林 が 守 ら れ 、 良 質 な 水 が 安 定 し て 供 給 さ れ て い る こ と	地 震 、 台 風 、 火 災 な ど へ の 対 策 が 十 分 整 つ て い る こ と	の 通 勤 ・ 通 学 、 買 物 な ど 日 常 生 活 の た め の 交 通 の 便 が よ い こ と	下 水 道 が 整 備 さ れ て い る こ と	め め 細 か な 支 援 が 十 分 受 け ら れ る こ と 犯 罪 被 害 に あ つ た 場 合 に 、 適 切 か つ き	整 つ て い る こ と ゴ ミ や 水 な ど の リ サ イ ク ル の し く み が	が 安 心 し て 子 ど も を 生 み 育 て ら れ る 環 境 が 整 つ て い る こ と	誰 も が 地 域 で 孤 立 す る こ と な く 、 困 つ た と き に 助 け 合 え る つ な が り を も つ て い る こ と	生 活 が で き る こ と 自 由 な 時 間 や 休 日 が 多 く 、 ゆ と り あ る	地 元 で 取 れ た 新 鮮 な 野 菜 や 魚 を 食 べ ら れる こ と
全 体 (n=1,385)	① 94.7	② 92.1	③ 92.0	④ 91.8	⑤ 90.3	⑥ 90.0	⑦ 89.3	⑧ 87.1	⑨ 87.0	⑩ 85.3	⑪ 79.6	⑫ 71.9	⑬ 71.5
男 性 (n= 550)	① 95.8	② 91.5	④ 91.3	② 91.5	⑤ 89.3								
女 性 (n= 710)	① 95.6	④ 93.7	② 94.4	③ 94.2	⑤ 92.1								
男 性18～19歳 (n= 0)													
20歳代 (n= 33)	① 97.0		④ 93.9			④ 93.9				① 97.0		① 97.0	
30歳代 (n= 72)	① 100.0	② 93.1	⑤ 90.3		② 93.1		② 93.1			⑤ 90.3			
40歳代 (n= 116)	① 94.8	⑤ 88.8			④ 89.7	② 92.2				③ 90.5			
50歳代 (n= 115)	① 95.7	② 93.0	② 93.0	② 93.0			⑤ 89.6	⑤ 89.6					
60歳代 (n= 106)	① 97.2	⑤ 92.5	③ 96.2	① 97.2	④ 95.3								
70～74歳 (n= 60)	① 95.0	④ 90.0	④ 90.0	③ 91.7					① 95.0				
75歳以上 (n= 46)	④ 89.1	③ 91.3	④ 89.1	④ 89.1		② 93.5	① 97.8						
女 性18～19歳 (n= 0)													
20歳代 (n= 34)	③ 97.1	① 100.0	⑤ 94.1	① 100.0	⑤ 94.1	③ 97.1							
30歳代 (n= 135)	① 96.3	④ 94.8		③ 95.6	⑤ 93.3	① 96.3							
40歳代 (n= 168)	① 97.6	② 96.4	② 96.4	⑤ 94.0	④ 94.6								
50歳代 (n= 164)	① 94.5		① 94.5	③ 93.3	⑤ 91.5		④ 92.1						
60歳代 (n= 111)	② 95.5	⑤ 91.9	① 97.3	③ 94.6	③ 94.6				⑤ 91.9				
70～74歳 (n= 45)	② 97.8		② 97.8	① 100.0			② 97.8		⑤ 95.6		⑤ 95.6		
75歳以上 (n= 51)	③ 88.2	① 94.1				④ 86.3	② 90.2	④ 86.3					④ 86.3

※各項目の性・年代別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。
(県民ニーズ調査 : <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

2 生活満足度【問7】

「生活重要度」で尋ねた項目と同じ44項目について、どの程度満たされていると感じているかを尋ねた。項目ごとに「十分満たされている」から「ほとんど満たされていない」までの5段階で回答してもらった。

なお、回答選択肢は「十分満たされている」「かなり満たされている」「どちらともいえない」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」の5区分に「わからない」を加えた6区分とした。

【全体の状況】

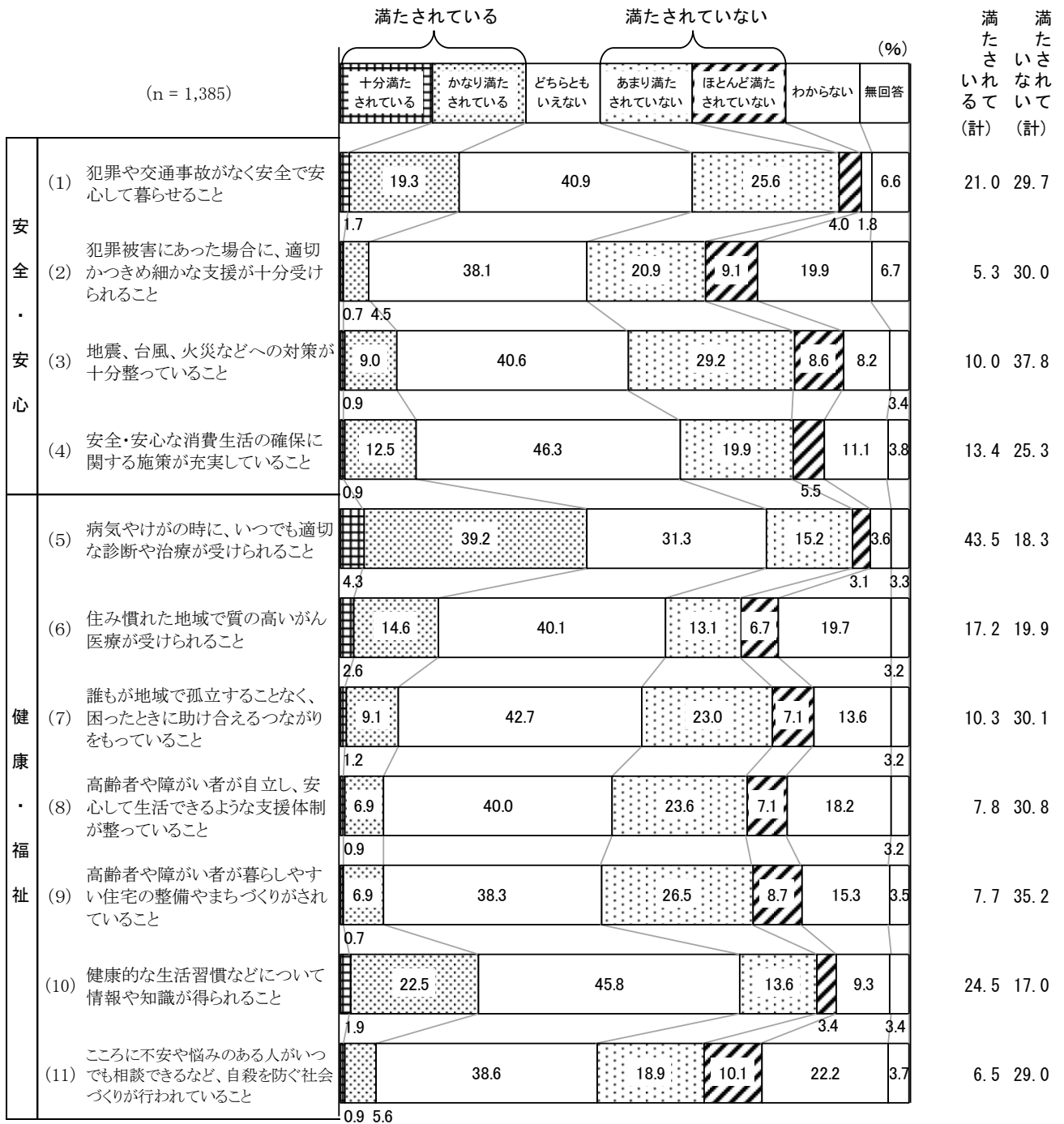
項目別の生活満足度の回答状況は、図表3-2-1に示すとおりである。

「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた《満たされている》は、「(41) 下水道が整備されていること」が68.2%で最も多く、「(40) 通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」(49.7%)と「(12) 身近に親しめる緑や水辺があること」(46.9%)が続いた。

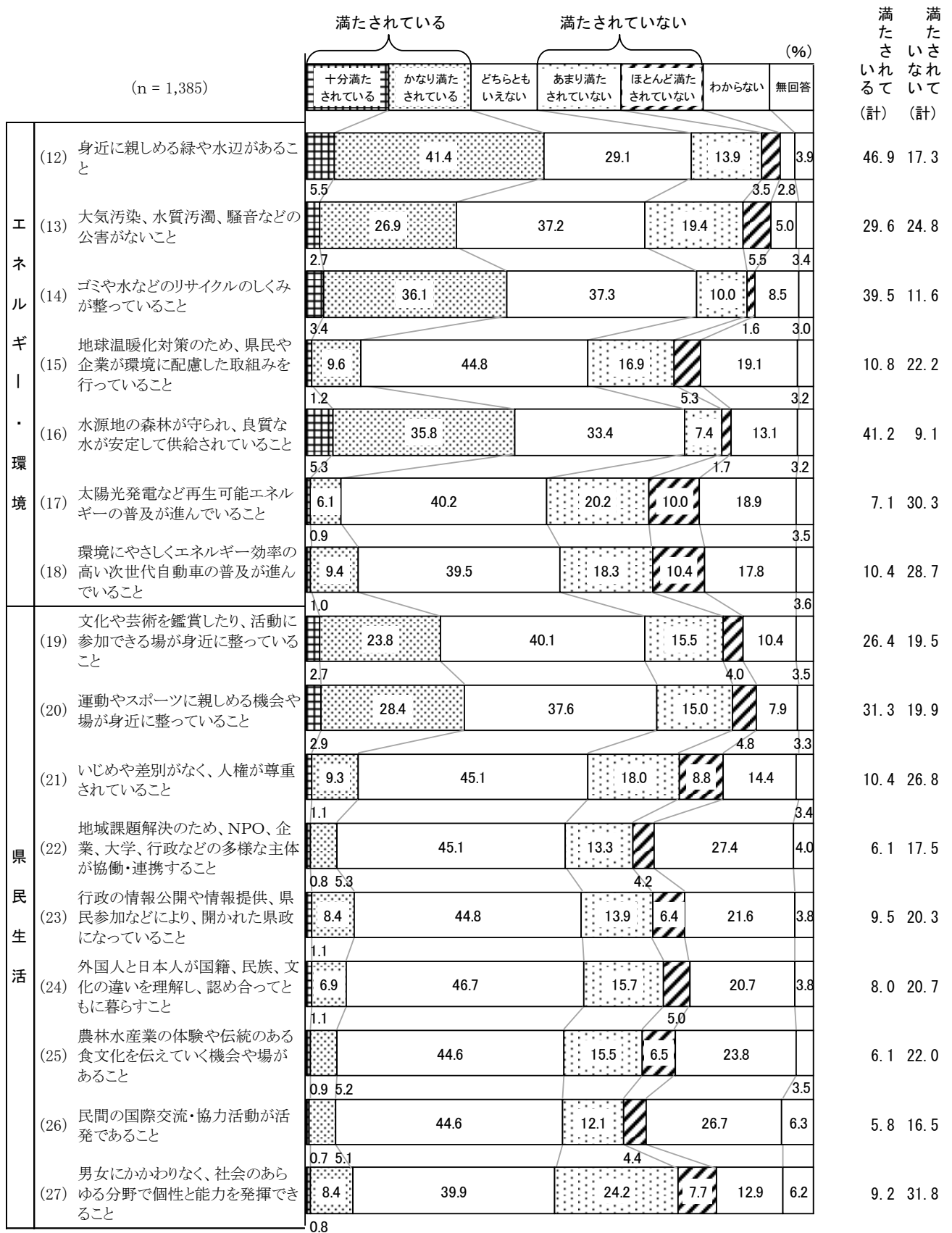
「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた《満たされていない》は、「(38) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が41.6%で最も多く、「(3) 地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」(37.8%)と「(9) 高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること」(35.2%)が続いた。

(図表3-2-1)

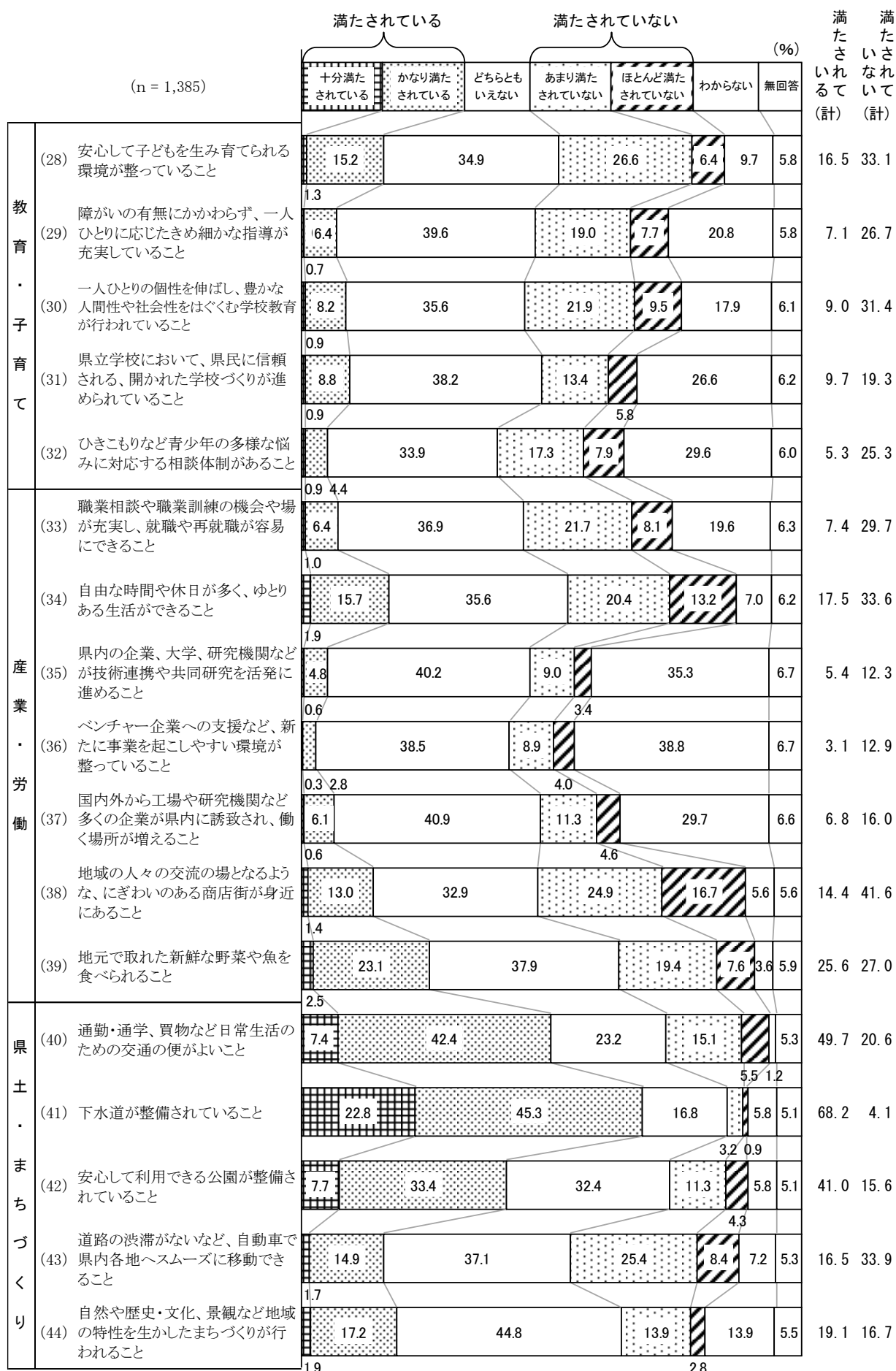
図表3-2-1 生活満足度



図表3-2-1 生活満足度（つづき）



図表3-2-1 生活満足度（つづき）



【過去との比較】

《満たされている》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「(41) 下水道が整備されていること」が第1位、「(40) 通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」が第2位、「(12) 身近に親しめる緑や水辺があること」が第3位となった。(図表3-2-2)

図表3-2-2 生活満足度《満たされている》の上位10項目－過去との比較

	平成27年度 (n = 1,386)	平成28年度 (n = 1,297)	平成29年度 (n = 1,382)	平成30年度 (n = 1,330)	令和元年度 (n = 1,385)
1位	下水道が整備されていること(69.7%)	下水道が整備されていること(68.5%)	下水道が整備されていること(65.4%)	下水道が整備されていること(68.0%)	下水道が整備されていること(68.2%)
2位	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(50.6%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(51.0%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(44.9%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(49.5%)	通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと(49.7%)
3位	身近に親しめる緑や水辺があること(46.8%)	身近に親しめる緑や水辺があること(47.3%)	身近に親しめる緑や水辺があること(44.1%)	身近に親しめる緑や水辺があること(47.6%)	身近に親しめる緑や水辺があること(46.9%)
4位	ゴミや水などのリサイクルのしくみが整っていること(44.2%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(44.3%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(42.2%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(47.3%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(43.5%)
5位	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(44.0%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(44.1%)	病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること(41.4%)	安心して利用できる公園が整備されていること(43.5%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(41.2%)
6位	安心して利用できる公園が整備されていること(41.1%)	安心して利用できる公園が整備されていること(43.4%)	ゴミや水などのリサイクルのしくみが整っていること(39.2%)	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(42.9%)	安心して利用できる公園が整備されていること(41.0%)
7位	水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること(40.2%)	ゴミや水などのリサイクルのしくみが整っていること(41.6%)	安心して利用できる公園が整備されていること(39.0%)	ゴミや水などのリサイクルのしくみが整っていること(42.3%)	ゴミや水などのリサイクルのしくみが整っていること(39.5%)
8位	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(30.4%)	食の安全が確保され、安心して食生活が送れること(34.2%)	食の安全が確保され、安心して食生活が送れること(30.9%)	食の安全が確保され、安心して食生活が送れること(34.7%)	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること(31.3%)
9位	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること(27.1%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(31.3%)	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること(28.4%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(33.2%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(29.6%)
10位	食の安全が確保され、安心して食生活が送れること(26.9%)	地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること(27.0%)	大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと(27.4%)	運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること(31.8%)	文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること(26.4%)

※各項目の過去との比較については、図表B（128～138ページ）を参照

《満たされていない》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成27年度～平成30年度の調査と同様に、「(38) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が第1位となった。「(3)地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」は、前回調査の第9位から第2位となった。「(9) 高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること」は、前回調査の第5位から第3位となった。(図表3-2-3)

図表3-2-3 生活満足度《満たされていない》の上位10項目－過去との比較

	平成27年度 (n = 1,386)	平成28年度 (n = 1,297)	平成29年度 (n = 1,382)	平成30年度 (n = 1,330)	令和元年度 (n = 1,385)
1位	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(43.6%)	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(41.9%)	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(40.9%)	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(40.5%)	地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること(41.6%)
2位	高齢者や障害者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること(38.8%)	高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること(33.5%)	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(35.0%)	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(33.5%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(37.8%)
3位	安心して子どもを生育てられる環境が整っていること(37.1%)	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(32.8%)	高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること(34.7%)	道路の渋滞がないなど、自動車県内各地へスムーズに移動できること(33.1%)	高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること(35.2%)
4位	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(36.4%)	安心して子どもを生育てられる環境が整っていること(32.3%)	安心して子どもを生育てられる環境が整っていること(33.9%)	安心して子どもを生育てられる環境が整っていること(31.7%)	道路の渋滞がないなど、自動車県内各地へスムーズに移動できること(33.9%)
5位	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること(34.6%)	道路の渋滞がないなど、自動車県内各地へスムーズに移動できること(31.5%)	道路の渋滞がないなど、自動車県内各地へスムーズに移動できること(31.8%)	高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること(30.3%)	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること(33.6%)
6位	誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりをもっていること(34.5%)	職業相談や職業訓練の機会や場が充実し、就職や再就職が容易にできること(31.3%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること(31.7%)	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(28.9%)	安心して子どもを生育てられる環境が整っていること(33.1%)
7位	職業相談や職業訓練の機会や場が充実し、就職や再就職が容易にできること(34.1%)	高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること	誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりをもっていること(31.5%)	高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること(28.5%)	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(31.8%)
8位	高齢者や障害者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(30.0%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(30.7%)	誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりをもっていること(28.0%)	一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性をはぐむ学校教育が行われていること(31.4%)
9位	道路の渋滞がないなど、自動車県内各地へスムーズに移動できること(32.9%)	犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること(29.5%)	犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること(30.5%)	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること(27.7%)	高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること(30.8%)
10位	犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること 男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(32.8%)	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること(29.2%)	高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること(30.2%)	太陽光発電など再生可能エネルギーの普及が進んでいること(27.2%)	太陽光発電など再生可能エネルギーの普及が進んでいること(30.3%)

※各項目の過去との比較については、図表B (128～138 ページ) を参照

【地域別の状況】

《満たされている》の上位項目について地域別にみると、県全体で《満たされている》の第1位となった「(41) 下水道が整備されていること」は、県西(55.9%)を除く6地域で第1位となった。県全体で第3位の「(12) 身近に親しめる緑や水辺があること」は、県西が57.6%で第1位となった。

(図表3-2-4)

図表3-2-4 生活満足度《満たされている》の上位項目—地域別

設問 地域 上段：順位 下段：(%)	(41)	(40)	(12)	(5)	(16)	(42)	(14)	(13)	(39)		
	下水道が整備されていること	常勤・通勤・通学、買い物などの便	身近に親しめる緑や水辺	受ける適切な診療や治療	病気の予防や診察、治療	良質な水が安定して供給	水源の森林が守られていること	安心して利用できる公園	ゴミや水みなどが整っていること	音など公害がないこと	大気汚染、水質汚濁、騒音
全体 (n=1,385)	① 68.2	② 49.7	③ 46.9	④ 43.5	⑤ 41.2	⑥ 41.0	⑦ 39.5	⑨ 29.6	⑪ 25.6		
横浜 (n= 512)	① 69.3	② 52.1	④ 46.7	⑤ 45.7		③ 49.0					
川崎 (n= 171)	① 71.3	② 62.6		③ 52.0		⑤ 39.8	④ 40.9				
相模原 (n= 102)	① 78.4	③ 47.1	② 53.9	⑤ 39.2	④ 46.1	⑤ 39.2					
横須賀三浦 (n= 122)	① 63.9	④ 39.3	② 50.8		③ 41.0				⑤ 37.7		
県央 (n= 115)	① 71.3	④ 43.5	② 47.0	③ 46.1			⑤ 42.6				
湘南 (n= 183)	① 62.8	③ 47.5	② 48.6	⑤ 43.2	④ 45.9						
県西 (n= 59)	② 55.9		① 57.6		⑤ 42.4		④ 44.1	③ 45.8			

※各項目の地域別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査 : <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

《満たされていない》の上位項目について地域別にみると、県全体で《満たされていない》の第1位となった「(38) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」は、川崎 (36.3%)、横須賀三浦 (44.3%)、県西 (30.5%) を除く4地域で第1位となった。県全体で第2位の「(3) 地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」は、横須賀三浦 (48.4%) と県西 (44.1%) で第1位となった。(図表3-2-5)

図表3-2-5 生活満足度《満たされていない》の上位項目—地域別

(番号)	(38)	(3)	(9)	(43)	(34)	(28)	(27)	(30)	(8)	(17)	(7)	(1)	(11)	(39)	
設問	ぎ地域の人の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること	整地震、台風、火災などへの対策が十分	整高齢者や障がい者が暮らしていること	地道路の渋滞がないなど、自動車でも移動できること	活自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活	整安心して子どもを育てられる環境	野男女にかかわりなく、社会のあらゆる分野	て性一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性	と活高齢者や障がい者が自立し、安心して生活	及太陽光発電など再生可能エネルギーの普及	こと誰かが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりをもっている	ら犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮	が行われるなど、自殺を防ぐ社会づくり	こころに不安や悩みのある人がいつでも	る地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられ
地域															
上段：順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑬	⑮	⑰	
下段：(%)	41.6	37.8	35.2	33.9	33.6	33.1	31.8	31.4	30.8	30.3	30.1	29.7	29.0	27.0	
全体 (n=1,385)															
横浜 (n=512)	①	②	③			③	⑤								
川崎 (n=171)	②	⑤		④	③	①									
相模原 (n=102)	①			②		④			④					③	
横須賀三浦 (n=122)	③	①	④	②				⑤							
県央 (n=115)	①	②	③									④	⑤		
湘南 (n=183)	①	②	④									③	④		
県西 (n=59)	⑤	①	②	④						⑤	②				
	30.5	44.1	33.9	32.2						30.5	33.9				

※各項目の地域別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査 : <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

【性・年代別の状況】

《満たされている》の上位項目について性・年代別にみると、県全体で第1位となった「(41) 下水道が整備されていること」は、すべての性・年代で第1位となった。(図表3-2-6)

図表3-2-6 生活満足度《満たされている》の上位項目－性・年代別

(番号) 設問 性・年代 上段：順位 下段：(%)	(41)	(40)	(12)	(5)	(16)	(42)	(14)
		下水道が整備されていること	の通勤・通学、通の買物などがよい日常生活	こ身と近に親しめる緑や水辺がある	と切病と病気や断やけが治療が受けられることも適	と水が安定して供給されている良質な	水源地の森林が守られ、公園が整備
全体 (n=1,385)	① 68.2	② 49.7	③ 46.9	④ 43.5	⑤ 41.2	⑥ 41.0	⑦ 39.5
男性 (n= 550)	① 70.5	② 47.6	⑤ 42.9	④ 44.5	③ 46.0		
女性 (n= 710)	① 67.0	② 51.5	③ 51.3	④ 43.9		⑤ 41.4	
男性18～19歳 (n= 0)							
20歳代 (n= 33)	① 60.6	④ 45.5		② 54.5	③ 48.5	④ 45.5	④ 45.5
30歳代 (n= 72)	① 69.4		③ 45.8	② 52.8	③ 45.8	⑤ 43.1	⑤ 43.1
40歳代 (n= 116)	① 70.7	② 46.6	③ 45.7	④ 43.1	⑤ 42.2	⑤ 42.2	
50歳代 (n= 115)	① 70.4	② 43.5	③ 40.9	⑤ 38.3		④ 39.1	
60歳代 (n= 106)	① 68.9	② 50.9	④ 44.3	⑤ 42.5	③ 46.2		
70～74歳 (n= 60)	① 73.3	③ 50.0		⑤ 46.7	② 56.7		④ 48.3
75歳以上 (n= 46)	① 80.4	② 63.0			③ 60.9	⑤ 47.8	④ 58.7
女性18～19歳 (n= 0)							
20歳代 (n= 34)	① 55.9	④ 44.1	② 50.0	④ 44.1	③ 47.1		
30歳代 (n= 135)	① 65.9	③ 47.4	② 54.1	④ 43.0		⑤ 41.5	
40歳代 (n= 168)	① 66.1	② 57.1	③ 56.5	④ 50.0		④ 50.0	
50歳代 (n= 164)	① 68.9	② 54.9	③ 53.0	④ 41.5	④ 41.5	④ 41.5	
60歳代 (n= 111)	① 61.3	② 50.5	③ 45.0	④ 38.7	⑤ 35.1		
70～74歳 (n= 45)	① 86.7	③ 51.1		② 53.3		④ 48.9	⑤ 46.7
75歳以上 (n= 51)	① 70.6	④ 41.2	③ 43.1	⑤ 39.2	② 49.0		⑤ 39.2

※各項目の性・年代別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査 : <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

《満たされていない》の上位項目について性・年代別にみると、県全体で《満たされていない》の第1位となった「(38) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」は、男性の30歳代(51.4%)・50歳代(46.1%)・70～74歳(45.0%)・75歳以上(37.0%)及び女性の20歳代(52.9%)・30歳代(48.1%)・40歳代(42.9%)・70～74歳(40.0%)・75歳以上(47.1%)で同率も含めて第1位となった。県全体で第3位の「(9) 高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること」は、女性の50歳代(41.5%)・60歳代(48.6%)で第1位となった。県全体で第4位の「(43) 道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること」は、男性の40歳代(50.9%)で第1位となった。県全体で第5位の「(34) 自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること」は、男性の20歳代(57.6%)で第1位となった。(図表3-2-7)

図表3-2-7 生活満足度《満たされていない》の上位項目－性・年代別

(番号) 設問	(38)	(3)	(9)	(43)	(34)	(28)	(27)	(30)	(8)	(17)	(7)	(2)	(33)	(1)	(11)	(18)	(39)	(21)	(4)	(32)
	地域の人の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること	地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること	道路の渋滞がないなど、自動車でも県内各地へスムーズに移動できること	自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	安心して子どもを育てられる環境が整っていること	男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を発揮できること	一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性をはぐくむ学校教育が行われていること	高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること	太陽光発電など再生可能エネルギーの普及が進んでいること	誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりをもっていること	犯罪被害にあつた場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること	職業相談や職業訓練の機会や場が充実し、就職や再就職が容易にできること	犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること	犯罪や不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること	環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること	地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること	いじめや差別がなく、人権が尊重されていること	安全・安心な消費生活の確保に関する施策が充実していること	ひきこもりなど青少年の多様な悩みに対応する相談体制があること
性・年代																				
上段：順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳	㉑
下段：(%)	41.6	37.8	35.2	33.9	33.6	33.1	31.8	31.4	30.8	30.3	30.1	30.0	29.7	29.7	29.0	28.7	27.0	26.8	25.3	25.3
全体 (n=1,385)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳	㉑
男性 (n= 550)	①	③		②	④					⑤										
女性 (n= 710)	①	②	③			④	⑤													
男性18～19歳 (n= 0)																				
20歳代 (n= 33)	③			③	①	②		③								③				
30歳代 (n= 72)	①			②	③	④	④													
40歳代 (n= 116)	③	③		①	②								⑤							
50歳代 (n= 115)	①	②	⑤	③	⑤					④						⑤				
60歳代 (n= 106)		④	②	③					⑤	①										
70～74歳 (n= 60)	①	②				④				④					③					
75歳以上 (n= 46)	①								⑤			①	⑤	①	⑤					①
女性18～19歳 (n= 0)																				
20歳代 (n= 34)	①	④				①	④	④			④							③		
30歳代 (n= 135)	①	⑤			③	①		④												
40歳代 (n= 168)	①	④			②		③	⑤												
50歳代 (n= 164)	②	③	①					③								⑤				
60歳代 (n= 111)		②	①						④			③		⑤	⑤					
70～74歳 (n= 45)	①	③	④												⑤	②		⑤		
75歳以上 (n= 51)	①	③	②				③			③					③					

※各項目の性・年代別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

(県民ニーズ調査：http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/)

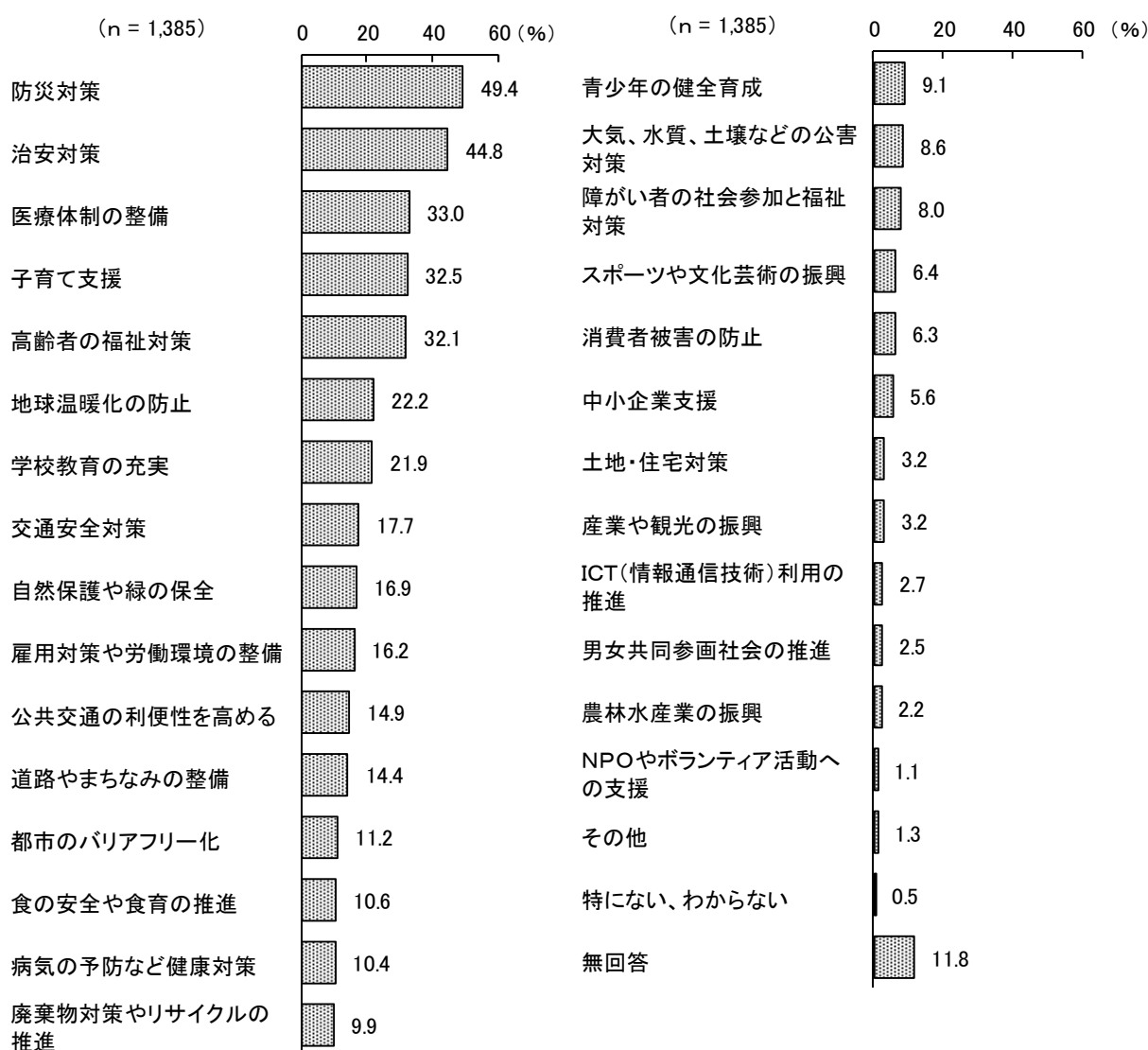
第4章 県行政への要望【問8】

県行政を進めていく上で力を入れて取り組んでほしい分野

【全体の状況】

神奈川県を行政を進めていく上で、力を入れて取り組んでほしい分野について30項目を挙げて複数回答（5つまで選択可）で尋ねたところ、上位5項目は、第1位「防災対策」（49.4%）、第2位「治安対策」（44.8%）、第3位「医療体制の整備」（33.0%）、第4位「子育て支援」（32.5%）、第5位「高齢者の福祉対策」（32.1%）となった。（図表4-1）

図表4-1 県行政への要望（複数回答）



【過去との比較】

過去の調査と比較すると、前回調査と同様に「防災対策」が第1位、「治安対策」が第2位となった。平成27年度～平成30年度の調査で第3位であった「高齢者の福祉対策」は第5位となった。上位5項目は、平成27年度以降同じ項目となっている。(図表4-2)

図表4-2 県行政への要望（上位10項目）（複数回答）－過去との比較



※各項目の過去との比較については、図表C（139ページ）を参照

【地域別の状況】

県行政への要望の上位項目について地域別にみると、県全体で第1位となった「防災対策」は、横浜（58.0%）、横須賀三浦（54.9%）、湘南（54.6%）、川崎（54.4%）、県央（47.8%）がそれぞれ第1位となった。県全体で第2位の「治安対策」は、相模原が52.9%で第1位となった。県全体で第3位の「医療体制の整備」は、県西が44.1%で第1位となった。（図表4-3）

図表4-3 県行政への要望（上位項目）（複数回答）－地域別

選択肢 地域 上段：順位 下段：(%)	防災対策	治安対策	医療体制の整備	子育て支援	高齢者の福祉対策	地球温暖化の防止	公共交通の利便性を高める
全 体 (n=1,385)	① 49.4	② 44.8	③ 33.0	④ 32.5	⑤ 32.1	⑥ 22.2	⑪ 14.9
横 浜 (n= 512)	① 58.0	② 52.7	⑤ 33.4	③ 38.3	④ 34.8		
川 崎 (n= 171)	① 54.4	② 44.4	④ 34.5	③ 42.1	⑤ 30.4		
相模原 (n= 102)	② 45.1	① 52.9	③ 41.2	⑤ 27.5	④ 34.3		⑤ 27.5
横須賀三浦 (n= 122)	① 54.9	② 41.8	③ 40.2	⑤ 34.4	④ 38.5		
県 央 (n= 115)	① 47.8	② 40.9	③ 38.3	⑤ 34.8	④ 36.5		
湘 南 (n= 183)	① 54.6	② 53.0	④ 35.5		③ 36.6	⑤ 30.1	
県 西 (n= 59)	② 42.4	② 42.4	① 44.1	⑤ 30.5	④ 37.3		

※各項目の地域別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。
 （県民ニーズ調査：<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>）

【性・年代別の状況】

県行政への要望の上位項目について性・年代別にみると、県全体で第1位であった「防災対策」は、男性の40歳代（47.4%）・50歳代（60.9%）・60歳代（62.3%）・70～74歳（58.3%）、女性の40歳代～60歳代（55.4%～62.8%）がそれぞれ第1位となった。県全体で第2位の「治安対策」は、男性の20歳代（51.5%）と75歳以上（58.7%）が第1位となった。県全体で第4位の「子育て支援」は、男性の30歳代（63.9%）、女性の20歳代（61.8%）・30歳代（72.6%）がそれぞれ第1位となった。（図表4-4）

図表4-4 県行政への要望（上位項目）（複数回答）－性・年代別

選択肢 性・年代 上段：順位 下段：(%)	防災 対策	治安 対策	医療 体制 の 整備	子 育 て 支 援	高 齢 者 の 福 祉 対 策	地 球 温 暖 化 の 防 止	学 校 教 育 の 充 実	交 通 安 全 対 策	公 共 交 通 の 利 便 性 を 高 め
全 体 (n=1,385)	① 49.4	② 44.8	③ 33.0	④ 32.5	⑤ 32.1	⑥ 22.2	⑦ 21.9	⑧ 17.7	⑩ 14.9
男 性 (n= 550)	① 53.3	② 49.5	③ 33.8	⑤ 31.3	④ 33.3				
女 性 (n= 710)	① 54.4	② 48.5	④ 37.9	③ 38.7	⑤ 36.3				
男性18～19歳 (n= 0)									
20歳代 (n= 33)	③ 39.4	① 51.5	⑤ 27.3	② 48.5			④ 30.3		⑤ 27.3
30歳代 (n= 72)	③ 47.2	② 52.8	⑤ 27.8	① 63.9			④ 29.2		
40歳代 (n= 116)	① 47.4	② 45.7	③ 32.8	④ 29.3				⑤ 25.9	
50歳代 (n= 115)	① 60.9	② 46.1	③ 34.8		③ 34.8	⑤ 24.3			
60歳代 (n= 106)	① 62.3	② 51.9	④ 38.7		③ 50.0	⑤ 25.5			
70～74歳 (n= 60)	① 58.3	③ 48.3	④ 36.7	⑤ 33.3	② 51.7	21.7			
75歳以上 (n= 46)	② 43.5	① 58.7	④ 32.6		② 43.5	⑤ 26.1			
女性18～19歳 (n= 0)									
20歳代 (n= 34)	② 47.1	③ 41.2		① 61.8			③ 41.2	③ 41.2	
30歳代 (n= 135)	③ 48.9	② 49.6	⑤ 35.6	① 72.6			④ 46.7		
40歳代 (n= 168)	① 55.4	② 47.0	⑤ 35.1	③ 44.0			④ 38.7		
50歳代 (n= 164)	① 62.8	② 46.3	④ 36.0		③ 40.9	⑤ 34.1			
60歳代 (n= 111)	① 59.5	② 57.7	④ 44.1		③ 50.5	⑤ 37.8			
70～74歳 (n= 45)	② 46.7	⑤ 42.2	③ 44.4		① 53.3	③ 44.4			
75歳以上 (n= 51)	④ 39.2	② 47.1	④ 39.2		① 49.0	③ 41.2			

※各項目の性・年代別の状況については、県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。

（県民ニーズ調査：<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>）

第Ⅳ部 県政への自由意見

県政への自由意見

質問の最後に、県政に対しての意見、提案などを自由に記述してもらったところ、回答者1,385人のうち、25.4%に相当する352人から多岐にわたる意見が寄せられた。

(1) 安全・安心

- 犯罪防止のため警察と住民がより密接な状態になるよう、県警本部への指導をお願いしたい。(湘南・男性・75歳以上)
- 外国人など、就労などや学問などで国内に留労されるのは良いが、その後の彼らの住居での生活状況などをしっかり把握した上で生活をさせるべきです。同じアパートに住む外国人は朝も夜も全く関係なく、うるさく騒ぎ1部屋から5人も6人も出入りしているので、子どもがいる私たちにはとても不安です。(川崎・女性・40歳代)
- 治安が悪くなるのでカジノはやめてください。最近海外からの観光が多いため外国人が多すぎる。(横浜・女性・60歳代)
- 防災・自然災害対策はきっちり事前にできることはやってほしい。街灯をもう少し増やしてほしい。大岡川沿いの桜の木や雑草の手入れをきちんとやってほしい。(横浜・女性・30歳代)
- 交番の設置(現在駅前周辺にない地もある)常勤は無理でも、見える防犯になる。(川崎・女性・70~74歳)
- 老後一人になった時、どのように死んでいけるのか思い描けない。詐欺被害に合わないと思っているが、最近の手口は巧妙で、自分もいつかごっそり持っていかれるかもと不安(相模原・女性・70~74歳)
- 地域によっては空き家も多く火災や倒壊への不安も多い。環境に対する対策をとってほしい。(横須賀三浦・女性・30歳代)
- 松陽高校前の道路、スピード出しすぎていて横断歩道を渡るのが危ない。どこに言っても動いてくれない(石川幼稚園から下った道)。(横浜・男性・30歳代)
- 今回の台風15号の教訓を生かして、防災対策をしてほしい。暑さ対策、寒さ対策、断水、停電、トイレ等県民に分かりやすい対策度合いを示してほしい。(湘南・男性・60歳代)
- 高速道路でなくとも一般道路でも、ハンドル握れば20分以内にあおり運転を受ける現状あり。あおり運転の罰則、法の整備を厳重にしてほしい。高齢者の免許返納特典(65才以上、バス代半額、タクシー券交付など)を強化し、悲惨な事故を防ぐこと。また、先日の踏み切りトラック侵入事故、道路標識の整備、一般道路でも、街角のミラーがゆがんで見られないところあり!(湘南・女性・60歳代)
- 車を運転していると、車線が消えかかっている箇所が多々あり、雨の日や暗い時間は全く見えない。都内の現場に行くと、警視庁は良くパトロールをしているが、県警はあまりしてないイメージがある。(横浜・男性・30歳代)
- 通学ルート of 安全保護(交差点のガードレール、ポール等)(県央・男性・40歳代)
- 地震があった時必要となるのは…いろいろあるけど、携帯トイレ、水、食料ぐらいなら、配布してもよいのではと思う。(湘南・女性・30歳代)
- 道路状況が悪い(特に地方)安心して歩けない(自転車等も)。(横浜・男性・75歳以上)
- 安心、安全に日常生活が過ごせる環境(相模原・女性・60歳代)

- 歩道の整備が間に合っていないと感じています。(10年位経過)ベビーカーで歩道を歩いてみてください。車道と区分されているだけで、溝のふたの穴や細かなアップダウンにタイヤが負けて危険です。辻堂～藤沢駅と横浜市はきれいになってきて、次は鎌倉市も整うと期待しています。特に下関広場と西念寺の間の歩道をなんとかしていただきたいです。(横須賀三浦・女性・30歳代)
- 児童、老人等の事故防止のため、街の中では細い道、通りづらい危険な道路があり、これらを優先して、少しずつでも、根気よく、電柱の埋没化をしてくれれば、交通事故防止、電柱倒壊のおそれがなく、電力の確保などできると思う。それから犯罪防止のため監視カメラも少しずつ継続して設置を希望したい。毎日のお勤めご苦労様です。県民、国との関係で意見の相違、いろいろな問題が生じると思います。少しずつ、少しずつ、前に進めてほしいです。(横浜・男性・60歳代)
- 道路の整備を進めてほしい。広く大きな道路よりも街中の細い道路(路肩)の整備。なぜかという高齢者やベビーカー、子どもの自転車が端を使いづらいから。自然と道路の真ん中を通り危険である。(湘南・女性・50歳代)
- 今回の千葉県台風災害の対応があまりにもお粗末であきれた。神奈川県も千葉県の二の舞にならないよう、今からマニュアルを徹底してほしい。即日対策本部を設けて知事、職員は登庁、もしくは前日から泊まりこむ。各市町村から連絡を待つのではなく、連絡がないのは停電もしくは被害を受けているのだから、本庁から出向き、状況を素早く把握すること。自衛隊への要請は早目に。千葉県は遅すぎ！幸いにも神奈川県にはたくさん隊があるのだから、これを利用しない手はない。停電対策を徹底すること。過去の災害時、どこの自治体も口をそろえて「電話対応に時間がとられて、何も指示できなかった」と大合唱。指令塔と役割分担をして、自分の仕事をする。温暖化でますます、増大する自然災害、神奈川県は海も山も多く、超大型を覚悟しなければならない。他人事で「想定外だ」発言のなきよう、日ごろから心の準備を！(湘南・女性・60歳代)
- 高齢者ドライバーの免許返納で、現在84歳の父を相手に苦戦しています。何度も話し合いを持ち、説得しようと努力していますが、なかなか納得してくれません。このような老人ドライバーは、たくさんいらっしゃると思います。家族の同意欄を設けていただけませんか。反対を押し切ってハンドルを握り、事故を起こした場合の責任を負いかねます。高齢者がハンドルを握らなくても済む手段の提案と、70歳以上のドライバーには、更新ハガキに家族の同意欄を！！ご検討のほどよろしく願いいたします。(相模原・女性・50歳代)
- 神奈川県は、まだ大嵐や地震で大きな影響がなかったのですが、今後、いつ起こるか分からない災害への対策が不安です。人口も多いため、しっかりと対策がないと、大きな被害が出る可能性もあり、心配です。(横浜・女性・50歳代)
- 安全について(車の免許更新の時に思いました)。ガイドブックもらいました。自転車を購入する際、交通ルールのガイドブックを配布するようにしてほしいです。道路を逆走していたり、イヤホン、スマホしながら運転している方をよく見かけます。全員が気をつけないといけないと思います。(県央・女性・30歳代)
- 防災について 土砂崩れ、倒木等、最近多く見受けられ、一度災害が発生すれば、その個所の危険性は上がることから、対策をとるとともに、同様の箇所での予防的対策も実施が必要です。ライフラインとして電源がなければ水道もガスも安定供給ができない状況であることから、電源の安定供給に向けたインフラの安全対策も重要と認識(横須賀三浦・男性・30歳代)

- 防犯カメラや街灯を設置してもらいたい。(湘南・男性・60歳代)

(2) 健康・福祉

- 県の進める未病対策には非常に共感をしますが、公立の病院や個人医では、その考え、コンセプト自体がまだまだ理解されていないことが多く、何かあるたびに薬ばかり増やされ、医療費の増大につながっていると思います。県からも医師会、薬剤師会へもっと強く働きかけてもらい、少しでも薬などに頼らない健全な生活を続けられたらと思います。(横須賀三浦・女性・70～74歳)
- 介護に関しては、要介護1-2を給付から外す意見があるとか、とんでもないことです!施設が足りないから、〇〇年までに〇〇棟建てますと国は言いますが、介護士は圧倒的に不足で、皆ヘトヘトになりながら働いています。公務員、特に福祉課に配属された方は、3か月でいいので実際経験し、その忙しさと給料の少なさを体験してください。県に言うことではなく、国に言うべきことかもしれませんが、思いを書かせていただきました。(川崎・女性・50歳代)
- いろいろな職業のコミュニティに属してきた72才の男です。老人施設で働いていた時、イジメがこんな所でも起きていました。対策として、仲直りさせる人の育成、仲介する人の具体的手法を学ばせる教育を若い時から、教えるようにしてください。小学校の生徒に、いじめが判然とする時、具体的に体育系の先生をあてて強制的に圧力をかけるなどの手段手法を教える機関が必要だと思います。(横浜・男性・70～74歳)
- 市役所や区役所に問合せの電話をすると、いつも親切にそして丁寧に解説してくださいます。とても助かり感謝しています。県民の老齢化が増々進んでいます。好んで人の世話を受けたと思う老人はいません。健康寿命を伸ばせる政策をもっと増やしてください。医療費・介護費用が少なくなり、非課税者も減ると思うのですが…。(横浜・女性・60歳代)
- 50代60代は健康に気をつけて、できるだけ働きたいと思っているのではないのでしょうか。「未病」のためにも、健康保険の自己負担を今より重くすることはしないでください。高齢者になっても、少ない年金で自分の体を守っていくのですから、自己負担は増やさないでください(これは県というより国の政治ですね)。(川崎・女性・50歳代)
- 私は介護の仕事をしています。パニック障害やうつ病の人のサポートをしています。ほとんどの方が生活保護、障害者年金をもらっています。きつい言い方になりますが、精神病の方の生活保護、障害者年金は期限(長くて1年)を決めてほしい。その都度、本当に必要か、現場で働いている介護ヘルパーに聞いて判断してほしい。介護ヘルパーは毎週のようにサービスに入ります。利用者の嘘も分かります。たまにしか来ないケアマネに話しても状況は変わりません。この人たちが社会復帰できるように生活保護、障害者年金の期限を決めてほしいです。(川崎・女性・40歳代)
- 娘2人長女、次女、二人とも精神を患い、次女は、がんにもなり苦しい思いをしています。二人とも作業所に通いながら働く道を探り続けて来ました。仕事ができる体であっても、ハローワークでは、主婦のパート並みの時間でびっくり。もっと時間を考えて、週1回、2回でも1時間、2時間でも仕事ができる、社会につながっている喜び、楽しみがあってもいいではないですか。病気だから作業所のような所にいればいいと、ふたをしているような気がします。これが福祉でしょうか。(相模原・女性・70～74歳)
- 認知症の人、高齢者、そして介護する家族の福祉や医療体制を更に充実させていただきたいです。(川崎・女性・50歳代)

- 重度の障がいがあっても自立して生活ができる社会に、県政改革をもっと進めてほしいです。重度の障がいがあっても自活していける社会になってほしいです。障がい者の雇用をもっと拡大して、自活して生きていける社会にしてほしいです。(県央・男性・40歳代)
- 重症心身障害者がこの先(財政的にも)十分に安心して、暮らしていける社会が築かれていることを切に願います。ともに生きる社会かながわ憲章が、県民一人ひとりの心にしっかりと刻まれますように！！(相模原・女性・20歳代)
- 敬老バスがあって本当に助かります。(横浜・女性・75歳以上)
- 受動喫煙について、バス停、すべての飲食店での禁煙の徹底をお願いしたいです。ぜん息持ちのため、地元も横浜でも、歩道などで煙を吸ってしまうと発作が出ます。(県央・女性・20歳代)
- 35年間一緒に暮らしていた義父母を看取りました。介護保険も払っている時は高いな、と思っていましたが、実際に使わせて頂いた時には、本当に助かりました。ありがとうございます。(相模原・女性・50歳代)
- 子どもたちの真の健康と安心な未来について。薬はむやみに出さない、患者ともう少しコミュニケーションをとってくれる小児科が近くにあったらどんなに安心だろうか。(横浜・女性・30歳代)
- 子どもの医療費の無償化は全員を対象に、中学生までの引き上げをお願いしたい。(横浜・男性・40歳代)
- 生活保護をもらっている外国人が多すぎる。外国人に対しては生活保護を受けられる人数制限と期間の制限を設けるべき！！！！(横浜・女性・40歳代)
- 不妊治療の助成金を増やしてほしいです。他の地域では認知症の賠償保険について、税金として全員から400円程度徴収することで強制加入となる制度があるようで、導入を検討してほしいです。(横浜・女性・30歳代)

(3) エネルギー・環境

- 石炭をエネルギーとする横須賀火力発電所の建設は、地球温暖化抑制の観点から、神奈川県としても反対の立場を貫いていただきたい。(横須賀三浦・男性・50歳代)
- 物質消費文化よりも、自然保護保全、地球温暖化対策に目を向けないと。人間も自然、地球の一部です。(県央・男性・60歳代)
- 地球温暖化防止のために、神奈川県としてできることから積極的に取り組んでほしい。(横浜・男性・60歳代)
- 環境問題に力を入れてほしい。(湘南・女性・60歳代)
- 自然保護や緑の保全を希望します。(川崎・男性・50歳代)
- この産業(物質)社会において自然保護は大変な労力が必要になります。まずは、人が心と身体をむしばまれず生きていくために、第一に必要な大気、(安全な)食物と水などをどうぞ侮らないで、すべての政策で合理的に計っていき、自然を重要視してください！！人の心と身体がむしばまれませんように！！(横須賀三浦・女性・60歳代)

- 再生可能エネルギーの普及。原発に頼らない社会を強く望んでいる。線量計が近くに置かれてしまった福島の実家に子どもを連れて帰省する時、「何でこんなことに…」と悔しい。(横浜・女性・30歳代)
- 私の住む市ではもうすぐごみ袋の有料化が始まります。もちろん、環境保護活動は大切だと思いますが、ただでさえ収入の減る子育て世代に更に負荷をかけるような方策はよろしくないと思いました。なんでもかんでも有料化するのではなく、まずは、県民の環境保全への意識を高めるための教育を施すことが大切だと感じます。(県央・女性・20歳代)
- 環境保護、未来につながる活動を重要視してほしい。そのための資金源として必要なら、IRも仕方がないが、安心して暮らせる、をしっかりと踏まえてほしい。(横浜・男性・30歳代)
- <環境問題>私は幼少時から肉は食べていません(家族は食べていました)。畜産業を営んでいる人も多くいますし、肉食を否定するわけではありませんが、これからの時代、動物を食べなくなっていくと思います。遺伝子組み換え、成長剤投与…自然ではありません。肉類を食べなくても、健康上何の問題もありません。大豆で作った食品など多くなっていくと思います。代替肉、フェイクミート。「昔私たちは動物を殺して食べていたのだ」という時代が遠からず来るとテレビで放送されていました。早くそんな時代になってほしいと願っています。次元が変わります。(川崎・女性・60歳代)

(4) 県民生活

- 若い世代に情報が行き届くように、インターネットでの発信やホームページの使いやすさは必須だと思います。(川崎・女性・20歳代)
- 自治会費等の使途。一部は、防犯対策等に使用されているが、県の関わりについての明確化が必要ではないか。ごみ収集場(処理施設、民間委託など)について、現在、各市区町村になっていて県政の関与が不明確ではないかと思います。(湘南・男性・50歳代)
- 伊勢丹の跡地にシニアの憩い場として、①温浴施設(水戸にある“御老公”のような)を造ってほしいです!!大人から子どもまで、1日遊び、いやされる場所、退職したシニア世代が、老後を楽しく過ごせる場所を造るべきです。月替りで演目の変わる大衆演劇を迎えられるような企業を誘致できれば、それぞれの劇団についている県外のファンまで呼ぶことができ、継続的な財政UPとなると考えます。核家族が目立つ昨今、親子三代で集う場所ができれば、神奈川県は、もっと魅力的な県になると思います。(相模原・女性・30歳代)
- 鎌倉市のごみ分別を、簡単で、市民の負担の少ない方法に改善してほしい。(横須賀三浦・男性・40歳代)
- 泉区のいずみ川が汚い。(横浜・男性・30歳代)
- 子どもがいないので「老後」が心配です。病気・介護・死亡時に関して安心な制度を望みます。住宅が密集し、適切な「ごみ集積場」を見つけにくくなってきています。収集の仕組みなどの検討をお願いします。近くの川の土砂の堆積が進んでいます。氾濫防止の観点から川のしゅんせつが必要では。また、神奈川県に魅力的な「ふるさと納税」を。(横浜・男性・60歳代)
- 大船行政センターが市役所の役割をしていないので困る。足、腰が不自由なので市役所までバス、電車に乗って行くのが大変だ。(横須賀三浦・女性・50歳代)

- 高齢者の交通事故が多発していますが、なかなか免許書を返納したいのですが、できません。スーパーが遠いので不便です。バスも1時間に1本とかでコミュニティバスでも通していただきたいです。(県央・女性・75歳以上)
- 丹沢山系の山の保全のため、営林署の設置をすべきです。県民の生命線であり、防災対策の観点からも必要です。ある意味宮ヶ瀬ダムより重要です。(横浜・男性・50歳代)
- 県立公園が各地にあるが、ほとんど利用されていない所がある。もっと、PRすべきだと思う。(湘南・男性・60歳代)
- ◎三浦海岸駐車場(菊名海岸まで有料駐車場にする) <放置車両及びバーベキューごみなどがひどい>◎県道金田三崎港は、全然バリアフリーされていない<車イスで走行できない最低>◎菊名海岸の一部がプライベートビーチ化している<ジェットスキー保管業社>県が黙認しているのか(公の海岸を閉めて使用している)◎三浦海岸の馬の乗り入れ(海辺にフン尿をたれ流し) <何がきれいな海なものか>海辺で子どもが泳ぐことを考えてください。(横須賀三浦・男性・60歳代)
- 昨今、40・50代の人たちの引きこもりが非常に増加していつているのが問題だと思うし、深刻だ!!(横浜・男性・30歳代)
- 住んでいる周辺は安全な通学路がない(ガードレール、ポール、緑色の歩道)。通学する子がいつか車に突っ込まれないか心配。歩道のない道が多いのを後回し。もっと、防災無線や防災用品購入のための補助を全世帯に与えるなどして、使い道(税金の)を考えてほしい。(湘南・女性・30歳代)
- 交通渋滞の緩和をしっかりとしてほしいです。栄区の笠間十字路や戸塚区の前宿は特に、常に渋滞しています。(横浜・女性・30歳代)
- 道路の整備、防犯灯の整備、公共設備(西湘体育センターなど)のメンテナンス…例えば、冷却空調が壊れたまま!(県西・男性・70~74歳)
- 商店街がどんどん消えていき、買い物には車を使用しなくてはならない生活状況を真剣に考えてください。(横浜・男性・70~74歳)
- 少子高齢化社会に対応して、電動自転車、電動車イスなどを購入する時に、県や市から補助を出すなどはどうでしょうか?(横浜・男性・40歳代)
- 横須賀市林周辺、道路の開通が進み、車が集中して、朝、夕、休日、渋滞がひどいため(夏は海などもあり)電車を開通してほしい。若い人が集まるららぽーと、イケアを横須賀に招致してほしい。(横須賀三浦・女性・40歳代)
- 道路事情をもっと良くしてほしい。すぐに信号が変わって走らせないようにしているようだが逆効果です。ストレスがたまって、信号無視する人や次の信号で止まらないようにスピードを出す人が増えていると思う。(横浜・女性・50歳代)
- 身近な渋滞対策をやってほしい。(足柄紫水大橋両側の右折信号など、すぐに改善できる渋滞対策は多いはず)。(県西・男性・40歳代)
- JR南武線溝の口駅北踏切の道路地下化計画が30年位前からあるにもかかわらず、いまだに実行されていないのはどうしてか。早急に検討して実行してもらいたい。(川崎・男性・60歳代)
- 公共下水道料金が高すぎる!!水道使用料と同じくらいとはこれいかに?同市県でもまだまだいろいろ(湘南・女性・60歳代)

- 横浜西口のビッグカメラの所には信号は付けられないのですか。いつも人が多く、危なく、車が通るので、すごく怖いです。(横浜・女性・60歳代)
- 私は75才の女性です。横浜南区山の上に住んでいます。家の周りを見ても老人ばかりです。バスが1社入っていますが、それさえ昨年赤字路線の理由でなくなる一步手前でしたが、なんとか署名運動でつながりました。本当に心配です。(横浜・女性・75歳以上)
- 馬場7丁目(環状北線)のインターだけでなく、残された木々についても放置するのではなく、7丁目公園を拡張するか、植木を植え替えるなどして、整備してほしい(夜道など、怖いです)。(横浜・女性・40歳代)
- 横浜市の行政サービスが悪すぎます。近所の公園、小さな公園をきちんと手入れしてください。(横浜・男性・40歳代)
- 保土ヶ谷バイパスが毎日渋滞しているので、片側6車線化などの渋滞緩和をしてほしい。(横浜・男性・20歳代)

(5) 教育・子育て等

- マナーを守れないまたはマナーを知らない人が増えています。家庭でもしつけをきちんとすることと幼稚園、保育園のころからもマナーを教えるべきであると思います。育児を終えて、育児にお金がかからないか、かかっても働ける場所どちらかがないと子育てもしやすくなり、もう一人産もうかと思ったりします。(相模原・女性・40歳代)
- 父子・母子家庭でも経済的に格差のない社会を希望します。県営住宅に入るにも母子優先枠はあっても、なかなか当選することはありません。そうだからといって、賃貸に入居しても家賃補助もありません。県政でよく考えていただき、市政に案を下ろしていただきたいと思います。(川崎・女性・40歳代)
- 若者やこれから生まれてくる子どもたちが夢を抱ける社会にしたいです。新しい教育のあり方を追求すべきだと思います。(横浜・女性・20歳代)
- 弱者救済ばかりではなく(もちろん大事だが)、未来のリーダーとなる若者を伸ばし、育てる施策にも同じくらい力を入れてほしい。そうしなければ、この国は先細るばかりで、未来はないと思う。(横浜・男性・50歳代)
- 保育士・介護士はだれでもできるかもしれませんが、だれもができるものではないのです。保育士不足だからと言って「準保育士」なるものを作る動きがありますが、絶対止めてほしいです。ますます保育士の地位が低くなります。(川崎・女性・50歳代)
- 小・中学校(公立)は区域を決めず、自由に選んで行けると良い。(湘南・女性・50歳代)
- 子育て世代をもっと優遇してほしい。お金がなくて2人目、3人目を諦めている人たちはたくさんいる。保育園充実も大切だが、税金優遇などがあるとなお良い。(横須賀三浦・女性・30歳代)
- 今後、子どもを望む身としては、子育てにかかる費用の心配が大きいです。少子高齢化に歯止めが効かない現状を考えると、子育て支援や教育への金銭面の支援こそが日本の未来を作り上げる希望だと感じるとともに、私自身の願いでもあります。どうぞよろしく願いいたします。(川崎・男性・20歳代)
- 子育て(乳幼児～高校生)家庭の支援はもちろん、保育や教育に携わる方の質の向上や待遇の検討もよろしく願いします。(湘南・男性・20歳代)

- 子どもへの支援が他県に比べてとても乏しい。働きながらの子育て、教育に関する金銭問題、給食で医療費など本当に子どもをともに育てていこうという気が県政にあるのか疑わしい。もっと子どもへの支援を考えてほしい。(横浜・女性・40歳代)
- 子ども手当・子どもの医療証・収入に応じているため受けられません。収入に応じてではなく、子どもに対して考えてほしいです。中学校の給食も考えてほしいです。(横浜・女性・30歳代)
- 横浜市の市立中学校を給食にしてほしい。横浜市ほどの大都市が子育て支援、医療費や学校給食など、他の市や県より遅れているのは良くない。(横浜・女性・30歳代)
- 子どもたちの健全な教育なくしては、明るい未来はないと思います。家庭の教育力が低下している現代では、学校が担う部分が多くなって、先生方の負担が大きいです。学校の中の仕事を、今より多くの人で分担できるようにし、先生が一人ひとりの子どもと向き合える環境を作ってあげてほしいです。人間を育てるのはAIではなく人間です。(川崎・女性・50歳代)
- 子育て支援は、教育費がかかる高校生、大学生の世代まで支援していただけると良いと思う。(湘南・男性・50歳代)
- 将来のために、子どもたちの健全育成に特に取り組んでほしい。(横浜・男性・60歳代)
- 子育て支援の充実(2才未満の待機児童「0」)(県央・男性・40歳代)
- 学校給食が地域により、ある、なしの違いがある。統一、もちろん全校にあるということで話を進めてほしい。(横浜・女性・50歳代)
- 横浜市立の小学校で教員をします。子どもたちと楽しい毎日を過ごしていますが、現在、現場は深刻な人員不足です。欠員が4名いる上、代理の方が入ってきません。来ても非常勤ばかりで、授業以外の仕事はすべて残りの職員で負担しています。先日新たに産休に入った職員がいて、ついに担任が足りなくなりました。12月にはもう一人、担任をしている職員が産休に入ります。休日出勤(サービス)は当たり前で、職員は日々、精神的・体力的にもギリギリの状態です。子どもにも余裕をもって接することが難しくなっています。神奈川県・横浜市には一刻も早く対応していただきたい。子どもの教育を充実させることがいじめや未来の生活につながる大切なことだと思います。(横浜・女性・30歳代)
- 東京都のように、小児医療費の助成を中学卒業まで伸ばしてほしい。給食、冷暖房完備は必須(川崎・男性・30歳代)
- 保育の勉強をしている学生の一員として、横浜市に公立の幼稚園を作ることや、神奈川県全体の子育て支援策の強化を希望します。また、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等、教育、保育に携わる人の賃金の上昇を望みます。質の高い保育を求めるのならば、保育士や教育者が心のゆとりを持って職務に取り組むことができるように、働き手側の環境を整えるべきだと思います。(横浜・女性・20歳代)
- カジノなどに使用できる財力があるのであれば、中学校を給食にしたい。私たちは、神奈川県で生活しています。まずは、県民が充実して暮らせる身近な対策をお願いしたいです。横浜市と協力して、よろしく願います。(横浜・女性・40歳代)
- 私立高校の補助金について、大学や専門学校に進学する兄弟がいる世帯の年収の目安を考慮してほしいです。年収を増やすことをためらう世帯もいるだろうし、弟の進学先が公立に限定される世帯も出てくると思います。(県央・男性・40歳代)

- 多少ですが、問題のある先生もいらっしゃいますが、学校の先生が生徒たちを叱れない現況が深刻です。何かあるとすぐにしゃしゃり出てくる親が増えているため、同じ親として恥ずかしい思いです。それからもう1点、精神的に“弱い若者男子”も増えているのも大問題です。その他にもいろいろと問題はありますが、県と国の国家公務員の人たちには、本当に真剣に問題点に取り組んでほしいと思います(今のところほとんど期待はしていませんが…)。(横浜・男性・30歳代)
- 共働き家族が標準になって来ている。中学校給食はやはり必要です。(横浜・男性・60歳代)
- 幼児教育無償化について。金額の負担について、住民税非課税世帯に優しく、中流世帯に厳しいです。ほかの家庭が例え貧しくても、あるいは我が家と同じ年収であっても、実家が裕福であり金銭面及び家事、子育ての援助に厚いなど、年収では分からない面がたくさんあるので、法律の抜け道や、数字のからくりなどでの不平等感を多々感じます。一生懸命子どものために働いていても、実家に頼れず、(昔の人は実家に頼る人は少なかったと思いますが)日々の生活で一杯なのは事実です。認可保育所に入れず、保育料の高い認可外に入れざるを得ず、この先も高い保育料を払い続けていくのを考えるとばかばかしくなってしまう自分がいて、子どもはかわいいのにイライラしてしまうことがあります。自分一人の力で子育てをしている自負はあります。(川崎・女性・30歳代)
- 横浜市の公共施設や駅はエレベーターが少ないです。小さな子どもを乗せるのが大変で困ります。増やしてほしいです。トイレにオムツ替えできるシートやステップもあまりなく土日は特に困ります。また、子どもが食事しやすいお店も横浜駅周辺は少ないです。子どもを育てにくい環境を感じます。(横浜・女性・30歳代)
- 中学校の部活動の運営(実施時間のルールがあいまい、下校時の安全面への配慮不足)に、疑問を感じる場所が多々あります。学校任せにするのではなく、県としての指針、通達の徹底とチェックをお願いできたら幸いです(ルールはあっても守られていない、教員独断で進めているなど)。(川崎・女性・40歳代)
- うちには小学生以下の子どもが4人いますが、所得制限にギリギリのところまでひっかかっているようで、乳幼児医療証がもらえません。ですが収入がそれほど多い訳ではないので医療費にとっても不安を感じています。まだ小さいので風邪をひいたりケガをしたりはもちろん、アレルギー持ちの子どもがいたり、けいれんをくり返し何度も入院したことがあります。歯医者にかかってもみんな連れて行くと1度に1万円位かかったりするので、検診や治療を受けたくても子どもたちを順番にしか連れて行けなかったりします。子どもの医療に関する制限が緩まることを切に願っています!!本当はまだ子どもをもうけたいと思っていますが以上の点が不安で踏みきれません。(横浜・女性・30歳代)
- 現在は分からないが、教師の質を上げてほしい。小学校でも、高学年になったら、科目によって教師を分けてほしい。理系文系程度で良いので。体育の担任是最悪である。神奈川県で生まれ育ち他県に住んだことがないのですが、他県の方々に神奈川県教育はひどいと言われる。悲しいです。(湘南・女性・50歳代)
- 横須賀には屋内型の乳幼児が遊べる施設が少ない(愛ランドくらい)。もっと増やしてほしい。(横須賀三浦・女性・40歳代)
- 幼稚園、中学、高校、無償もよいが大学、短大の学費が高すぎる。全体的に考えてほしい。全然平等ではないと思う。(横須賀三浦・女性・40歳代)

- 保育園に入りづらい状況を改善してほしい。4月にしか入れないことにより不平等が生まれ、4月でも我が家は認可保育園に全部落ちた経験がある。川崎市と横浜市でも入りやすさや延長保育時の補食(夕飯)の取扱いに違いがあるなど、県内でも「より保育園に入りやすい自治体」に住民票をおくよう引っ越しをする人も多々いる。市の問題かもしれないが、県でも意見交換やよりよいモデルの追求(のための勉強会)などに積極的に関わり、まとめていってほしい。また、産前産後の支援、職場復帰の支援など東京都よりサービスの質が低い印象がある。(例、ベビーシッター代補助等)産前産後のヘルパー派遣補助は子育て支援のみならず、妊産婦の孤立、自殺防止にもつながる重要な役割を果たす。是非その分野への注目、重要度の引き上げ、予算増をお願いしたいです。(川崎・女性・30歳代)
- 小学校、中学校の全国学力テストで、神奈川県の実績が下位に位置しているのが気になる。私が小・中・高を過ごした石川県は、公立校でも学校の中で学習指導に力を入れていた。しかし、神奈川県は外部の塾に、勉強を任せすぎていると思う。高校受験(県立)する時、塾のデータがないと、合格基準が分からないため通塾している中学生がほとんどである。そのため、塾がもうかっている。月々3万円かかり、受験前には月々6万円くらいかかる。特色検査など取り入れても、結局中学では対処できないため、塾に対策をゆだねることになってしまう。塾代が家計を圧迫しているのは事実です。そのために、仕事を始めるお母さん友達も多かった。(湘南・女性・50歳代)
- 最近の幼保無償化とか若い世代の優遇に疑問を感じます。少子化で子ども人口増は分かりませんが、増税で庶民の暮らしは大変で老後が不安です。老人福祉も考えてほしいです。(相模原・女性・60歳代)
- 私立幼稚園に子どもを通わせていますが、平日の保護者参加行事が多すぎます。県全体で減らす傾向にしていただきたい。(横浜・女性・30歳代)
- 小学校での英語教育を充実させるために、英語の専門家を学校に配置してほしいと思う。現在の小学校教員は英語の教員免許を持っている人は一部で、ほとんどは英語を教えることを前提とした採用はされていない。そんな素人に大切な英語教育を任せておいて良いのか疑問に思う。神奈川県の実政に期待している。(相模原・女性・50歳代)
- 次世代を担う子どもたちの健全な育成は学校教育にかかっていると思います。横浜市では、教員が不足していて現場で働く人が多忙を極めています。教員の人数増加、質の向上に力を入れることは、10年後の実政に大きく関わってくることだと思います。実政の中核に学校教育の充実を入れてほしいです。(横浜・女性・40歳代)
- 学校の実備をよりよくしてほしい(学校によって、きれいさ、実備の実質さに差があるため)。(県西・女性・20歳代)
- 病時保育を行う実施の増設。県内中学校への給食安全提供(川崎・女性・40歳代)
- 子どもが小学校入学以降、塾などの教育費が負担になってくるので、幼児教育無償化でとどまらず、さらに負担軽減されるような仕組みを作してほしいです。(湘南・女性・40歳代)
- 子育て世代の専業主婦が見捨てられている。(相模原・男性・50歳代)
- 子どもを道連れにした無理心中など、小さい子どもが犠牲になる事件が多くなっているため、市とも協力して、親の子育てケア、親からの虐待等の事件が1件でも少なくなるようにしてほしい。(横須賀三浦・女性・40歳代)
- 駅周辺の実認可保育園の数を増やしてください。夫婦共働きですが、資料を見ると倍率が高く入園できるか不安です。(川崎・男性・30歳代)

- 子育て世代への支援をもう少し考えてほしいです。私の市では妊婦健診の補助券の額が以前より減額されたり、圧倒的に保育園の数が足りず、1歳児では保育園に入れないからと仕方なく0歳児を預けようとした友人数人が、皆保育園に落ちたりしています。妊婦健診は高額で、ただでさえ出産準備で支出が多いのに痛手ですし、出産後についても仕事を続けられなければ今後の収入が減り、子どもを安心して育てることもできないのに、そもそも保育園に入れない現状があります。確かに高齢者支援も必要かもしれませんが、その高齢者支援を支える財政基盤を今後担うのは若者です。その若者の所得を減らし、今後、県を支える子どもを産みにくくするような方策は、あまり県政にとってもよろしくないかと思います。高齢者支援の財源の一部を子育て世代に流してほしいくらいです。安心して子育てできる土台・経済政策をお願いしたいです。(県央・女性・20歳代)
- 横浜市在住です。この街は企業が多くあるせいか居住者のことを全く考えていません。中学校給食がないことも、子どもの医療費助成に所得制限があることも政令指定都市として恥じるべきです。このまま住む者に何の配慮もないままの街であれば形骸化していく一方でしょう。神奈川県としてもこの街を見て見ぬ振りすることは、将来的にも問題なのではないでしょうか。古き良き、ではなく、古き進歩のない街、横浜。ですね。(横浜・女性・40歳代)
- 縛り付けるより見守る青年育成を望む。(横浜・男性・40歳代)
- 子育てのしやすい県にするための政策を、各市区町村だけでなく県政でも行ってほしい(小児医療費の補助に対する収入上限の廃止や、中学校給食の導入、保育士の待遇改善、企業への指導など)。(横浜・男性・40歳代)
- 公立高校と私立高校の授業料の差が激しいので、もっと私立高校生がいる家庭への授業料の公費負担を増やすなど、免税の制度を作してほしい。(川崎・女性・40歳代)
- 何においても教育にお金と時間を費やしてほしい。教育というのは、コミュニケーション能力、考える力、正しいと思ったことを行える行動力や責任感を育てることだと思う。(横須賀三浦・女性・50歳代)

(6) 産業・労働

- 共働きができるよう、保育園の日・祝日の預かりをしてほしい。また、学童の預かりも環境を整えてほしい。短時間勤務も小学生低学年までだれもがとれる制度にしてほしい。病児保育を増やしてほしい。子育てしながら女性も働きやすい環境を整えてほしい。(県央・女性・30歳代)
- 労働時間の見直し。残業ばかりが世間では注目されているが早出についてはあまり言われていない。自分が現在勤めている会社では午前7:30~の業務だが、実際は、5:30~出勤している。この時間でないと、業務が間に合わないからだ。約2~1.5時間、月20日はタダ働きで作業をしている。働き方改革ってなんだ?調査してほしい。本社ではなく、小売の各店舗は店によっては、扱いがひどい。(横須賀三浦・男性・30歳代)
- 30、40代中高年の方で、働いていない人が働けるようになるように。(横浜・女性・80歳以上)
- 丹沢の山をもっと、登山だけでなく、林業などの産業につなげられるようにするための活動を期待する。(相模原・男性・50歳代)
- 職場によっては、労働環境がひどく、命をすり減らして働く状況となることもあり、労基法は抜け道が多過ぎます。また、ごまかされることも多過ぎます。良質の休息睡眠確保ができる、そのような労働基準局運営を望みます。(川崎・男性・40歳代)

- 家業手伝（主人も働いているが）ですが、国民年金だけでは、食していくのに精いっぱいだと思います。人生100年、元気で働けるうちは、がんばろうと思います。（横須賀三浦・女性・70～74歳）
- 私たちは今まで一生懸命働いてきました。子育てをしながら年金保険料を払い、今までの高齢者の方の生活を支えてきました。そして今、順番で私たち年を取り年金をもらうようになりましたが、年金だけではとても生活は維持できません。老後を不安なく生活できるようにしていただきたいです。60才定年で、その後再雇用として働けるのは良いことですが、お給料は半分以下です。これからの人のためにもこれは何とかならないでしょうか。お給料をもらい過ぎの月と、所得年金を合わせて28万円以上もらうと年金は減らされます。これもおかしい話です。28万では高収入ではありません(手取りで28万円ではないです。実際はもっと少ない)。今の若者が安心して不安なく年金保険料を払っていただくことを考えてほしいです。年を取って老いていくのは当たり前です。働けなくても生きている以上生活があります。是非考えてほしいです！！(県央・女性・60歳代)
- 介護施設に勤めていますが、介護職の地位向上、給与アップを求めたい。（湘南・男性・30歳代）
- 「人」を育てる余裕のある社会になってほしいです。子どもが3人いますが、正規の職に就いているのは1人で、求人を見れば経験や即戦力を求めすぎです。最初からできる人なんていないのにもと思います(多少の職業区別もありですが…)。親の年金や貯えで生活する子どもが増えるのは当然かと。（相模原・女性・60歳代）
- 「働き方改革」について。一生懸命真面目にがんばる人たちが報われる県政にしていきたい(毎日の超過勤務規定のチェック等)。（横浜・女性・75歳以上）
- 他県(東北)から就職で神奈川県に来て、結婚、出産を経てそのまま居住していますが、専業主婦の比率が多いように感じます。主婦の再就職支援の充実を願います(子どもの預かり体制など)。（横浜・女性・30歳代）
- 〈受動喫煙について〉バス停、すべての飲食店での禁煙の徹底をお願いしたいです。ぜん息持ちのため、地元でも横浜でも、歩道などで煙を吸ってしまうと発作が出ます。喫煙BOXをいろいろな所に作ってほしいです。（県央・女性・20歳代）
- 子育てが一段落して、働きたくても、できる仕事内容、希望仕事内容が、年齢制限で引っかかり、なかなか仕事が見つけれないのが現実です。独身時代に働いて貯蓄してきた物も、子育て中に学費等にあててしまい、いざ子育てが終わっても自分に使えるお金がありません。（横浜・女性・40歳代）
- インバウンドでもいいので、少しでも県内の景気が良くなるように対策をお願いします。個人事業主は、生活が大変です。先行き不安です。（横須賀三浦・女性・40歳代）
- 保育士、介護士の待遇改善を早急をお願いします！（川崎・女性・50歳代）
- 安心して結婚し、子育てをするため、ワークライフバランスの徹底された勤務ができるよう、環境整備を願います。（横浜・男性・20歳代）

（7）県土・まちづくり

- 外国人労働者が増えている昨今、お互いの異文化理解を目的とした活動を地域レベルで開催していけば、互いを尊重し合えるような地域社会を作っていけるのではないのでしょうか。（県央・男性・20歳代）

- 町内会（自治会）の運営が、高齢化により役員になる人が少なくなっています。町内会（自治会）の会費も、その会の運営も、自治会で決めています。中には昔からの古い考えで行われている自治会もあり、退会する高齢者家族も多い状態です。少しでも良い町内会が増えればと思っています。よく方向性を示され、会費の適正化や、運営について、助言や検証してもらえる部署はないのでしょうか。役ができなくなった高齢の家族（一人・二人暮らし）が安心して暮らせる町内会の仕組み作りが示されることを希望します。（相模原・女性・70～74歳）
- 9月にあった台風で、千葉では大きな被害が出ています。停電が長く続いてしまうことは、いつ神奈川県で起こるか分かりません。そうなった時にどうするか、何を準備しておくか等、しっかりと考えていってほしいと思います。そのために自治体への声かけなども早々に行っていくてください。後になるとその危機感が弱まってくると思うからです。神奈川県でも千葉県ほどではないですが、被害が出ていますので、ぜひ今後の対策に生かしてほしいと思います。（横浜・女性・30歳代）
- 社会全体で、お互いに積極的に参加できる地域作り（相模原・女性・60歳代）
- どこでもそうになっていますが、新しく転居した者が、地域活動に参加する方法が分からず、参加しにくい環境にあると感じます。安心、安全な地域を作るには、昔からお住まいの方と新しい住民との交流が重要だと思います。神奈川県として何か地域に働きかけをして、県外や他地域からの住民が参加しやすい、話ができるシステムを構築してほしいと思います。（横浜・男性・40歳代）
- 空き家を目にすることが多くなりました。家が傷み荒れていくのを日々目にするのは、心が痛みます。後を見る人がいないのでしょうか、防犯や火事等または通行する人たちがけがをすることのないように、空き家の対策も考えていただきたいと思います。（湘南・女性・60歳代）
- 公園の草が生えっぱなしで整備されていない。また、新築戸建がたくさん増えてきたのにスーパーやコンビニなどができず、近所の人々が不満である。（湘南・男性・30歳代）
- 神奈川県は歴史ある重要文化財の多いところだと思います。開発よりも保全に力を入れていただきたいです。（横浜・女性・30歳代）
- 近所に、カラスと猫の餌やりをする住民がいる。それが原因で地域トラブルに発展している。行政も警察も対処できず、新たな条例などで取り締まってほしい。（横浜・女性・30歳代）
- 神奈川県は東京に比べて魅力的な求人や会社数が圧倒的に少ないと感じるため、サービス業だけではなく、たくさんの優良企業の誘致をしてほしいです。（横浜・女性・30歳代）

（8）県政一般

- 何でも「ホームページを見て」となっているが、ネットとつながらない人も、パソコンがない人も高齢者には多いです。役所から来る書類の記入も難しい。プレミアム商品券も分からない。どこで使えるのか。書類を郵送ではなく窓口まで等となっても、高齢でそこまで行けない人も体調が悪くて行けない等もある。役所の窓口の対応もほぼ良いのですが、時には大きな声で情報が聞こえてしまうのではと思う人もいました。（相模原・女性・70～74歳）
- 犬、猫の殺処分0を今後も推進していただきたいと思います。（横須賀三浦・女性・50歳代）

- 人口は減少しているにも関わらず、新築マンション・住宅の建設が盛んな状態は、もう少し自治体の考えを持って問題として取り組むべきでは。空き家が一方では増えている…。(横浜・男性・40歳代)
- 今回の台風のような大災害が発生した場合、知事は一刻も早く自衛隊の出動要請を行い、早急な復興ができるよう緊張感を持ってほしい。(湘南・男性・75歳以上)
- 県政が私の生活に影響することを感じたことはありません。横浜市民に何かしてくれているのですか。(横浜・女性・50歳代)
- 税金1円1円かもしれないが、一人ひとりが命かけて、働いて、貯めたお金。大切に使ってください。カジノは、いりません。(横須賀三浦・男性・40歳代)
- 防犯上の問題にもなるが、相模原が政令市となったことで道路や草刈りなどが、特に緑区の奥などに、行き渡らなくなっていると思われます。何でも、政令市へ移譲したままにするのではなく、神奈川県として、財政の困難な部分への支援、そして、県民でもある市民生活にも目を向けてもらいたいです。(相模原・女性・30歳代)
- ムクドリ対策。全国的に問題になっていますが、定期的な街路樹の伐採やフン駆除をお願いしたいです。以前、区役所でお聞きしたところ、公園の樹木については、基本的に、伐採やせん定はよっぽどのがない限りしないとのことでした。マンションが十何棟も建っている公園も多い住宅地に住んでいるので、住民の声を吸い上げるようなアンケート等があればいいのでは、と思いました。県政なのか市政なのか分からず、書かせていただきました。(横浜・女性・50歳代)
- 老後の生活が今から不安で貯金しています。経費削減できる所を削減してもらって、税金をもっと大切に使ってほしい。必要のない所に使われている税金が多いと思います。(横浜・女性・50歳代)
- 横浜にカジノができるのはどうかと思う。できるのなら、きちんとルールを決めた運営にしてほしい。依存は怖いですよ。(湘南・女性・50歳代)
- 現在注力中の事業等、県民に良く分かるように、情報発信方法を工夫してほしい。(横浜・男性・60歳代)
- 横須賀市は高齢化が著しい。老人が楽しく暮らせる県政であってほしい。(横須賀三浦・男性・60歳代)
- 税金の使途について分かりやすく広報してもらいたい(現在行われてはいるが、複雑である分かりにくい)。(湘南・男性・50歳代)
- 横浜市へのカジノ誘致には断固反対です。治安悪化、ギャンブル依存症問題等の悪影響のためです。これらの問題が横浜市で発生すれば、他の神奈川県内の地域への悪影響の波及は必至です。(湘南・男性・20歳代)
- 県政の実態が身近に感じられない。(相模原・男性・75歳以上)
- 県政の様子ほとんど伝わっていない。横浜市に住んでいないため、県政の恩恵をほとんど受けていないと思っている。文化施設、健康施設なども含めて中心にいる人だけは受けられる。相模原市の中でも、自分の周囲に利用できる施設がない。(相模原・女性・70~74歳)
- 横浜のカジノ施行、大反対です。経済優先は人の心をむしばみます。(川崎・女性・50歳代)
- 横浜市が進めている I R (ギャンブル) の構想には絶対反対です。もっと頭を使って家族、恋人が一日楽しめる物を考えてください。神奈川県からもぜひ横浜市にアドバイスを…。(横浜・男性・75歳以上)

- 物価も上がり、支払うお金にすべて税金がかかる国、日本。税金がかからないのは僧侶に払うお布施くらい。年金だけで生活が維持できるのはほんの一部、年寄りも生きているのは85歳くらいまでで、これから生かされている人が多くなる高齢者社会で、暮らしていくのは本当に大変なことです。高齢者の低所得者層に対して抜本的な対策を望んでいます。例えば、神奈川県は山、海に恵まれているので、生活インフラの中の「水」について月間〇〇m³までは無料にするとか、支払っている税金に対して何らかの還付策を実地してほしいです。財源確保として、ゴルフ場利用税のアップ、スポーツ観戦税、音楽コンサート入場税、高額な車に対しての追加課税、一定の金額以上の飲食に対しての追加課税など、上記などは日常生活に余裕がないととても利用などできません。要はきめ細やかな対策を望みます。(県西・女性・70～74歳)
- 社会的弱者に生きがいを感じさせ、真心のある県政を切望します。(湘南・男性・70～74歳)
- 横浜市でのIR誘致に関しては、賛成です。高齢者の福祉にかかる税金に対しては、縮小方向を望みます。高齢者の高額医療も縮小の方向を望みます。未来のある若者たちのために大事な税金が使われることを望みます。(これ以上若者に税額の負担が行かないように)私たちベビーブーム世代が高齢者になるころには、70才を過ぎた人の高額医療を認めるべきではないと思います。また、それに向けて尊厳死を認めるべきと思われる。(横浜・女性・50歳代)
- 県政についての情報が少ないため、アンケートの内容も「わからない」が大多数を占めています。前述の状態をまずは解消する必要があるため、神奈川県での、市での取組を積極的に県民に知ってもらうことが必要であると思います。「詳しくは県のHPを確認してください」ではなく、郵送で送付したり、説明会を常に開催したり、常に知ってもらう取組をしていただきたいです。すでにいろいろな情報を発信しているのかもしれませんが、県民には届いていない情報も多くあると思いますので、民間企業の営業セールスのように自分たちのことを知ってもらう取組をお願いいたします。(横須賀三浦・男性・30歳代)
- 神奈川県の顔でもある港を持つ横浜市にカジノを造るのは絶対反対です。歴史的文化の町横浜のイメージが壊れます。(横浜・女性・80歳以上)
- いろいろな制度を分かりやすくしてほしい。申請したら受けられる、ではなく、行政から積極的に対応してほしい。高齢者など情報収集が不得手な人々はとても損をし、せっかくの制度が生かされないのはもったいない。(横浜・女性・30歳代)
- 面白いもの、楽しいこと、興味がわくこと、便利なこと、あったら良いと思うお店…これらは、みんな横浜や藤沢あたりにある。県西にも、いろいろな年代の人、いろいろな事情を抱えている人が、住んでいるはずなのに、同じ神奈川県とは思えないほど、何も無い。差がありすぎ。(県西・女性・50歳代)
- 横浜市に居住し60数年になるが、県立高校と急傾斜工事以外は特に税負担に相当した施策、恩恵を受けた実感がない。神奈川県は横浜市、川崎市、相模市の政令市や中核市を除くと存在感は大きいかも知れないが、特に政令市との関係において県議会議員も含め制度の見直しが必要であるとする。(横浜・男性・70～74歳)
- 横浜市が進めようとしているIRの誘致について、県として「反対」をしてほしい。(湘南・男性・60歳代)
- 年度末の予算を使い切るためと思われる道路工事の費用を、命を守るための整備に使ってほしい!(湘南・女性・60歳代)

- 横浜市が、カジノを含む統合型リゾート（IR）の誘致を表明したことについては、大反対です。横浜市民も反対の人が多くと新聞にも書かれている通り、将来あと10年20年30年何も良いことはないと思います。「賭博」で財を成しても幸福なまちづくりは、できないと確信しています。外国でも失敗例は多いと聞いています。神奈川県の方針としてカジノの誘致は、行わないでください。（県央・男性・70～74歳）
- カジノは、横浜市には、全く必要ありません!カジノがあることにより、メリットよりデメリットの方が大きいと考えます。明るく健全で元気な横浜市に、影を落とすようなカジノは、いりません!(横浜・女性・40歳代)
- 助成金等、地域格差が大きすぎる。（横須賀三浦・女性・50歳代）
- 若い世代への行政の取組やお得な情報を、もっと見える形でアピールしてほしい。（例 SNSや動画など）神奈川県出身の有名人にもっと県を世界にアピールしてもらいたい。（横浜・男性・30歳代）
- 横浜市が「カジノ」誘致をしようとしているが、税収増を図るより、支出減を図り、もう少し落ち着いた社会生活ができる地方を目指せるよう取り組んでほしい。（横浜・男性・60歳代）
- 今ある多くの自然を残し、皆が納得する税金の使い方をして他県に自慢できる神奈川県にしてください!(県央・女性・60歳代)
- 知事が公約したソーラー設備の補助金の増額をしてほしい。選挙の時だけ良いことを言わないで実行してほしい。できないなら最初から言わないでほしい。横浜市長の林文子みたいに!!(横浜・男性・50歳代)
- カジノ誘致には反対します。パチンコなどのギャンブル依存者を減らす施策をとってほしい。外国人労働者等の受入れについて、地域の人に不安を与えない対策を考えてほしい。新横浜駅前の工事を計画的にしてほしい。税金の使い方を県民に分かりやすく開示してほしい。虐待などにより子どもたちが命を失うことのないように、十分な対策をしてほしい。いつまでも素敵な県・市であり続けられますようにお願いします。（横浜・男性・40歳代）
- 横浜市及び神奈川県内へのカジノ設置に反対します。横浜市にカジノができれば周辺自治体の治安の悪化も予想され、民意を問わずに誘致することは許されないと思います。（横浜・男性・50歳代）
- 子ども、老人、障がい者だけでなく、20代、30代にも、もう少し目を向けていただけるとありがたいです。（横浜・女性・20歳代）
- 少し意図は違いますが、増税分の2%は、それぞれの分野で消費するのではなく、将来の子どもたちのために、国、県、市としての借金を返してほしいです。（横須賀三浦・男性・50歳代）
- 広報を読みますが、区の催し等は参加することがありますが、市や県となるとあまり行ったことがありません。区が身近に感じられるからでしょうか。そこで満足してしまいます。あまり県単位で学んだり考えたりする機会が少ないのか、私が気付かないのか。でも住みやすい所です。（横浜・女性・60歳代）
- カジノ誘致に反対です。（横浜・男性・70～74歳）
- 市政は身近だから分かりやすいが、県政の効果がよく分からない。（横浜・女性・30歳代）
- 少子高齢化に対する具体的な策に取り組んでほしい。（横須賀三浦・男性・30歳代）

- 広報誌をより親しみを持てる見やすさに（クイズ形式や関連記事の紹介、実生活につながる案内など（絵入りで））。（横浜・女性・60歳代）
- 生活保護について、最近、生活保護を受けている方で、外車に乗っている、ブランド物のバッグを持っている、お金がなくなった（パチンコで使用してしまった）ので病院に入院する（具合は悪くない）などが目に付きます。必要な生活保護であればよいのですが、上記のような方は、いかがなものかと思えます。（湘南・女性・30歳代）
- JR本郷台駅のすぐそばにある「あーすぷらざ」ですが、あまり有効に活用されているように思えません。施設として面白味がないので、イベント内容や展示の見直しを検討してほしいです。（横浜・女性・30歳代）
- 川崎北部に住んでおりますが、10年前と比べ、緑地を伐採したマンションの建設が進んでおり、自然が減っていくことが残念でならない。今後は緑豊かな開発を神奈川県全体で進めていただきたい。柿生駅前にタワーマンションの建設の予定があるが、人口の増加に対して、周辺のインフラが整っていないし、のどかな柿生には不必要だと考える。少子高齢化が進む中、短期的なメリットのための開発はやめてほしいです。（川崎・男性・40歳代）
- 横浜市が進めて行こうとしているカジノは、神奈川県としては反対してほしい。もっと品のある考え方や、長期的な視点に立って、横浜に新しい文化や歴史が作られていくことを望みます。（横浜・男性・60歳代）
- 県政の予算で、各地区(市、町、村)に分配した予算が、いろいろな公共事業に、的確に無断で使われてないか、再確認を常に行ってもらいたい。そして(各市町村)は、税金の無駄遣いがないう、管理徹底をお願いします。（相模原・男性・70～74歳）
- ゴールデンウィークに京都府に行き、外国人観光客のあまりの多さに驚がくしました。ところが神奈川県(横浜)に帰ってきたら、アレッ！？外国人が少ないではありませんか。国際都市のはずだし、東京都への利便も良いのに、なぜ…。神奈川(横浜)は、日本人が憧れる国際都市なのであって、外国人が来てみたい、本当の国際都市ではないのかも…。魅力があまりないのかもと思ってしまいました。外国人観光客が増えればよいというものではありませんが、まちの魅力作りに力を入れてみてください。観光資源、ホスピタリティー、神奈川県の子どもたちは、全員そこそこ英語がしゃべれる等…良いのでは。ただし、魅力と言ってもIR(カジノ)の反対ですが…。（横浜・女性・60歳代）
- 予算の上で、メリハリのついた施策をしてください。（横浜・女性・30歳代）
- 市の情報に対して、親近感が遠く、理解しにくい。（横浜・女性・75歳以上）
- 観光地としての意見。神奈川県としてのイメージは、横浜のイメージが強すぎて、何かぼんやりとしています。神奈川県は横浜だけでなく、県央、県西にはとても魅力があり、いまだ他県の方が知らないことも多いと思われまます。もっと、アピールしたらと残念です。（川崎・女性・40歳代）
- 生まれてからずっと神奈川県に住み続けているが、住んでいる地域のことさえ明るくない。情報を知る場、参加する場などもっと身近になったらありがたい。（川崎・女性・50歳代）
- 海外とのおつきあいも大事でしょうが、日本国内の整備にも「力」を入れてください。これから高齢化が進みます。今の若い世代だけでは支えきれません。（湘南・女性・50歳代）
- 神奈川県は住みやすい所だと思う。これから増える高齢者にも、適切な対応をしてほしい。（横浜・女性・60歳代）

- 横浜にギャンブルの話が出ていますが…のめり込んだ人の後始末は…。60年前東京都知事(美濃部さん)に小学生の子どもから「ぼくの家のお父さんはギャンブルばかりで、いつもお金がなくて貧乏です。何とかしてください」と美濃部都知事に手紙が…読んですぐに解決に向けて努力して答えました。横浜市は経済発展するために、ギャンブルのお金で潤うという考えは、いかななものでしょうか？泣く人、笑う人(県政)を作ってはいけないと思います。役所に、立派な考えを持った人はいませんか？(相模原・女性・75歳以上)
- 神奈川県もしくは横浜市は、市県民税などがとても高いと感じます。水道代も含め、税金なども高く…その割には市民に何かしてもらっているのか…。(横浜・女性・30歳代)
- 横浜市にカジノは絶対にいない！知事は反対しないのか。政治家の県政への意識が低くすぎ。生活に困ったことのない人には、貧困な人々の生活等話分からないし、どうすればよい等を考える力のない政治家が多い。自分の権力や、利益のためなら動くが、民衆のため、社会のためなど、考える人がいないのではないか。いろいろな課題に取り組む時、真剣に考える力を、学ぶ力を身につけてほしい。何でも下に丸投げは良くないと思う。困ったことのない県政を行う人々は想像もできないと思います。県政を行う人々は、(入札した業者に仕事を丸投げすることなく)県のため、民のため、自分の仕事に真剣に取り組み、頭で良く考え、学び、日本の将来のため、行動してほしい。(横浜・女性・60歳代)
- 毎月発行される県のたよりを電子化してもいいのではないのでしょうか。年配の方々は紙がよいかもしれないので、各家庭にアンケートを取って配布するようにしたら資源も無駄にならないのでは。(横浜・女性・30歳代)
- 公共設備(西湘体育センターなど)のメンテナンス…例えば、冷却空調がこわれたまま！西湘地区に行政が入ってない気がして、税金が公平に使われてない気がします。(県西・男性・70～74歳)
- 子どもたちの笑顔が失われない社会を目指してほしい。道は一つではなく、将来に希望が持てる、一人ひとりがささやかでも輝ける社会、そう信じていることができる社会の構築を目指してほしい。受け入れ側の環境が整わない状況での外国人労働者の増加には歯止めの施策を講じてほしい(この問題は県政ではなく国政かと思いますが、神奈川県として国と違えても、独自性を打ち出してほしい)。神奈川県は、横浜市、川崎市をはじめとした都市部と自然豊かな山間部や海浜を有しているが、今一つ一つの県としてのまとまりを欠いているようにも見受けられる。全体的に見ても魅力あふれる県なので、地域が防災面(有事の際の県内疎開等)等でも補完しあえる施策を希望する。(川崎・女性・60歳代)
- 年老いた議員(65才以上)を選ばない改革をしてほしい。また、素質、能力テストを実施し、能力の高い者が立候補できるようシステムを変えること。一般市民は政党で選ぶのではなく、個人のやる気で選ぶ。県政審議では個人の考えで陳述するよう方向を変えること。議員の数を半分に減らす。議員や県、市職員の出張や視察は目的を持って行き、実施後は報告させること、また、県民市民にも開示すること。県も市も、“ハコモノ”はあまり容易に作らぬこと。県職員、市職員の数も1/3くらい減らすこと。効率が悪すぎる。(相模原・男性・75歳以上)
- 横浜市長がカジノを誘致しようとしています。神奈川県にカジノができるのは恥です。市に、やめるよう忠告してください。神奈川県には横須賀、相模原など米軍基地が存在します。沖縄について日本第2位です。神奈川県は恥だと思います。米軍基地撤去するような県政を進めてください。(横浜・男性・70～74歳)

- 国や県の組織は縦のつながりがほとんどですが、これからの地球環境に対応するためには、横のつながりが大切。今回の千葉県の台風被害では、都や県が会議(それに関する決め事)を開かずともすばやく対応(救援や宿泊や一時的移動等)できる組織が普段から組み込まれていれば、死なずに済んだ人もいたはず。国にも県にも市町村にも災害対応課を専門で作り、自治体内ではもちろん、自治体外にも横のつながりとして対応することが重要かと。千葉県なら、久里浜一金谷の船便を救済活動に使えたし、ライフラインの援助ができました。縦つながりではなく、横つながりを見直していただませんか。これから必ず来る大震災には絶対に必要なことです。(湘南・女性・60歳代)
- カジノはやめてほしい。すてきな港町なので。(横浜・女性・60歳代)
- 川崎市は交通の便も良く、街も整備され住みやすいと思います。その分、人口も増えましたので、治安のしっかりした街でありますように。また、自然をなくさないように、緑を減らさない努力もしてほしいと思います。(川崎・女性・50歳代)
- 神奈川県は都心に隣接し、交通の利便性も高く住みやすいところです。一方で、横浜や、鎌倉などの歴史と文化を感じさせる地域もあり、世界的に見ても魅力のあるところだと常々感じています。自然豊かな地域と都市部のそれぞれの魅力を発信し、若い人や外国人の方々がともに、そして障害のある方もすべての人が自分らしく、生きていけるようになってほしいです。弱者によりそう神奈川県であってほしい！！(相模原・女性・60歳代)
- 県政ではないかもしれませんが、横浜市のカジノ誘致のような政策は一県民の立場から考えても大反対です。市政であろうが県政であろうが、目先の経済効果ばかりにとらわれず、もっとグローバルな環境問題に真剣に取り組んでほしいと思います。これだけ自然災害が多くなった昨今の背景には、人間社会があまりにも便利さ、ぜいたくさを求めすぎ、その結果産業廃棄物など公害を増やしたため、地球環境が異変してしまったのではないかと。そういう問題にもっと目を向けてほしいです。(県西・女性・50歳代)
- 公務員気質が目立つ。議員と名のつく人たちが多すぎる。減らしてほしい。議員も定年制にしてほしい。なぜ外国と同じになることが良いのか分からない。日本らしい県政を！物価を下げしてほしい。企業が守られている。県民を守れ。県民(国民)を縛っている。だけの行政だ、心も中身も本気ではない。税を大切に使ってほしい。お給料だってなぜ公務員は高いの？優遇されすぎ。他のことも！このアンケートはこの部分だけで良いと思う。税金の無駄(湘南・女性・30歳代)
- 横浜市民の一人として、「カジノ絶対反対です！」震災や空襲にも耐え、見事に復興をなし遂げた横浜。今も日本各地で災害に遭われた地域の人々へ、「あきらめないで、頑張る精神。」の手本となって明るい未来へ希望を持てる、安全で住みよい都市として、日本各地、世界へと発信していけるよう、これからも皆で努力し、協力していきたいと願います。そのためにも環境や風紀を乱す必要はありません！(横浜・女性・50歳代)
- ①税金が高すぎる(無駄使いはやめて適正な使い方を)②派遣社員は勤務地までの交通費を負担している現実を是正してほしい。③カジノ建設反対④外国人の入国を制限すべき⑤外国人への待遇改善より日本人へのケアを優先すべきだと思う(外にばかり良い顔している)⑥派遣社員の契約3年制限をなくしてほしい⑦災害の復興支援を優先すべき！！⑧国会議員も定年制にすべきだと思う。(横浜・女性・50歳代)
- 市政にお願い。カジノ誘致反対。博打依存症になり、働く意欲をなくし、家庭が崩壊する。治安が悪化し健全な県でなくなります。(横浜・女性・80歳以上)

- 県のたよりは、紙媒体だけではなく点字版や音声版があることを知っているのですが、情報によっては、AR技術を活用してみても良いのではないかと思います。また、小中学生向けの紙面があると、学校教育の場だけではなく、家庭でも「地域に住む人間の一人」という認識を持たせるきっかけになるのではないのでしょうか。(横浜・女性・50歳代)
- カジノ誘致には反対です。生活保護の方の審査は、ちゃんとされているのか疑問に感じます。働かず、皆の税金で楽をしている人が多いと思う。(横浜・女性・60歳代)
- 自ら知ろうと調べない限り、県政についての情報が全く得られないので、もう少し発信してほしい。かながわ子育て応援パスポートの協力施設を増やしてほしい。アプリが使いづらい。(川崎・女性・30歳代)
- 工業団地の大型スーパーの誘致は良いことと思いますが、周辺の道路整備が進まなければ大変デメリットだと思います。(横須賀三浦・男性・50歳代)
- 県の政治や取り決めは、役所の末端の方々にちゃんと届いていますか。私は、そう思えません。役所や役場の方々は(一部かもしれませんが)他人事のような感じです。きちんと政策を決めたら、すべての公務員に知らせてほしい。(湘南・女性・50歳代)
- はっきり言うと県政の仕事って何をしているのか、知らない人がほとんどだと思う。黒岩さん、もっと県のためになるようなことをしてみたいかが。やはりメディアに出ている人が政治に首を突っ込み、ただ知名度だけでやっているようだと、これからの日本が不安。これからは老害をなくし、もっと若い人が頑張らないと。やはり国県市町を良くしたいのであれば、自分が良くなりたと思う人がトップを張らないと、駄目だと思います。企業もそう。ハングリー精神の多い企業が好調。そうでない所は駄目でしょう。皆が良くなると無理だと思いますよ。アンケートもいいけど、その分違う物にお金をかけるのもありだと思うが、もっと皆が良くなることをしてください。生活が安定しないから子どもも産まれないうし、人口が減るだけです。(県西・男性・40歳代)
- 相模原市は政令指定都市であり、市と県政との役割分担が不明確に思える。(相模原・男性・70～74歳)
- 横浜市のカジノ誘致には反対です。周りには小さなお子さんも多い集合住宅などもあり、悪影響を与えるのは目に見えている。会見では良いことばかり並べていましたが、マイナス部分に関しては、一切口をぬぐったまま…しっかり市民に対して説明をし、賛否を問うてほしいです。目先の利益ではなく、未来を見てほしいと思います。(横浜・女性・40歳代)
- 神奈川県に「カジノ」は絶対反対。子どもの教育に良くないことをなぜ親が？年金の不足を口実にするなら、年金をカットしてでも我慢します(横浜市政に苦言します)。(横浜・男性・75歳以上)
- 青少年や老人たちには優しい県だとは思いますが、20代後半から40代にかけての人たち、特に男性にはあまり優しいとは感じません。世の中を頑張っているのに、それが当然かのように扱われ、どんどん疲れていく。いつか世の中を支えきれなくなってしまうのではと危惧しています。何かを手厚くすればするほど、それを支える人たちに負担がかかること(公務員の方も含め)をもっと伝えてもよいと思います。公務員の方々の負担、かなり大きいと思います。(相模原・男性・30歳代)
- 県庁を、県央地域に移動してほしい。(県西・女性・20歳代)
- 県政ではありませんが、カジノの誘致だけはしてほしくないと思います。横浜市民の意見でした。(横浜・女性・60歳代)

- 市と県の行政施策のすみ分けがよく分からないので、県に何を求めたらよいか正直分かりません。(横浜・女性・40歳代)
- 横浜市のカジノ建設をなんとか止められないでしょうか。(横浜・男性・50歳代)
- 県職員の人件費の抑制(湘南・男性・60歳代)
- 男女で共同参画の機会を増やすことも大事ですが、能力の差、向き不向きは必ずあるので、平等というよりも対等であることの方が重要だと考えます。(横浜・女性・30歳代)
- カジノは慎重に進めるべきです。(横浜・男性・20歳代)
- 無駄をなくすため、市町村とは重複しないように、県がすべき施策を実施してほしい。(横浜・男性・50歳代)

(9) その他

- アンケート回答者に記念品を渡すなどで、回収率を高めてはいかがですか？(無償ではやる気が起きない。貴重な時間をロスする)。この調査が来るのは2回目なので、今回は他の家庭への調査をお願いします。これ以上アンケートに答えることはできませんので、今後は送って来ないでください。よろしくお願いします。(県央・女性・50歳代)
- 大変勉強になりました。環境は常に進歩してほしいものです。しかし、高齢者があまりぜいたくは言えませんが、よろしくお願いします。(横須賀三浦・男性・75歳以上)
- 身体障害2級、高齢、厚生年金暮しの自分が記入したものであり、特異性が高いと思いながら記入しました。(県西・男性・70～74歳)
- 設問が具体的でなく、よく分からない印象があり、役立つのかと感じた。(横浜・男性・50歳代)
- 初めてこのような調査に参加させていただきました。いろいろな質問について考えさせられました。とても参加させていただき良かったと思っております。(横須賀三浦・女性・60歳代)
- 私(80代)の若いころは、“これから”のことがある程度予想できたものです。現在は、物事が複雑化され、あまりにも早く、生まれては消えていきます。外国人とも共生していかななくてはなりません。少し立ち止まり自分で考えてみる部分がなくなってきたように思えます。その変化について行けない人たちが取り残されてしまいそうで、社会全体が深刻化していくのでは…と案じられます。親、学校、社会が“人間”として生きる最も大切なことを生きるすべを話し合っていかななくては…と思います。老人が思うより今の若い人たちは、うまく世渡りしていくのかも知れませんね。Good Luck!(湘南・女性・80歳以上)
- 神奈川県に住む皆さんは、笑顔でいる方々が多いと感じます。神奈川県はとても好きです。(横浜・女性・20歳代)
- 本アンケートについて、折り目部分にホッチキスをとめられると折ることができません。非常に折りづらかったです。(相模原・男性・30歳代)
- 回答の量が少し多かったです。3,000/1千万の確率を別のところでほしかったです…(笑)。折り目にホッチキスの針が被っていました。(横浜・男性・20歳代)
- 質問事項が多すぎる!最後まで集中力が続かない!(横浜・女性・70～74歳)
- 問8に少子化対策がないのはどうしてですか?!人口が増えていても必要だと思います。一番大事だと思います。その次に医療福祉、障害者雇用、中小企業支援、学校教育改革…。(川崎・女性・40歳代)

- 重要度、満足度の質問に対するチェックが6個あるのは多い。答えづらい。はっきりしない。(横浜・男性・50歳代)
- 動物愛護にももっと力を入れてほしい。(横浜・女性・50歳代)
- これを出したところで何も変わらないでしょう。変える気もないのに調査をして意味がありますか。ご意見として受け取るだけでは何の意味もないです。たかが3,000人にアンケートをとって、基礎資料にしても役に立ちません。もっと暮らしが楽になるよう、変えてください。(湘南・女性・30歳代)
- 決して身近な感じはありません。選挙の時だけでしょうか。(相模原・女性・70～74歳)
- 土地について、難しいことは分かりませんが、神奈川県は都心へのアクセスが悪いのに、なぜ地価が高いままなのでしょう。ある程度収入はあるはずなのに、税金が高く貯金ができず先が見えず(牛肉も買えず…)生活が苦しいです。(川崎・女性・30歳代)
- 街中に中国・韓国人があふれているが、コミュニティのルールを徹底してほしい。出入国管理が十分にされているとは思えない。治安悪化は、ヨーロッパを見れば十分。日本の国柄・国体の教育をもっとすべき。(横浜・男性・60歳代)
- I R誘致のことが話題になっていますが、県政、市政は民意に寄り添った行動をお願いしたいと思います。(横浜・女性・50歳代)
- このようなアンケートは重要ですが、質問の設定が適切でない(あいまいや一定の答えを促すようなもの)場合があります。次回までは是非改善を願っています。(横浜・男性・70～74歳)
- このようなアンケートも大切ですが、これに伴う、人件費、下請け費用も時間もかかっていると思う。増税もそうですが、それにかかる手間、費用をもっと他の人々の救済に利用すると助かるのに。その調査が、ただ、〇〇を調査しました。〇〇を報告します。というような、形式のみの役所のお仕事とならないように希望します。今後の県政に本当に生かして、良い方向へ神奈川県民が向かえますように！(横浜・女性・60歳代)
- 子どもを守ろうとする強い気持ちだが、自ずと明るい未来を作ろうという意欲につながるだろう。(横浜・女性・30歳代)
- 質問が多すぎて協力しにくくなる。同じような内容がある。(川崎・女性・40歳代)
- 県政がこのような調査をしていることを知りませんでした。県民の声を聞いていただけ、また取組を知ることができ、良かったです。ぜひ、今後の取組にご検討ください。(横浜・女性・50歳代)
- 満足度「あなたにとって、現在どの程度満たされていると思いますか」の質問の意味が、分からない所が多かったです。(県西・男性・60歳代)
- 問6の回答は、もう少し選択肢があると嬉しかったです。どちらかに決めるのが難しい問いがいくつかありました。(横須賀三浦・女性・40歳代)
- この質問を通じて、行政がどのような対策をされているのか、ほとんど知らない、分からない、ということを痛感しました。でも子どももお年寄りも身近にいないと、行政を近くに感じる機会があまりないなと思いました。(川崎・男性・30歳代)
- ひきこもりの子どもへの対策も重要だとは思いますが、まずはひきこもりの大人が社会と繋がることの方が重要だと思います。個人としてどうやって生きていくのか、そして周りの人たちと力を合わせて、どうやって生きていくのかが大切だと思います。その姿を見て、子どもたちは生きることを学んでいくのだと思います。(県央・女性・40歳代)

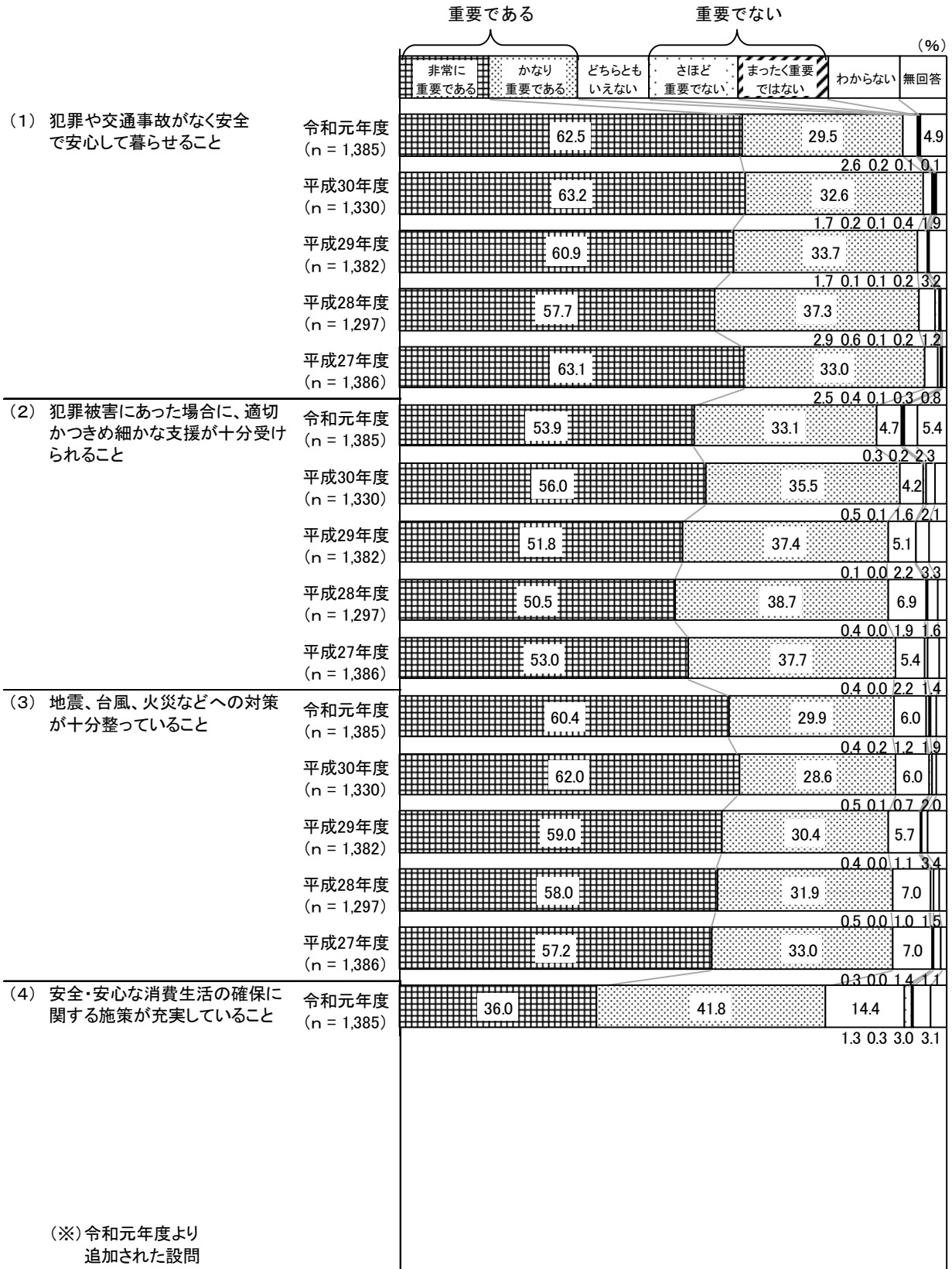
- 一体、これらの質問内容や、回答の選択肢で何を知りたいのかが不明。この調査に何の意味があるのか理解できない。(横浜・男性・50歳代)
- 紙回答とインターネット回答のフォーマットは同じにするべきである(インターネット回答時間が短いため、紙で下書きしネット回答するとやりづらい)。質問と回答が合っていないところが多い。(横浜・男性・60歳代)
- 「今後10年くらいの間～」の設問の意味が良く分からない。問6(17)【県民生活】について「いじめはあってはならぬこと」という認識だからなかったことにしようとする、今の間の抜けた対応になる。まず「あって当たり前であること」として捉え、発生した後でどうするかを考えるべき事柄であり、「思いやりでなくそう等」とズレたことを言っているうちは、絶対に今より良くなることはない。(湘南・男性・40歳代)

第V部 グラフ

(暮らしの満足度、県行政への要望)

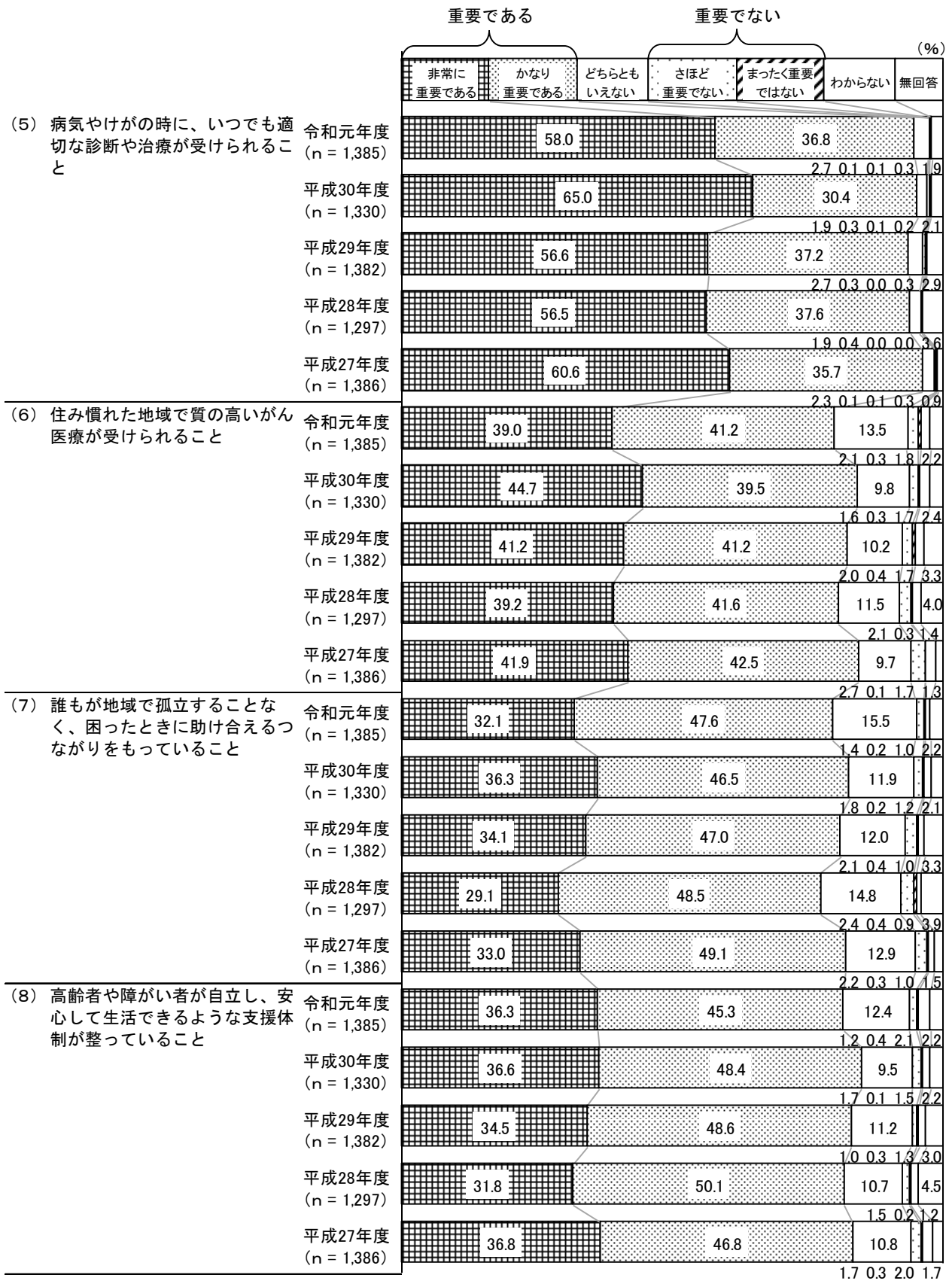
※ 地域、性・年代別の集計表については県民ニーズ調査のホームページに掲載しています。
(県民ニーズ調査：<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)

図表A 生活重要度一過去との比較

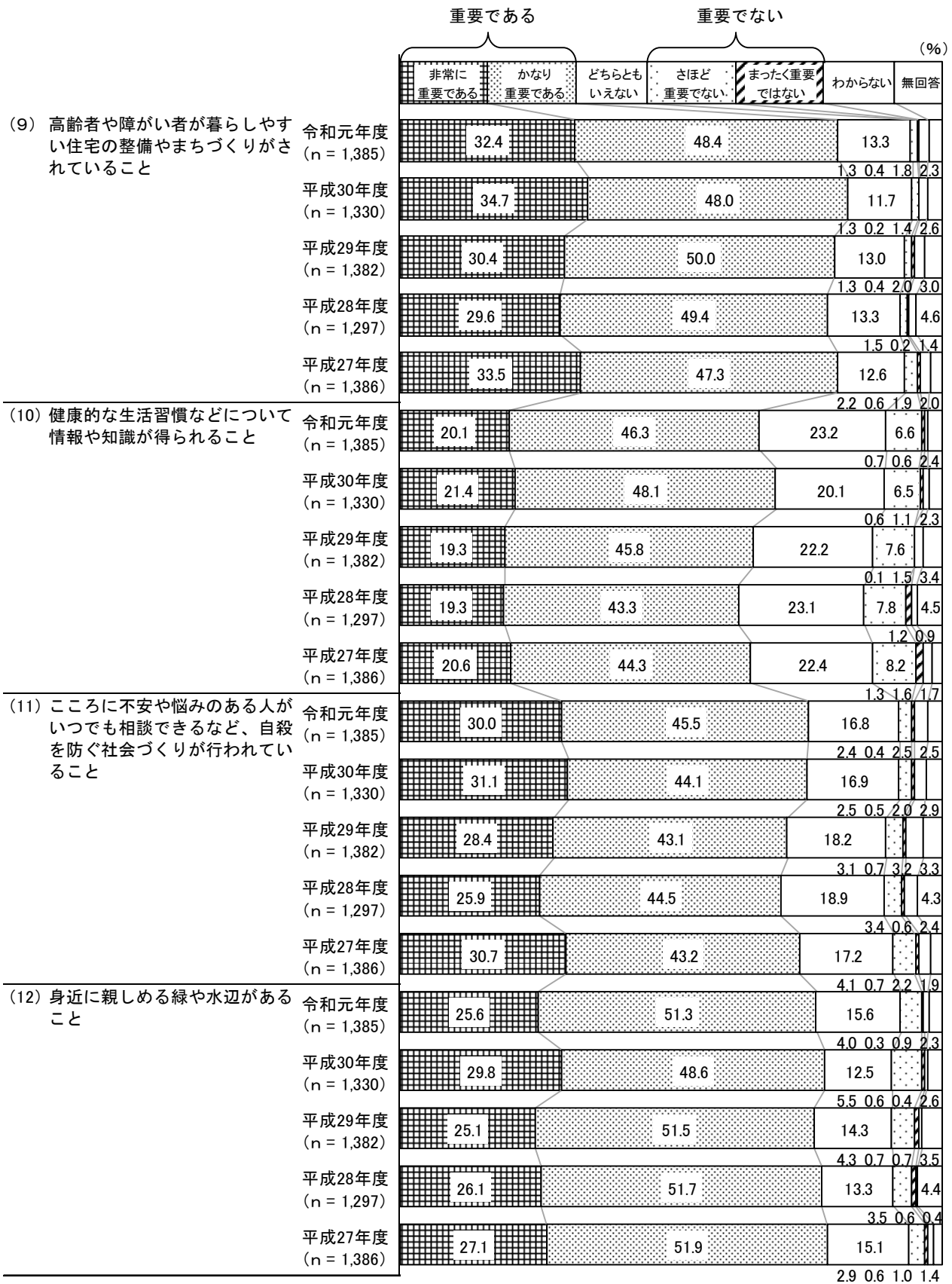


(※) 令和元年度より追加された設問

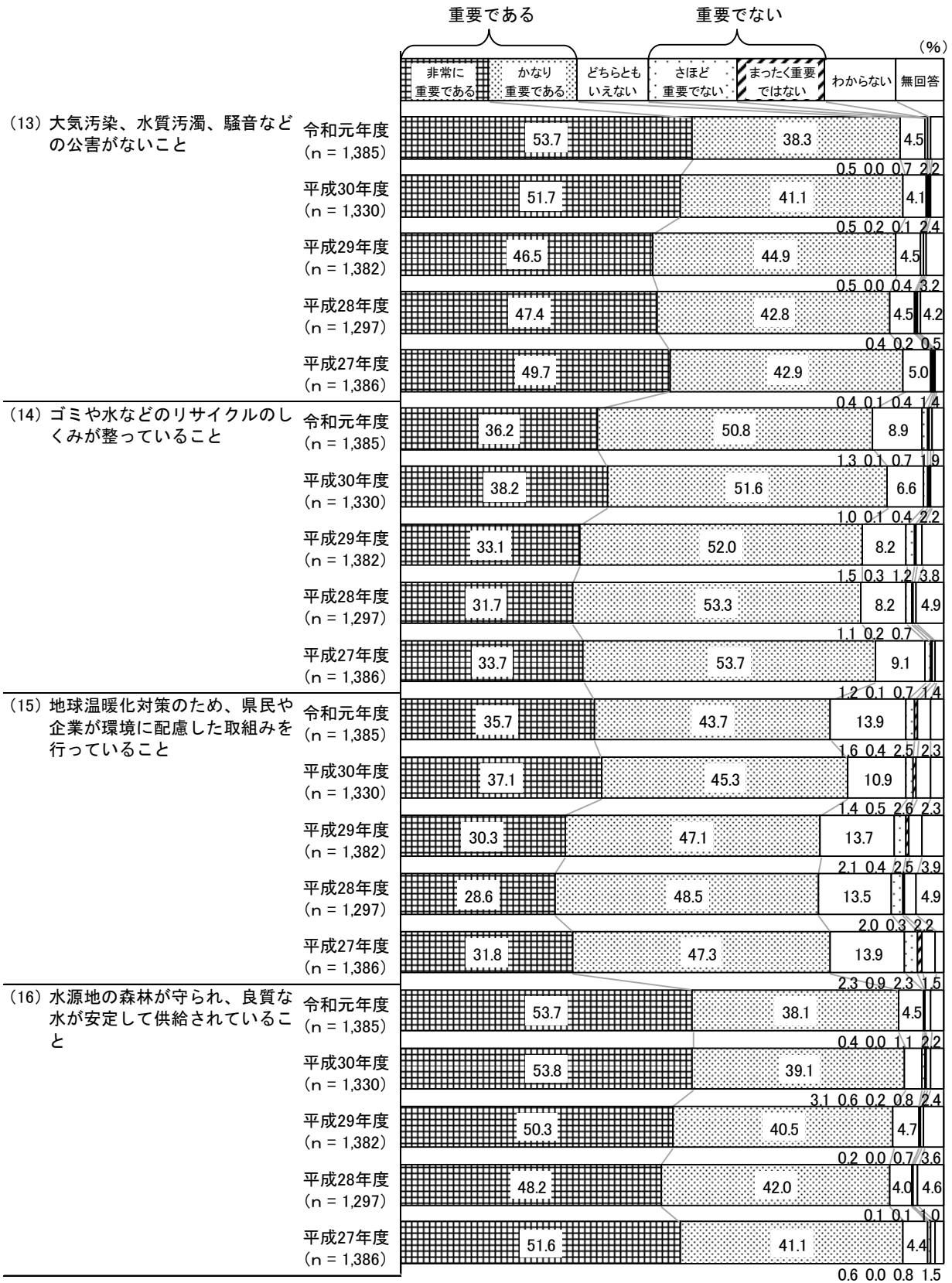
図表A 生活重要度—過去との比較（つづき）



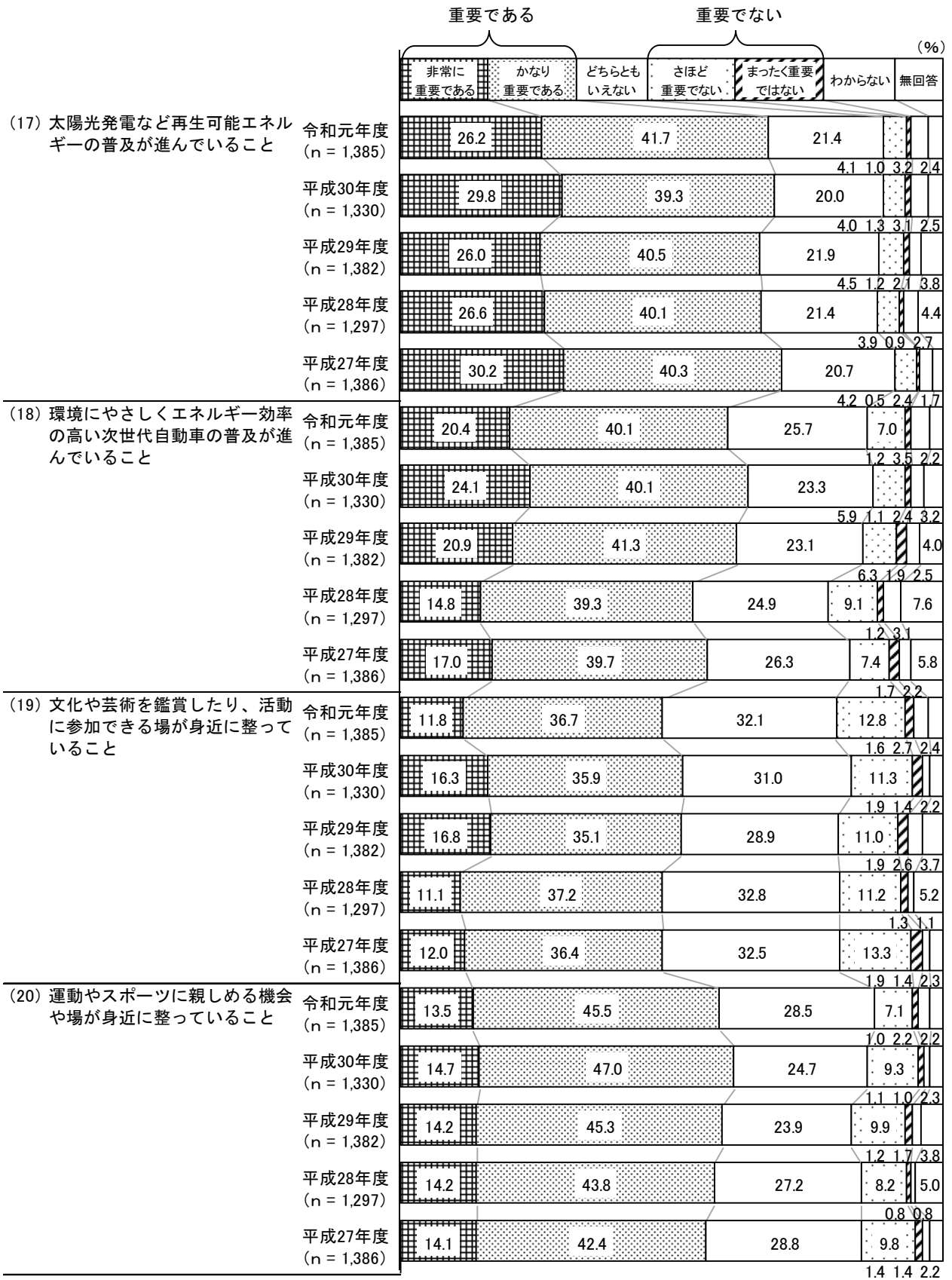
図表A 生活重要度—過去との比較（つづき）



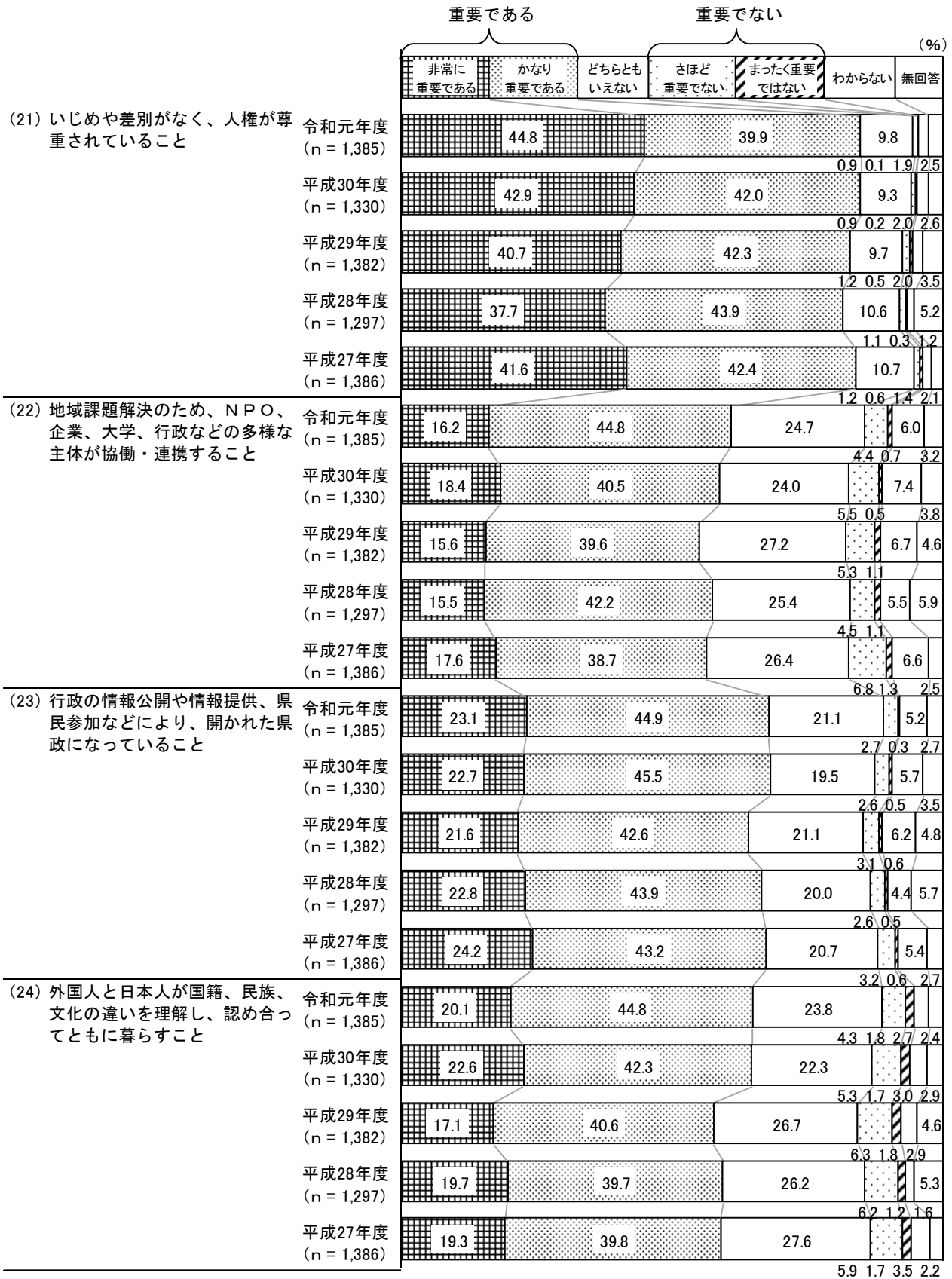
図表A 生活重要度—過去との比較（つづき）



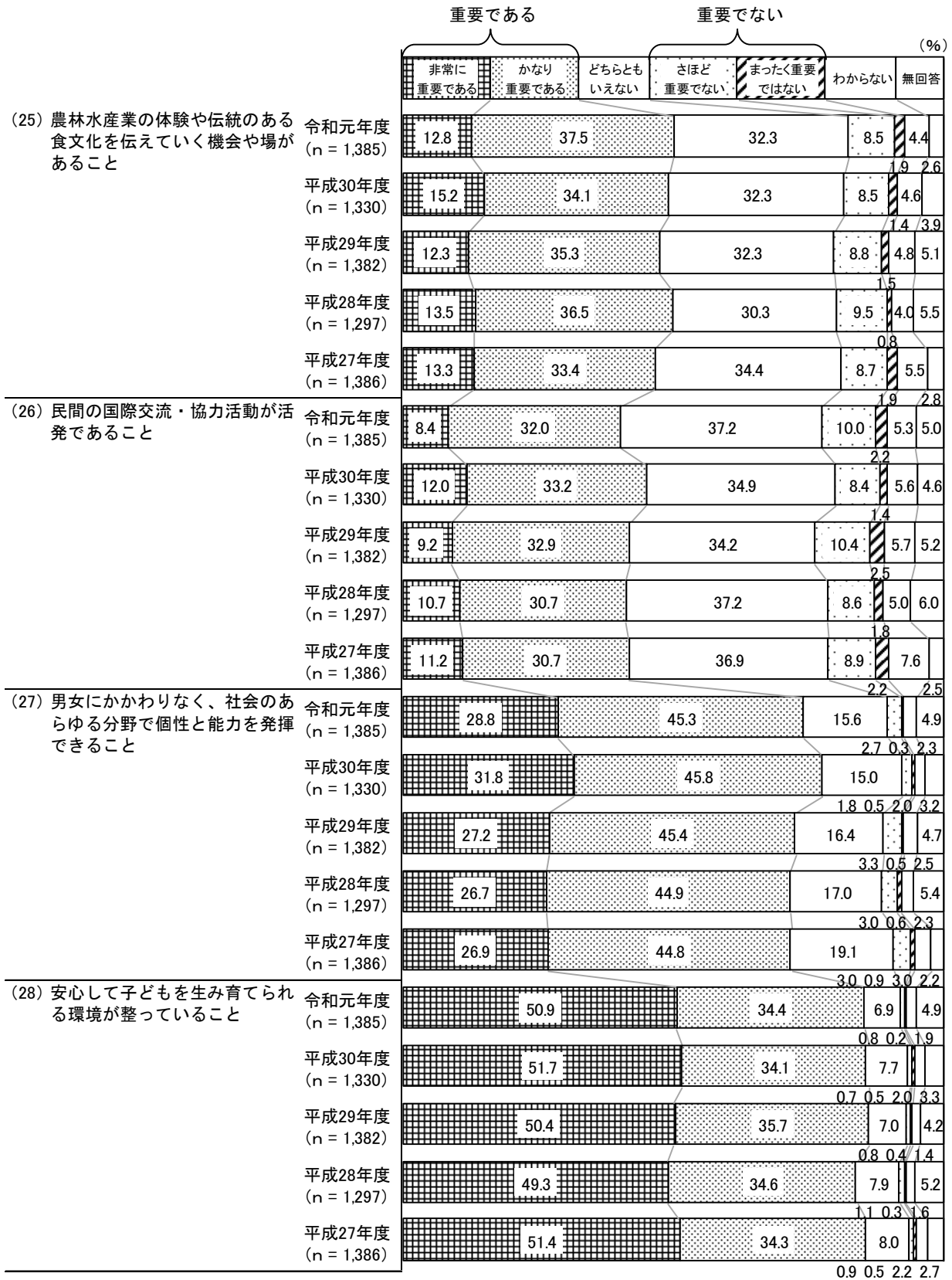
図表A 生活重要度—過去との比較（つづき）



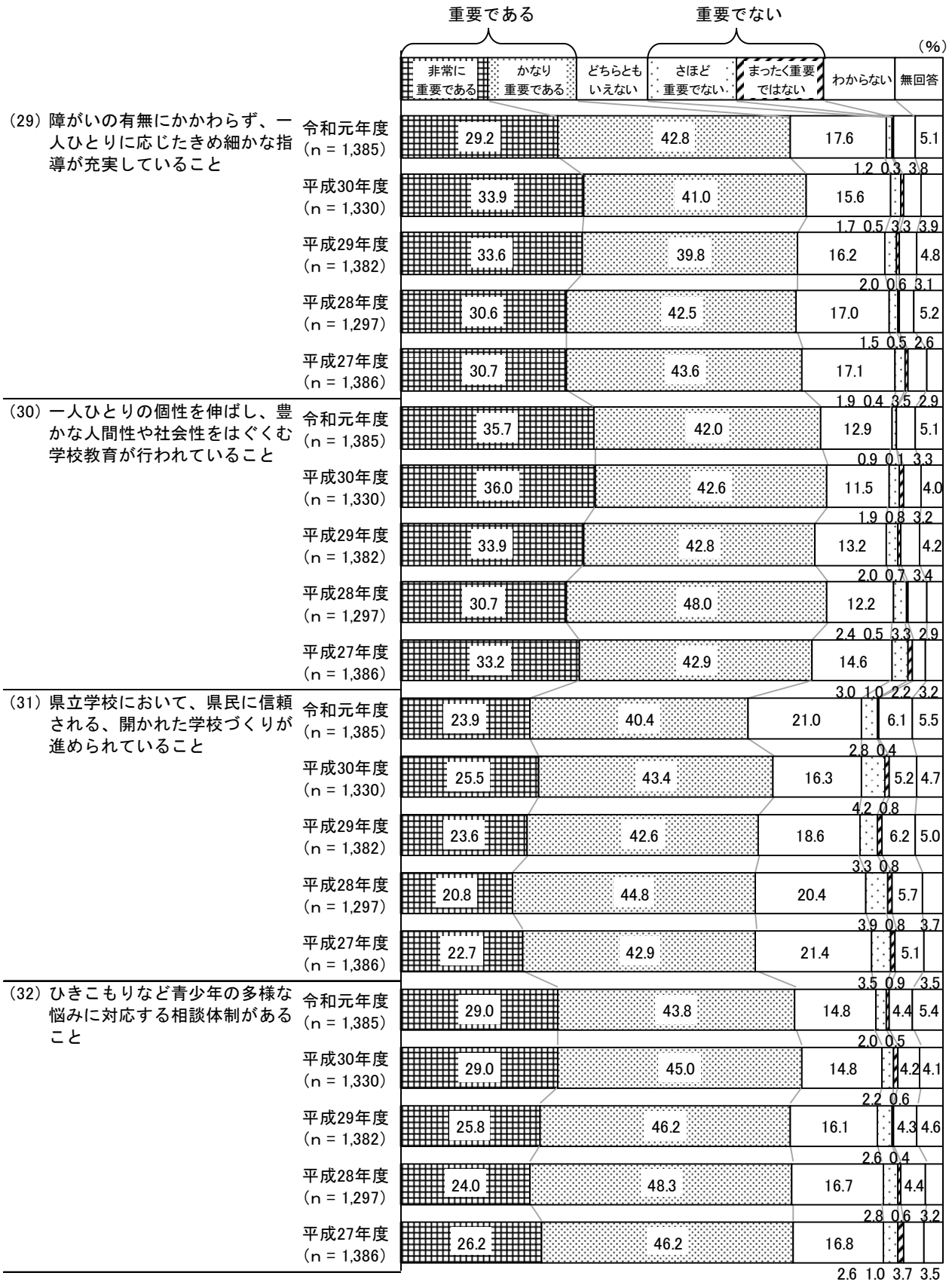
図表 A 生活重要度—過去との比較（つづき）



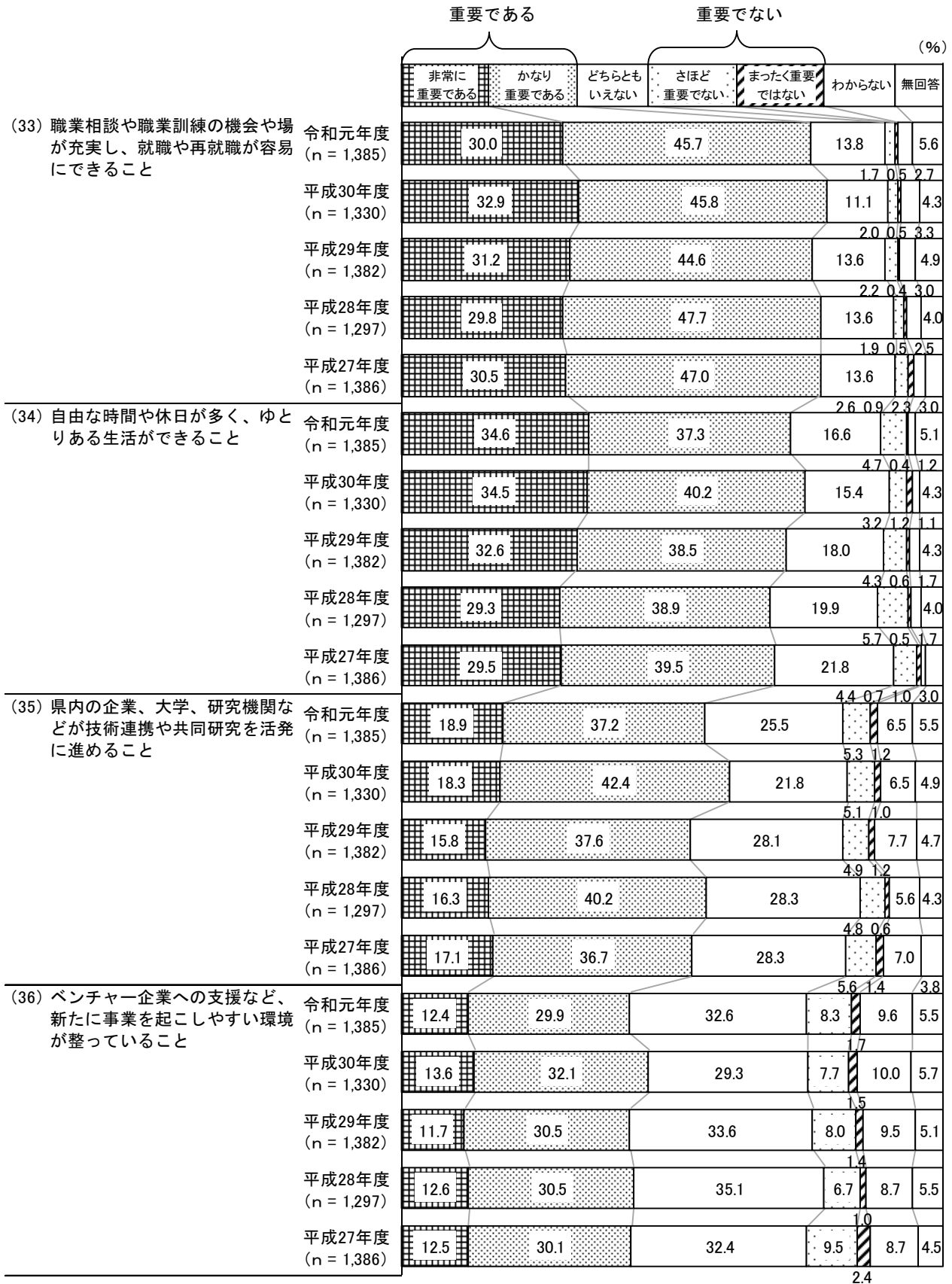
図表 A 生活重要度－過去との比較（つづき）



図表 A 生活重要度—過去との比較 (つづき)

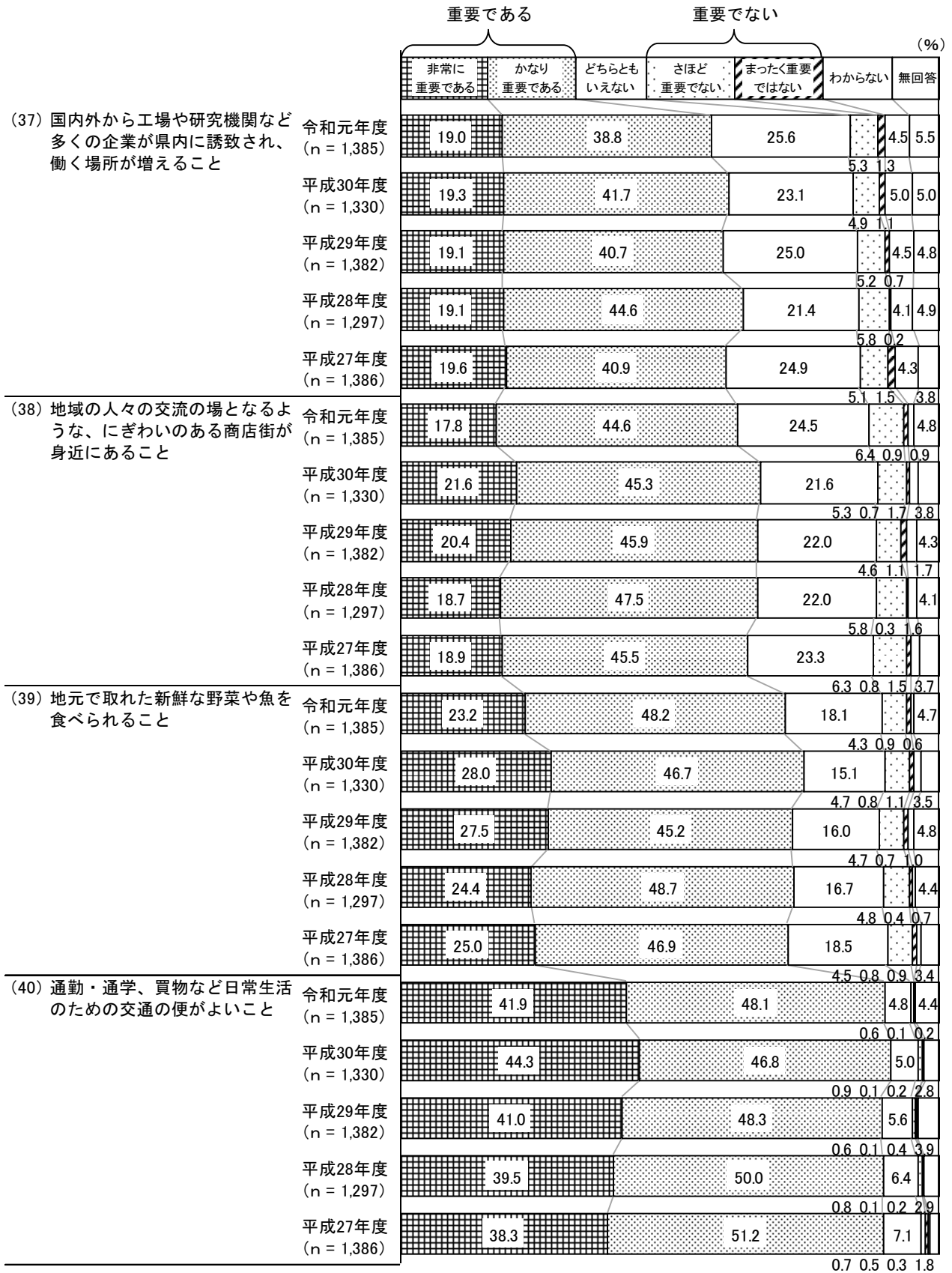


図表 A 生活重要度—過去との比較 (つづき)

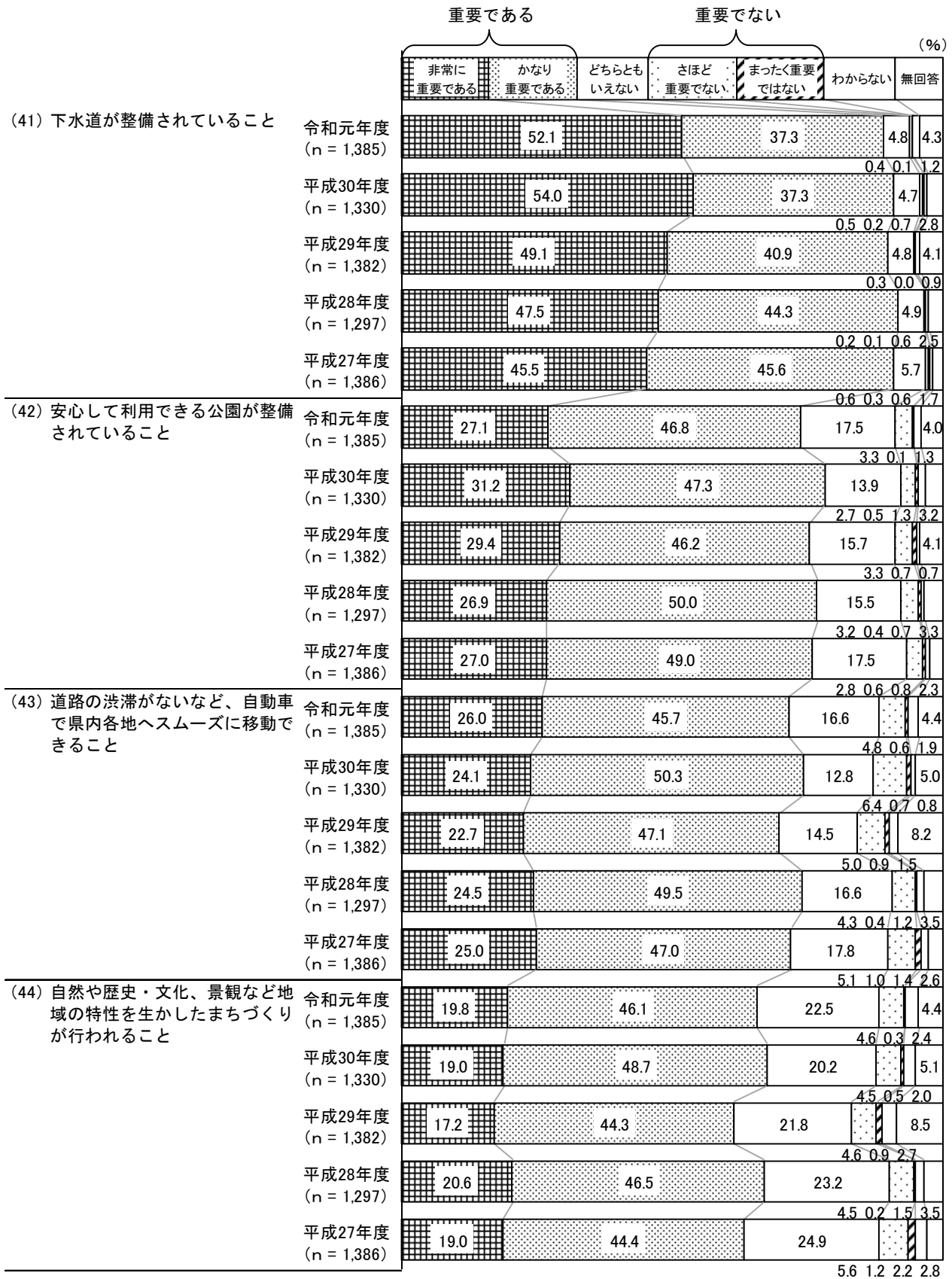


2.4

図表A 生活重要度—過去との比較（つづき）



図表 A 生活重要度—過去との比較 (つづき)



図表B 生活満足度—過去との比較

		満たされている					満たされていない			わからない	無回答	(%)
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらともいえない	あまり満たされていない		ほとんど満たされていない			
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	無回答				
(1) 犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること	令和元年度 (n = 1,385)	19.3	17.7	40.9	25.6	4.0	1.8	6.6				
	平成30年度 (n = 1,330)	25.0	1.6	40.2	22.6	2.8	3.1	4.8				
	平成29年度 (n = 1,382)	20.3	1.6	39.4	26.7	3.8	1.8	6.4				
	平成28年度 (n = 1,297)	23.3	1.8	41.4	25.5	3.2	2.1	2.7				
	平成27年度 (n = 1,386)	20.3	0.6	42.2	27.6	5.2	1.6	2.5				
	(2) 犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること	令和元年度 (n = 1,385)	38.1	0.7	20.9	9.1	19.9	6.7				
平成30年度 (n = 1,330)	41.7	0.6	18.9	6.1	20.6	5.3						
平成29年度 (n = 1,382)	37.8	0.7	23.4	8.2	17.8	6.5						
平成28年度 (n = 1,297)	43.6	0.7	21.2	8.3	17.4	3.3						
平成27年度 (n = 1,386)	41.3	0.6	24.8	9.7	15.3	3.3						
(3) 地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	令和元年度 (n = 1,385)	9.0	0.6	40.6	29.2	8.6	8.2	2.9				
	平成30年度 (n = 1,330)	12.7	0.9	42.3	22.3	11.8	4.7	3.4				
	平成29年度 (n = 1,382)	9.9	0.8	42.4	23.7	6.9	10.1	6.2				
	平成28年度 (n = 1,297)	11.3	0.7	44.3	23.4	5.4	10.9	2.9				
	平成27年度 (n = 1,386)	10.0	0.8	45.7	24.9	6.3	9.7	2.9				
	(4) 安全・安心な消費生活の確保に関する施策が充実していること	令和元年度 (n = 1,385)	12.5	0.5	46.3	19.9	6.4	11.1	2.7			
			0.9			5.5	3.8					

(※) 令和元年度より追加された設問

図表B 生活満足度—過去との比較（つづき）

		満たされている					満たされていない			わからない	無回答
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらともいえない	あまり満たされていない		ほとんど満たされていない		
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	無回答			
(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること	令和元年度 (n = 1,385)	4.3	39.2	4.3	31.3	15.2	3.1	3.6	3.3		
	平成30年度 (n = 1,330)	5.4	41.9	4.7	29.2	12.4	2.4	3.5	5.3		
	平成29年度 (n = 1,382)	4.7	36.7	4.2	32.9	12.9	3.3	3.5	6.1		
	平成28年度 (n = 1,297)	4.2	39.9	3.7	33.3	12.2	2.7	2.7	4.9	2.3	
	平成27年度 (n = 1,386)	2.6	40.3	2.6	32.7	15.7	2.5	3.1			
		0.9		0.9			6.3			3.0	
(6) 住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること	令和元年度 (n = 1,385)	2.6	14.6	2.6	40.1	13.1	6.7	19.7			
	平成30年度 (n = 1,330)	2.6	17.1	2.8	36.2	13.2	6.2	19.5	5.1		
	平成29年度 (n = 1,382)	2.8	14.4	1.2	34.9	15.8	7.2	18.5	6.4		
	平成28年度 (n = 1,297)	1.2	14.9	0.9	42.3	13.3	5.4	17.3	5.7		
	平成27年度 (n = 1,386)	0.9	16.8	0.6	38.8	16.6	5.4	17.6			
		0.6		0.6			6.3			3.0	
(7) 誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりをもっていること	令和元年度 (n = 1,385)	0.9	9.1	0.9	42.7	23.0	7.1	13.6			
	平成30年度 (n = 1,330)	1.2	9.2	1.1	41.7	20.3	7.7	15.3	4.7		
	平成29年度 (n = 1,382)	1.1	7.7	0.9	41.8	21.3	10.1	12.1	6.0		
	平成28年度 (n = 1,297)	0.9	9.7	0.6	42.0	22.2	6.8	12.6	6.1		
	平成27年度 (n = 1,386)	0.6	7.8	0.6	42.6	25.2	9.3	11.7			
		0.6		0.6			6.3			2.8	
(8) 高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること	令和元年度 (n = 1,385)	0.9	6.9	0.9	40.0	23.6	7.1	18.2			
	平成30年度 (n = 1,330)	1.0	8.1	1.0	38.9	21.7	6.8	18.7	4.7		
	平成29年度 (n = 1,382)	0.7	7.7	0.7	39.0	22.9	7.3	17.1	5.3		
	平成28年度 (n = 1,297)	0.3	41.5	0.3	23.0	7.0	16.2	6.2			
	平成27年度 (n = 1,386)	0.3	6.8	0.3	40.8	23.3	9.6	15.9			
		0.6		0.6			6.3			2.8	

図表B 生活満足度—過去との比較（つづき）

		満たされている					満たされていない			わからない	無回答
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらとも いえない	あまり満たされていない		ほとんど満たされていない		
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない		ほとんど満たされていない				
(9) 高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること	令和元年度 (n = 1,385)	6.9	38.3	26.5	8.7	15.3					
	平成30年度 (n = 1,330)	7.7	39.8	22.1	8.2	16.0				3.5	
	平成29年度 (n = 1,382)	0.7	39.1	26.0	8.7	14.0				6.0	
	平成28年度 (n = 1,297)	0.4	39.9	25.3	8.2	13.6				6.1	
	平成27年度 (n = 1,386)	0.6	37.1	27.7	11.1	13.6				6.2	
(10) 健康的な生活習慣などについて情報や知識が得られること	令和元年度 (n = 1,385)	0.8	22.5	45.8	13.6	9.3				3.2	
	平成30年度 (n = 1,330)	1.9	21.5	43.4	11.4	12.1				3.4	
	平成29年度 (n = 1,382)	2.9	17.3	47.5	12.4	10.6				6.3	
	平成28年度 (n = 1,297)	2.0	18.9	48.2	11.3	9.7				6.2	
	平成27年度 (n = 1,386)	1.9	19.0	47.8	14.8	9.1				3.8	
(11) ところに不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること	令和元年度 (n = 1,385)	2.1	38.6	18.9	10.1	22.2				3.1	
	平成30年度 (n = 1,330)	0.9	40.1	16.6	9.0	22.0				3.7	
	平成29年度 (n = 1,382)	0.8	42.0	18.5	7.9	20.3				6.2	
	平成28年度 (n = 1,297)	0.5	42.6	19.5	7.4	20.1				6.0	
	平成27年度 (n = 1,386)	0.3	42.9	21.7	9.6	17.7				4.1	
(12) 身近に親しめる緑や水辺があること	令和元年度 (n = 1,385)	0.6	41.4	29.1	13.9					3.5	
	平成30年度 (n = 1,330)	5.5	39.6	28.6	12.2					3.5 2.8 3.9	
	平成29年度 (n = 1,382)	8.0	37.6	30.0	13.5					4.1 2.6	
	平成28年度 (n = 1,297)	6.4	41.3	27.6	13.5					4.3 2.5	
	平成27年度 (n = 1,386)	5.9	40.7	29.3	14.0					3.4 2.5	

図表B 生活満足度—過去との比較 (つづき)

		満たされている						満たされていない			(%)	
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらともいえない		あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない		無回答
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	無回答				
(13) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	令和元年度 (n = 1,385)	26.9	37.2	19.4	5.0	2.7	3.4					
	平成30年度 (n = 1,330)	29.1	34.8	17.5	4.3	4.1	4.6					
	平成29年度 (n = 1,382)	24.0	36.3	18.8	7.3	3.4	4.0	6.2				
	平成28年度 (n = 1,297)	28.4	34.0	19.7	5.6	2.9	3.9					
	平成27年度 (n = 1,386)	28.6	35.7	20.1	7.0	1.9	3.6	3.1				
	令和元年度 (n = 1,385)	36.1	37.3	10.0	8.5	3.4	3.0					
(14) ゴミや水などのリサイクルのしくみが整っていること	平成30年度 (n = 1,330)	37.6	35.0	9.0	7.7	4.7	4.4					
	平成29年度 (n = 1,382)	34.4	36.1	9.3	6.7	4.8	5.9					
	平成28年度 (n = 1,297)	38.0	34.2	8.8	6.9	3.5	6.0					
	平成27年度 (n = 1,386)	40.0	34.6	10.3	6.5	4.2	2.9					
	令和元年度 (n = 1,385)	9.6	44.8	16.9	19.1	1.2	3.2					
	平成30年度 (n = 1,330)	10.2	42.9	15.9	19.8	1.3	4.9					
(15) 地球温暖化対策のため、県民や企業が環境に配慮した取組みを行っていること	平成29年度 (n = 1,382)	11.1	44.0	14.7	18.2	1.2	6.2					
	平成28年度 (n = 1,297)	12.6	47.4	12.7	16.2	1.2	6.2					
	平成27年度 (n = 1,386)	11.6	46.6	15.1	17.3	1.2	3.8					
	令和元年度 (n = 1,385)	35.8	33.4	7.4	13.1	1.4	3.2					
	平成30年度 (n = 1,330)	7.1	35.9	29.9	6.7	5.3	1.7	3.2				
	平成29年度 (n = 1,382)	37.2	31.5	7.2	11.3	5.0	5.6					
(16) 水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること	平成28年度 (n = 1,297)	39.1	29.5	7.0	11.0	5.0	6.2					
	平成27年度 (n = 1,386)	33.8	33.8	8.4	12.3	5.2	2.1					
	令和元年度 (n = 1,385)	35.8	33.4	7.4	13.1	1.4	3.2					
	平成30年度 (n = 1,330)	7.1	35.9	29.9	6.7	5.3	1.7	3.2				
	平成29年度 (n = 1,382)	37.2	31.5	7.2	11.3	5.0	5.6					
	平成28年度 (n = 1,297)	39.1	29.5	7.0	11.0	5.0	6.2					
平成27年度 (n = 1,386)	33.8	33.8	8.4	12.3	5.2	2.1						
		6.4		2.1	3.2							

図表B 生活満足度—過去との比較 (つづき)

		満たされている						満たされていない			(%)	
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらともいえない		あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない		無回答
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	無回答				
(17) 太陽光発電など再生可能エネルギーの普及が進んでいること	令和元年度 (n = 1,385)	0.9	6.1	40.2	20.2	10.0	18.9	3.5				
	平成30年度 (n = 1,330)	7.7	38.4	17.6	9.6	20.5	5.0					
	平成29年度 (n = 1,382)	1.2	42.2	16.6	10.2	18.4	5.9					
	平成28年度 (n = 1,297)	1.2	5.6	42.8	18.2	8.9	16.3	6.0				
	平成27年度 (n = 1,386)	6.7	42.6	19.3	11.3	16.7						
		0.9	6.0					3.2				
(18) 環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること	令和元年度 (n = 1,385)	9.4	39.5	18.3	10.4	17.8						
	平成30年度 (n = 1,330)	1.0	10.8	38.2	17.4	9.7	17.4	5.4				
	平成29年度 (n = 1,382)	1.1	9.0	39.6	17.1	11.1	16.2	5.9				
	平成28年度 (n = 1,297)	1.2	8.9	39.4	18.0	8.2	14.9	9.9				
	平成27年度 (n = 1,386)	0.6	11.6	35.9	19.0	11.1	13.0	8.2				
		1.2							3.6			
(19) 文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること	令和元年度 (n = 1,385)	2.7	23.8	40.1	15.5	10.4						
	平成30年度 (n = 1,330)	2.6	18.8	40.1	15.1	7.5	11.4	4.5				
	平成29年度 (n = 1,382)	2.1	17.4	43.7	14.5	5.7	11.1	5.4				
	平成28年度 (n = 1,297)	2.0	19.1	43.3	15.3	5.1	8.3	6.8				
	平成27年度 (n = 1,386)	1.4	19.5	44.6	15.2	5.1	10.2					
		2.7							3.5			
(20) 運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること	令和元年度 (n = 1,385)	2.9	28.4	37.6	15.0	7.9						
	平成30年度 (n = 1,330)	4.1	27.7	35.6	15.2	6.1	6.7	4.7				
	平成29年度 (n = 1,382)	2.7	25.7	38.1	15.7	4.9	6.9	5.9				
	平成28年度 (n = 1,297)	2.7	23.1	39.2	16.5	5.6	6.4	6.4				
	平成27年度 (n = 1,386)	2.7	24.3	39.7	16.0	5.6	7.5					
		2.7							3.3			

図表B 生活満足度—過去との比較（つづき）

		満たされている					満たされていない			わからない	無回答
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらとも いえない	あまり満た されていない		ほとんど満た されていない		
		十分満た されている	かなり満た されている	どちらとも いえない	あまり満た されていない	ほとんど満た されていない	わからない	無回答			
(21) いじめや差別がなく、人権が尊重されていること	令和元年度 (n = 1,385)	9.3	45.1	18.0	8.8	14.4					
	平成30年度 (n = 1,330)	10.4	43.4	18.6	6.9	13.5					
	平成29年度 (n = 1,382)	9.0	43.5	19.5	7.9	12.9					
	平成28年度 (n = 1,297)	8.2	45.3	17.8	7.2	14.0					
	平成27年度 (n = 1,386)	7.8	45.4	21.8	8.9	12.0					
		0.6								3.5	
(22) 地域課題解決のため、NPO、企業、大学、行政などの多様な主体が協働・連携すること	令和元年度 (n = 1,385)	0.8	45.1	13.3	4.2	27.4				4.0	
	平成30年度 (n = 1,330)	0.5	43.2	12.9	3.7	28.9				5.9	
	平成29年度 (n = 1,382)	0.5	45.9	11.6	4.8	26.2				6.7	
	平成28年度 (n = 1,297)	0.6	47.5	12.5	4.8	23.4				7.6	
	平成27年度 (n = 1,386)	0.5	47.3	13.0	3.9	24.2				4.3	
		0.5	4.8							5.9	
(23) 行政の情報公開や情報提供、県民参加などにより、開かれた県政になっていること	令和元年度 (n = 1,385)	8.4	44.8	13.9	6.4	21.6				3.8	
	平成30年度 (n = 1,330)	10.0	43.8	11.7	6.0	21.9				5.7	
	平成29年度 (n = 1,382)	0.9	43.6	16.1	6.0	20.1				6.7	
	平成28年度 (n = 1,297)	1.0	43.6	14.9	6.7	18.0				7.2	
	平成27年度 (n = 1,386)	0.7	43.0	17.2	7.8	18.5				4.3	
		0.5								6.4	
(24) 外国人と日本人が国籍、民族、文化の違いを理解し、認め合つてともに暮らすこと	令和元年度 (n = 1,385)	6.9	46.7	15.7	5.0	20.7				3.8	
	平成30年度 (n = 1,330)	7.4	46.0	16.3	5.1	18.9				5.3	
	平成29年度 (n = 1,382)	0.9	49.1	13.9	5.6	17.7				6.3	
	平成28年度 (n = 1,297)	0.7	48.9	15.0	5.6	17.0				7.2	
	平成27年度 (n = 1,386)	0.8	49.4	16.7	5.5	17.2					
		0.9								5.3	

図表B 生活満足度—過去との比較 (つづき)

		満たされている					満たされていない			わからない	無回答
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらともいえない	あまり満たされていない		ほとんど満たされていない		
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	無回答			
(25) 農林水産業の体験や伝統のある食文化を伝えていく機会や場があること	令和元年度 (n = 1,385)	0.9	5.2	44.6	15.5	6.5	23.8		3.5		
	平成30年度 (n = 1,330)	1.0	5.0	45.2	14.5	5.7	22.6		6.1		
	平成29年度 (n = 1,382)	0.7	5.2	45.2	15.2	6.5	20.3		6.9		
	平成28年度 (n = 1,297)	0.2	5.6	44.4	16.0	7.0	19.4		7.4		
	平成27年度 (n = 1,386)	0.6	4.6	47.4	15.0	6.7	21.3		4.4		
	(26) 民間の国際交流・協力活動が活発であること	令和元年度 (n = 1,385)	0.7	5.1	44.6	12.1	4.4	26.7		6.3	
平成30年度 (n = 1,330)	1.0	6.4	44.1	11.7	4.2	25.9		6.7			
平成29年度 (n = 1,382)	0.9	5.4	45.7	12.2	4.1	24.7		7.2			
平成28年度 (n = 1,297)	0.3	5.0	48.4	11.2	4.5	23.0		7.6			
平成27年度 (n = 1,386)	0.6	4.8	48.0	12.6	5.8	23.8		4.5			
(27) 男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を發揮できること	令和元年度 (n = 1,385)	8.4	39.9	24.2	7.7	12.9	6.2				
	平成30年度 (n = 1,330)	7.5	43.7	20.8	8.0	13.2	5.8				
	平成29年度 (n = 1,382)	6.8	43.8	20.9	7.5	13.2	6.9				
	平成28年度 (n = 1,297)	6.6	42.9	21.7	7.5	13.3	7.3				
	平成27年度 (n = 1,386)	6.6	43.5	23.2	9.5	12.6					
	(28) 安心して子どもを生み育てられる環境が整っていること	令和元年度 (n = 1,385)	15.2	34.9	26.6	9.7	5.8				
平成30年度 (n = 1,330)	14.7	34.8	24.3	7.4	11.7	5.7					
平成29年度 (n = 1,382)	13.0	36.5	23.7	10.2	9.3	6.5					
平成28年度 (n = 1,297)	12.9	36.5	23.7	8.6	10.3	6.9					
平成27年度 (n = 1,386)	11.5	36.9	27.2	9.9	9.0	4.3					

図表B 生活満足度—過去との比較（つづき）

		満たされている					満たされていない			わからない	無回答	（%）
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらとも いえない	あまり満たされていない		ほとんど満た されていない			
		十分満た されている	かなり満た されている	あまり満た されていない	ほとんど満た されていない							
(29) 障がいの有無にかかわらず、一人ひとりに応じたきめ細かな指導が充実していること	令和元年度 (n = 1,385)	0.7	6.4	39.6	19.0	7.7	20.8	5.8				
	平成30年度 (n = 1,330)	1.1	6.2	40.7	17.5	7.6	20.5	6.5				
	平成29年度 (n = 1,382)	0.7	5.1	39.4	18.7	9.8	19.5	6.7				
	平成28年度 (n = 1,297)	0.5	5.7	40.2	19.5	7.7	19.0	7.4				
	平成27年度 (n = 1,386)	0.6	5.8	40.8	21.3	9.3	17.7	4.5				
(30) 一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性をはぐくむ学校教育が行われていること	令和元年度 (n = 1,385)	8.2	0.9	35.6	21.9	9.5	17.9	6.1				
	平成30年度 (n = 1,330)	7.5	0.8	38.6	18.1	8.9	19.3	6.7				
	平成29年度 (n = 1,382)	6.7	0.4	37.9	21.0	9.0	18.4	6.7				
	平成28年度 (n = 1,297)	7.5	0.8	40.2	21.0	7.4	18.3	4.9				
	平成27年度 (n = 1,386)	7.1	0.8	39.2	22.7	9.2	17.1	5.0				
(31) 県立学校において、県民に信頼される、開かれた学校づくりが進められていること	令和元年度 (n = 1,385)	8.8	0.9	38.2	13.4	5.8	26.6	6.2				
	平成30年度 (n = 1,330)	7.2	1.1	39.5	12.8	5.5	26.9	7.1				
	平成29年度 (n = 1,382)	7.2	0.4	39.4	14.4	6.2	25.0	7.5				
	平成28年度 (n = 1,297)	7.4	0.8	43.6	13.0	3.9	25.8	5.6				
	平成27年度 (n = 1,386)	7.1	0.8	41.2	15.8	3.9	24.3	5.1				
(32) ひきこもりなど青少年の多様な悩みに対応する相談体制があること	令和元年度 (n = 1,385)	0.9	4.4	33.9	17.3	7.9	29.6	6.0				
	平成30年度 (n = 1,330)	1.0	4.3	36.0	15.6	6.8	29.5	6.8				
	平成29年度 (n = 1,382)	0.6	3.5	36.2	17.9	7.7	27.0	7.2				
	平成28年度 (n = 1,297)	0.5	4.3	37.5	17.3	6.3	28.8	5.2				
	平成27年度 (n = 1,386)	0.5	3.2	38.0	19.0	8.9	25.2	5.2				

図表B 生活満足度—過去との比較（つづき）

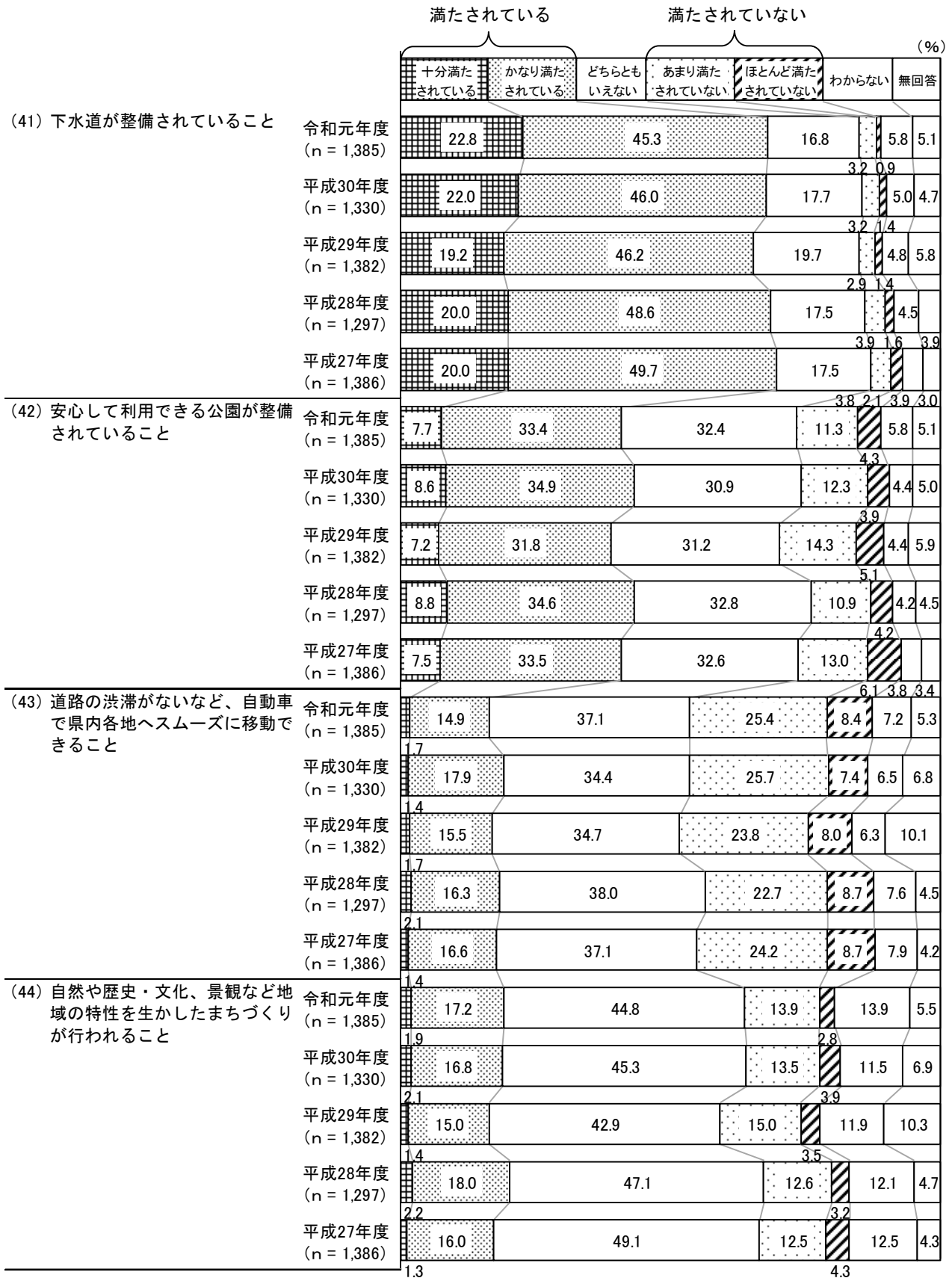
		満たされている					満たされていない			わからない	無回答	（%）
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらともいえない	あまり満たされていない		ほとんど満たされていない			
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	無回答				
(33) 職業相談や職業訓練の機会や場が充実し、就職や再就職が容易にできること	令和元年度 (n = 1,385)	1.0	6.4	36.9	21.7	8.1	19.6	6.3				
	平成30年度 (n = 1,330)	6.8	0.7	37.1	17.7	9.3	21.2	7.2				
	平成29年度 (n = 1,382)	0.3	6.0	36.7	21.4	8.7	19.8	7.1				
	平成28年度 (n = 1,297)	0.8	5.3	37.7	21.7	9.6	18.6	6.3				
	平成27年度 (n = 1,386)	0.6	4.5	37.7	23.5	10.6	17.9	5.3				
	令和元年度 (n = 1,385)	1.8	0.6	15.7	35.6	20.4	13.2	7.0	6.2			
(34) 自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	平成30年度 (n = 1,330)	1.9	2.9	15.4	35.0	19.5	14.1	6.4	6.7			
	平成29年度 (n = 1,382)	2.9	2.3	11.6	37.8	21.1	13.9	6.9	6.4			
	平成28年度 (n = 1,297)	2.3	2.2	13.1	39.6	20.7	12.1	6.6	5.7			
	平成27年度 (n = 1,386)	2.2	1.8	12.0	37.6	22.2	14.2	7.1	5.1			
	令和元年度 (n = 1,385)	0.6	4.8	40.2	9.0	35.3	6.7					
	(35) 県内の企業、大学、研究機関などが技術連携や共同研究を活発に進めること	平成30年度 (n = 1,330)	0.8	4.8	41.4	9.4	32.9	7.6				
平成29年度 (n = 1,382)		0.9	4.5	42.5	10.6	31.5	7.0					
平成28年度 (n = 1,297)		0.9	4.5	46.9	9.4	28.7	6.2					
平成27年度 (n = 1,386)		0.8	4.5	46.7	10.0	28.8	5.8					
令和元年度 (n = 1,385)		0.4	5.1	38.5	8.9	38.8	6.7					
(36) ベンチャー企業への支援など、新たに事業を起ししやすい環境が整っていること		平成30年度 (n = 1,330)	0.3	2.8	39.3	9.7	35.0	7.8				
	平成29年度 (n = 1,382)	0.8	3.5	41.0	9.8	34.0	7.1					
	平成28年度 (n = 1,297)	0.7	3.0	44.2	10.4	31.0	6.9					
	平成27年度 (n = 1,386)	0.5	2.9	42.1	11.8	31.5	6.1					
	令和元年度 (n = 1,385)	0.3	3.2	38.5	8.9	38.8	6.7					
	平成30年度 (n = 1,330)	0.3	3.2	39.3	9.7	35.0	7.8					
平成29年度 (n = 1,382)	0.8	3.5	41.0	9.8	34.0	7.1						
平成28年度 (n = 1,297)	0.7	3.0	44.2	10.4	31.0	6.9						
平成27年度 (n = 1,386)	0.5	2.9	42.1	11.8	31.5	6.1						

図表B 生活満足度—過去との比較 (つづき)

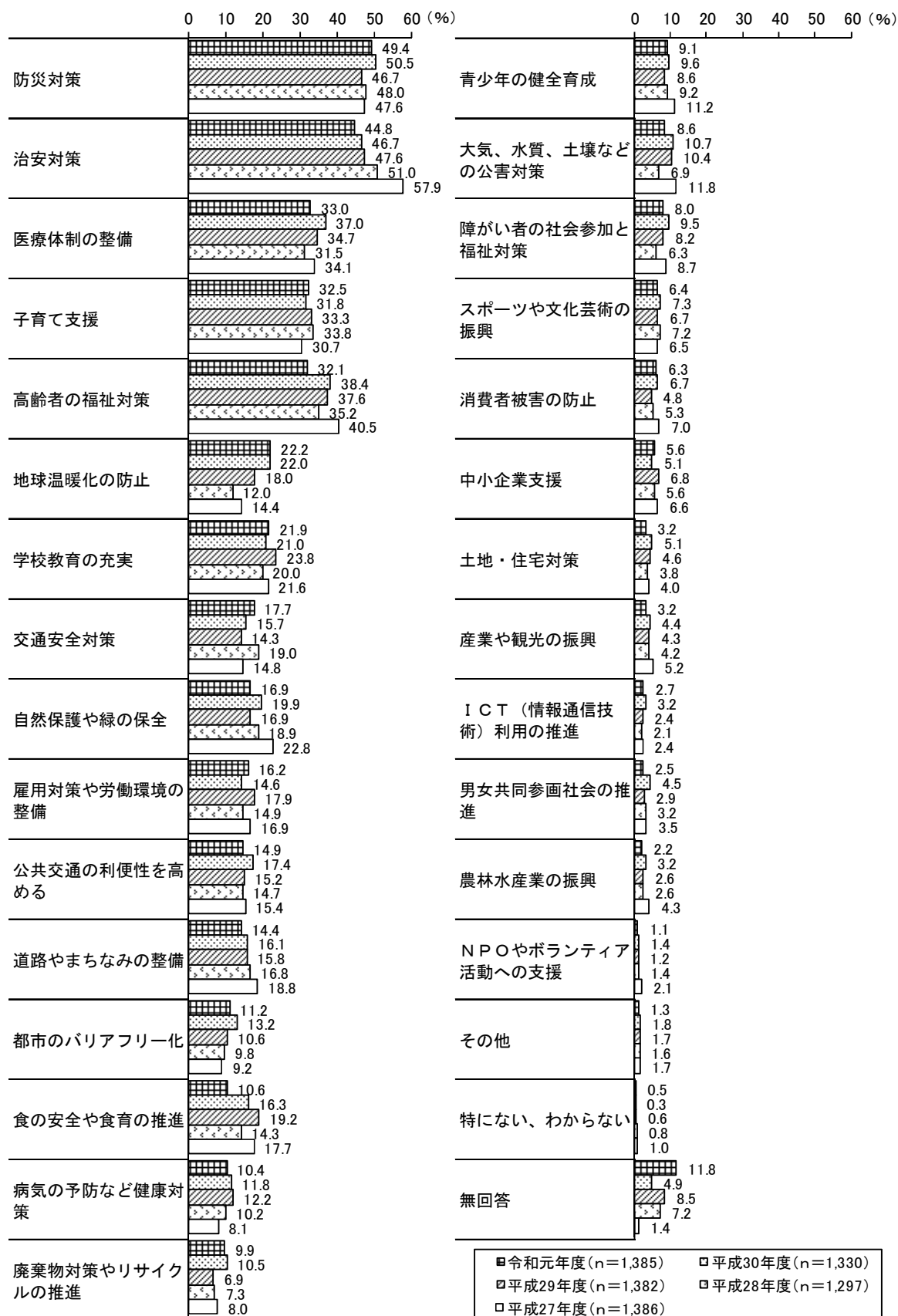
		満たされている					満たされていない			わからない	無回答	(%)
		十分満たされている		かなり満たされている		どちらともいえない	あまり満たされていない		ほとんど満たされていない			
		十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	無回答				
(37) 国内外から工場や研究機関など多くの企業が県内に誘致され、働く場所が増えること	令和元年度 (n = 1,385)	0.6	6.1	40.9	11.3	4.6	29.7	6.6				
	平成30年度 (n = 1,330)	7.0	0.8	40.5	12.9	4.1	27.6	7.1				
	平成29年度 (n = 1,382)	0.7	4.8	42.6	13.8	5.7	25.3	7.0				
	平成28年度 (n = 1,297)	0.7	5.3	41.2	15.3	5.9	25.0	6.6				
	平成27年度 (n = 1,386)	0.6	5.3	41.4	17.2	5.8	23.7	5.8				
	令和元年度 (n = 1,385)	13.0	1.4	32.9	24.9	16.7	5.6	5.6				
(38) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること	平成30年度 (n = 1,330)	12.8	1.3	33.4	24.6	15.9	6.2	5.9				
	平成29年度 (n = 1,382)	10.9	1.9	33.8	24.0	16.9	6.5	6.0				
	平成28年度 (n = 1,297)	11.3	1.2	33.5	27.0	14.9	6.5	5.7				
	平成27年度 (n = 1,386)	10.5	0.7	32.9	28.4	15.2	7.1	5.1				
	令和元年度 (n = 1,385)	23.1	2.5	37.9	19.4	7.6	5.9					
	(39) 地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること	平成30年度 (n = 1,330)	24.2	2.7	36.1	18.6	7.3	5.9	5.2			
平成29年度 (n = 1,382)		22.5	2.3	39.4	16.0	8.3	5.1	6.4				
平成28年度 (n = 1,297)		24.4	2.6	37.5	18.3	6.2	5.5	5.6				
平成27年度 (n = 1,386)		22.6	1.2	38.2	19.8	8.2	5.4	4.7				
令和元年度 (n = 1,385)		7.4	7.4	42.4	23.2	15.1	5.3					
(40) 通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと		平成30年度 (n = 1,330)	9.8	5.5	39.6	23.2	16.3	4.4				
	平成29年度 (n = 1,382)	7.8	5.5	37.0	27.2	15.2	5.9					
	平成28年度 (n = 1,297)	7.8	5.5	43.2	25.1	13.3	4.5					
	平成27年度 (n = 1,386)	7.4	5.2	43.3	25.5	13.8	0.9					
	令和元年度 (n = 1,385)	7.4	5.2	42.4	23.2	15.1	5.3					
	平成30年度 (n = 1,330)	9.8	5.5	39.6	23.2	16.3	4.4					
平成29年度 (n = 1,382)	7.8	5.5	37.0	27.2	15.2	5.9						
平成28年度 (n = 1,297)	7.8	5.5	43.2	25.1	13.3	4.5						
平成27年度 (n = 1,386)	7.4	5.2	43.3	25.5	13.8	0.9						

5.2 1.4 3.5

図表B 生活満足度—過去との比較 (つづき)



図表C 県行政への要望（複数回答）－過去との比較



第VI部 調査票と単純集計結果

調査票と単純集計結果

調査期間 令和元年9月13日～10月7日
標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,385(46.2%)
* 「n」は、質問に対する回答者数の総数を表す。
「-」は、回答者が皆無であることを示す。
* 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、
合計が100%にならないことがある。

令和元年度(2019年)

神奈川県『県民ニーズ調査』(基本調査)

— 県民の生活と県政についての意識調査 —

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

※ 記入上の注意 ※

- 1 この調査のご回答は、封筒のあて名のご本人様にお願いいたします。
- 2 お名前、ご住所の記入は不要です。
- 3 お答えは、直接、この調査票のあてはまる番号を○で囲んでください。
- 4 ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 5 わかる質問だけお答えいただければ結構です。

▼ ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒に入れ、**10月7日(月)まで**にご投函ください。(切手は不要です。お名前やご住所の記入も必要ありません。)

▼ インターネットからご回答いただいた方は、調査票の郵送は不要です。

この調査についてわからないことなどがありましたら、
お気軽にお問い合わせください。

【お問合せ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ 電話 (045)210-1111 (内線3672~3676)

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15 (土日祝日は閉庁)

○ ファクシミリ (045)210-8838

○ お問合せフォーム (10月7日までの期間限定)

県民ニーズ調査のHP (<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)の
下部に掲載している「**令和元年度調査対象者**」向けお問合せフォーム
から送信してください。

暮らし全般について

問1 あなたは、現在の生活にどの程度満足していますか。(○は1つ) (n=1, 385) (%)

1 たいへん満足している	5.9	4 どちらかといえば不満である	13.7
2 どちらかといえば満足している	49.7	5 たいへん不満である	3.8
3 どちらともいえない	22.1	6 わからない	0.6
(無回答 4.2)			

問2 現在の暮らし向きは、昨年の今頃と比べていかがですか。(○は1つ) (n=1, 385) (%)

1 よくなった	3.2	→ 問3にお進み ください	4 少し悪くなった	22.5	→ 問2-1に お答えください
2 少しよくなった	8.2		5 悪くなった	5.3	
3 変わらない	56.2		(無回答 4.5)		

【問2で「4 少し悪くなった」「5 悪くなった」とお答えの方に】

問2-1 悪くなった理由としてどのようなことがあげられますか。(○はいくつでも) (n=386) (%)

1 賃金などの収入が減ったため	45.1	6 住宅を購入したため	3.4
2 倒産・解雇などのため	2.1	7 低金利が続いているため	11.7
3 事業などの経費が増えたため	3.9	8 特別の事情による(結婚、出産、病気など)	20.7
4 日常の生活費が増えたため	45.3	9 その他	9.6
5 教育費が増えたため	25.4	10 特に理由はない、わからない	2.1
(無回答 0.5)			

【全員の方がお答えください】

問3 これからのあなたの暮らし向きの見通しはいかがですか。(○は1つ) (n=1, 385) (%)

1 明るい	4.3	4 やや暗い	29.0
2 やや明るい	10.0	5 暗い	8.5
3 変わらない	34.8	6 わからない	9.5
(無回答 3.9)			

問4 あなたは、現在お住まいの地域をどの程度住みよいと思いますか。(○は1つ) (n=1, 385) (%)

1 たいへん住みよい	13.1	4 どちらかといえば住みにくい	8.5
2 どちらかといえば住みよい	56.7	5 たいへん住みにくい	1.0
3 どちらともいえない	16.8	6 わからない	0.1
(無回答 3.8)			

問5 あなたは、今後も現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ) (n=1, 385) (%)

1 現在のところに住み続けたい	63.0	3 神奈川県外へ移りたい	5.3
2 神奈川県内の他のところへ移りたい	9.2	4 特に考えていない	18.3
(無回答 4.2)			

生活意識

問6 あなたは次にあげることがらについてどのように思いますか。
「そう思う」「そう思わない」のどちらかに○をつけてください。(○は1つ)
(n=1,385) (%)

	そう 思う	そう 思わ ない	(無 回 答)
回答例→	①	2	
【安全・安心】			
(1) 今住んでいる地域は、夜、一人歩きをしても安全だ	61.7	34.2	4.0
(2) 大地震などの災害がおきても3日は暮らせるように、防災の準備ができている	33.5	62.2	4.3
(3) 安全・安心なまちづくりのための地域活動に参加したい	49.5	44.3	6.2
【健康・福祉】			
(4) 日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている	72.4	23.8	3.8
(5) 介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ	91.2	4.6	4.2
(6) 住居の造りや介護サービスの提供が今のような状態の環境では、高齢者が安心して生活するのはむずかしい	73.4	21.7	4.9
(7) 鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている	22.7	73.3	4.0
(8) 一週間に3回以上1日30分程度のスポーツを習慣的に行っている	28.7	67.8	3.5
(9) <u>今後10年くらい</u> の間に、かかりつけの医療から高度医療まで、地域医療のネットワーク化が進んでいる	35.8	57.7	6.5
【エネルギー・環境】			
(10) 環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている	92.5	4.3	3.2
(11) 今より生活が不便になっても省エネには積極的に取り組むべきだ	71.6	23.9	4.5
(12) 森林などの水源環境は、県民が特別の負担をしても積極的に守っていくべきだ	74.7	20.6	4.7
【県民生活】			
(13) 公益活動を行うNPOなどに寄附をしてみたい	23.9	70.2	5.9

	そう思う	そう思わない	(無回答)
「そう思う」「そう思わない」のどちらかに○をつけてください。(○は1つ) (n=1,385) (%)			
(14) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	12.1	82.7	5.2
(15) 女性が働き続けるには、まだまだ厳しい世の中だ	76.8	18.1	5.2
(16) 神奈川県で暮らす外国人も日本人と同じような権利を持つべきだ	53.4	38.6	8.0
(17) いじめや差別は、一人ひとりが思いやりの心を持たなくてはならない	53.1	41.5	5.4
(18) <u>今後10年くらいの間に</u> 、一人ひとりの人権が尊重され、差別がない地域社会になっている	12.6	80.4	6.9
(19) <u>今後10年くらいの間に</u> 、外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている	29.6	62.2	8.2
【教育・子育て】			
(20) 子どもを育てる環境が今のままでは、子どもを持つのはむずかしい	57.8	35.5	6.7
(21) 育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ	88.8	5.1	6.1
(22) 国際化が進む中で、外国のことをもっと深く知りたい	70.5	22.5	6.9
(23) 若者の「ひきこもり」など、青少年が自分自身の価値や存在感を実感しにくい世の中になっている	69.1	24.3	6.6
(24) 青少年をめぐる昨今の問題は、親や地域住民など大人の責任が大きい	64.9	28.4	6.6
(25) 教員の指導力が向上し、子どもたちが意欲的に学習できる環境となっている	17.3	73.9	8.8
(26) <u>今後10年くらいの間に</u> 、不登校・ひきこもり等の子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている	25.2	66.6	8.2
(27) <u>今後10年くらいの間に</u> 、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている	13.6	77.8	8.7
(28) <u>今後10年くらいの間に</u> 、子どもたちの教育に誰もが関心を持ち、学校・家庭・地域などが連携し県民全体で進めるようになっている	16.0	75.2	8.7
【産業】			
(29) 県産木材を使うことにより森林の手入れが進み、身近な森林を守ることにつながるなら、積極的に使いたい	80.6	13.1	6.3

	そう思う	そう思わない	(無回答)
「そう思う」「そう思わない」のどちらかに○をつけてください。(○は1つ) (n=1,385) (%)			
(30) 県内には、世界に発信できる魅力ある観光資源がある	70.5	22.2	7.3
【県土・まちづくり】			
(31) 神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ	82.2	11.7	6.1
(32) まちなみ、歴史的建造物の保全や公園づくりなど、まちづくり関係の活動に参加してみたい	43.6	48.8	7.6
(33) 県内では、交通渋滞が激しく自動車での移動が不便だ	53.1	40.0	6.9
(34) <u>今後10年くらいの間に</u> 、道路や公共交通網がさらに充実し、県内外への利便性がよくなっている	57.7	35.5	6.9

暮らしの満足度

問7 あなたは次にあげることがらについて、どのくらい重要だと思いますか。また、現在、どの程度満たされていると思いますか。それぞれあてはまるところに1つずつ○をつけてください。

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

(n=1,385) (%)

回答例→

	重要度						満足度							
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	わからない	(無回答)	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	(無回答)
回答例→	1	②	3	4	5	6		1	2	3	④	5	6	
【安全・安心】														
(1) 犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること	62.5	29.5	2.6	0.2	0.1	0.1	4.9	1.7	19.3	40.9	25.6	4.0	1.8	6.6
(2) 犯罪被害にあった場合に、適切かつきめ細かな支援が十分受けられること	53.9	33.1	4.7	0.3	0.2	2.3	5.4	0.7	4.5	38.1	20.9	9.1	19.9	6.7

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

(n=1,385) (%)

	重要度							満足度						
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	わからない	(無回答)	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	(無回答)
(3) 地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること	60.4	29.9	6.0	0.4	0.2	1.2	1.9	0.9	9.0	40.6	29.2	8.6	8.2	3.4
(4) 安全・安心な消費生活の確保に関する施策が充実していること	36.0	41.8	14.4	1.3	0.3	3.0	3.1	0.9	12.5	46.3	19.9	5.5	11.1	3.8
【健康・福祉】														
(5) 病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること	58.0	36.8	2.7	0.1	0.1	0.3	1.9	4.3	39.2	31.3	15.2	3.1	3.6	3.3
(6) 住み慣れた地域で質の高いがん医療が受けられること	39.0	41.2	13.5	2.1	0.3	1.8	2.2	2.6	14.6	40.1	13.1	6.7	19.7	3.2
(7) 誰もが地域で孤立することなく、困ったときに助け合えるつながりをもっていること	32.1	47.6	15.5	1.4	0.2	1.0	2.2	1.2	9.1	42.7	23.0	7.1	13.6	3.2
(8) 高齢者や障がい者が自立し、安心して生活できるような支援体制が整っていること	36.3	45.3	12.4	1.2	0.4	2.1	2.2	0.9	6.9	40.0	23.6	7.1	18.2	3.2
(9) 高齢者や障がい者が暮らしやすい住宅の整備やまちづくりがされていること	32.4	48.4	13.3	1.3	0.4	1.8	2.3	0.7	6.9	38.3	26.5	8.7	15.3	3.5
(10) 健康的な生活習慣などについて情報や知識が得られること	20.1	46.3	23.2	6.6	0.7	0.6	2.4	1.9	22.5	45.8	13.6	3.4	9.3	3.4
(11) こころに不安や悩みのある人がいつでも相談できるなど、自殺を防ぐ社会づくりが行われていること	30.0	45.5	16.8	2.4	0.4	2.5	2.5	0.9	5.6	38.6	18.9	10.1	22.2	3.7
【エネルギー・環境】														
(12) 身近に親しめる緑や水辺があること	25.6	51.3	15.6	4.0	0.3	0.9	2.3	5.5	41.4	29.1	13.9	3.5	2.8	3.9
(13) 大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと	53.7	38.3	4.5	0.5	—	0.7	2.2	2.7	26.9	37.2	19.4	5.5	5.0	3.4

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

(n=1,385) (%)

	重要度							満足度						
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	わからない	(無回答)	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	(無回答)
(14) ゴミや水などのリサイクルのしくみが整っていること	36.2	50.8	8.9	1.3	0.1	0.7	1.9	3.4	36.1	37.3	10.0	1.6	8.5	3.0
(15) 地球温暖化対策のため、県民や企業が環境に配慮した取組みを行っていること	35.7	43.7	13.9	1.6	0.4	2.5	2.3	1.2	9.6	44.8	16.9	5.3	19.1	3.2
(16) 水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること	53.7	38.1	4.5	0.4	—	1.1	2.2	5.3	35.8	33.4	7.4	1.7	13.1	3.2
(17) 太陽光発電など再生可能エネルギーの普及が進んでいること	26.2	41.7	21.4	4.1	1.0	3.2	2.4	0.9	6.1	40.2	20.2	10.0	18.9	3.5
(18) 環境にやさしくエネルギー効率の高い次世代自動車の普及が進んでいること	20.4	40.1	25.7	7.0	1.2	3.5	2.2	1.0	9.4	39.5	18.3	10.4	17.8	3.6
【県民生活】														
(19) 文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること	11.8	36.7	32.1	12.8	1.6	2.7	2.4	2.7	23.8	40.1	15.5	4.0	10.4	3.5
(20) 運動やスポーツに親しめる機会や場が身近に整っていること	13.5	45.5	28.5	7.1	1.0	2.2	2.2	2.9	28.4	37.6	15.0	4.8	7.9	3.3
(21) いじめや差別がなく、人権が尊重されていること	44.8	39.9	9.8	0.9	0.1	1.9	2.5	1.1	9.3	45.1	18.0	8.8	14.4	3.4
(22) 地域課題解決のため、NPO、企業、大学、行政などの多様な主体が協働・連携すること	16.2	44.8	24.7	4.4	0.7	6.0	3.2	0.8	5.3	45.1	13.3	4.2	27.4	4.0
(23) 行政の情報公開や情報提供、県民参加などにより、開かれた県政になっていること	23.1	44.9	21.1	2.7	0.3	5.2	2.7	1.1	8.4	44.8	13.9	6.4	21.6	3.8
(24) 外国人と日本人が国籍、民族、文化の違いを理解し、認め合ってともに暮らすこと	20.1	44.8	23.8	4.3	1.8	2.7	2.4	1.1	6.9	46.7	15.7	5.0	20.7	3.8
(25) 農林水産業の体験や伝統のある食文化を伝えていく機会や場があること	12.8	37.5	32.3	8.5	1.9	4.4	2.6	0.9	5.2	44.6	15.5	6.5	23.8	3.5

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

(n=1,385) (%)

	重要度							満足度						
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	わからない	(無回答)	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	(無回答)
(26) 民間の国際交流・協力活動が活発であること	8.4	32.0	37.2	10.0	2.2	5.3	5.0	0.7	5.1	44.6	12.1	4.4	26.7	6.3
(27) 男女にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を発揮できること	28.8	45.3	15.6	2.7	0.3	2.3	4.9	0.8	8.4	39.9	24.2	7.7	12.9	6.2
【教育・子育て】														
(28) 安心して子どもを生み育てられる環境が整っていること	50.9	34.4	6.9	0.8	0.2	1.9	4.9	1.3	15.2	34.9	26.6	6.4	9.7	5.8
(29) 障がいの有無にかかわらず、一人ひとりに応じたきめ細かな指導が充実していること	29.2	42.8	17.6	1.2	0.3	3.8	5.1	0.7	6.4	39.6	19.0	7.7	20.8	5.8
(30) 一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性をはぐくむ学校教育が行われていること	35.7	42.0	12.9	0.9	0.1	3.3	5.1	0.9	8.2	35.6	21.9	9.5	17.9	6.1
(31) 県立学校において、県民に信頼される、開かれた学校づくりが進められていること	23.9	40.4	21.0	2.8	0.4	6.1	5.5	0.9	8.8	38.2	13.4	5.8	26.6	6.2
(32) ひきこもりなど青少年の多様な悩みに対応する相談体制があること	29.0	43.8	14.8	2.0	0.5	4.4	5.4	0.9	4.4	33.9	17.3	7.9	29.6	6.0
【産業・労働】														
(33) 職業相談や職業訓練の機会や場が充実し、就職や再就職が容易にできること	30.0	45.7	13.8	1.7	0.5	2.7	5.6	1.0	6.4	36.9	21.7	8.1	19.6	6.3
(34) 自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	34.6	37.3	16.6	4.7	0.4	1.2	5.1	1.9	15.7	35.6	20.4	13.2	7.0	6.2
(35) 県内の企業、大学、研究機関などが技術連携や共同研究を活発に進めること	18.9	37.2	25.5	5.3	1.2	6.5	5.5	0.6	4.8	40.2	9.0	3.4	35.3	6.7
(36) ベンチャー企業への支援など、新たに事業を起こしやすい環境が整っていること	12.4	29.9	32.6	8.3	1.7	9.6	5.5	0.3	2.8	38.5	8.9	4.0	38.8	6.7
(37) 国内外から工場や研究機関など多くの企業が県内に誘致され、働く場所が増えること	19.0	38.8	25.6	5.3	1.3	4.5	5.5	0.6	6.1	40.9	11.3	4.6	29.7	6.6

重要度

あなたの現在及び今後の生活において、どのくらい重要ですか。

満足度

あなたにとって、現在、どの程度満たされていると思いますか。

(n=1,385) (%)

	重要度							満足度						
	非常に重要である	かなり重要である	どちらともいえない	さほど重要でない	まったく重要ではない	わからない	(無回答)	十分満たされている	かなり満たされている	どちらともいえない	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	わからない	(無回答)
(38) 地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること	17.8	44.6	24.5	6.4	0.9	0.9	4.8	1.4	13.0	32.9	24.9	16.7	5.6	5.6
(39) 地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること	23.2	48.2	18.1	4.3	0.9	0.6	4.7	2.5	23.1	37.9	19.4	7.6	3.6	5.9
【県土・まちづくり】														
(40) 通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと	41.9	48.1	4.8	0.6	0.1	0.2	4.4	7.4	42.4	23.2	15.1	5.5	1.2	5.3
(41) 下水道が整備されていること	52.1	37.3	4.8	0.4	0.1	1.2	4.3	22.8	45.3	16.8	3.2	0.9	5.8	5.1
(42) 安心して利用できる公園が整備されていること	27.1	46.8	17.5	3.3	0.1	1.3	4.0	7.7	33.4	32.4	11.3	4.3	5.8	5.1
(43) 道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること	26.0	45.7	16.6	4.8	0.6	1.9	4.4	1.7	14.9	37.1	25.4	8.4	7.2	5.3
(44) 自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われること	19.8	46.1	22.5	4.6	0.3	2.4	4.4	1.9	17.2	44.8	13.9	2.8	13.9	5.5

次ページへ続きます

県行政への要望

問8 神奈川県を行政を進めていく上で、力を入れて取り組んでほしい分野は何ですか。次の中から特
に取り組んでほしい分野を5つまで選んでください。(○は5つまで) (n=1,385) (%)

1 治安対策	44.8	16 自然保護や緑の保全	16.9
2 防災対策	49.4	17 地球温暖化の防止	22.2
3 交通安全対策	17.7	18 廃棄物対策やリサイクルの推進	9.9
4 NPOやボランティア活動への支援	1.1	19 大気、水質、土壌などの公害対策	8.6
5 青少年の健全育成	9.1	20 高齢者の福祉対策	32.1
6 男女共同参画社会の推進	2.5	21 障がい者の社会参加と福祉対策	8.0
7 消費者被害の防止	6.3	22 医療体制の整備	33.0
8 食の安全や食育の推進	10.6	23 病気の予防など健康対策	10.4
9 スポーツや文化芸術の振興	6.4	24 産業や観光の振興	3.2
10 道路やまちなみの整備	14.4	25 雇用対策や労働環境の整備	16.2
11 都市のバリアフリー化	11.2	26 中小企業支援	5.6
12 公共交通の利便性を高める	14.9	27 子育て支援	32.5
13 土地・住宅対策	3.2	28 学校教育の充実	21.9
14 ICT(情報通信技術)利用の推進	2.7	29 その他	1.3
15 農林水産業の振興	2.2	30 特にない、わからない	0.5

(無回答 11.8)

最後に、集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(これは個人を特定するものではありません。)

F1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,385) (%)

1 横浜(横浜市)	37.0
2 川崎(川崎市)	12.3
3 相模原(相模原市)	7.4
4 横須賀三浦(横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	8.8
5 県央(厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	8.3
6 湘南(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	13.2
7 県西(小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	4.3

(無回答 8.7)

F2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,385) (%)

1 男性	39.7	2 女性	51.3	(無回答 9.0)
------	------	------	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2019年10月1日時点) (n=1,385) (%)

1 18～19歳	—	5 35～39歳	8.9	9 55～59歳	10.0	13 75～79歳	4.8
2 20～24歳	1.7	6 40～44歳	9.4	10 60～64歳	7.4	14 80歳以上	2.4
3 25～29歳	3.1	7 45～49歳	11.5	11 65～69歳	8.2		
4 30～34歳	6.1	8 50～54歳	10.2	12 70～74歳	7.7		(無回答 8.7)

F 4 お宅には65歳以上の方がいらっしゃいますか。ご自身も含めてお答えください。(n=1,385) (%)

1 いる	39.5	2 いない	50.6	(無回答 9.9)
------	------	-------	------	-----------

F 5 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(同居、別居は問いません。) 次のうちあてはまるものをすべて選んでください。(○はあてはまるものすべて) (n=1,385) (%)

1 小学校入学前	11.2	5 短大、専門学校等在学中	1.2	9 その他	2.2
2 小学校在学中	13.9	6 大学、大学院等在学中	8.0	10 子どもはいない	23.2
3 中学校在学中	7.9	7 学校教育終了 [未婚]	19.8		
4 高校在学中	8.5	8 学校教育終了 [既婚]	20.9		(無回答 11.0)

F 6 あなたはインターネットを利用しますか。(○は1つ) (n=1,385) (%)

1 よく利用する	56.2	3 あまり利用しない	5.5
2 ときどき利用する	17.0	4 利用しない	12.6
(無回答 8.8)			

F 7 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。

また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中からそれぞれ1つ選び○で囲んでください。

(n=816) (%)

(n=1,385) (%)				
1 自営業主	4.6	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業	0.4
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.2		イ 商工サービス業 (各種商店、飲食店、工事店などの経営)	4.3
3 勤め (フルタイム)	35.1	エ～ケから 1つ選んで ください。	ウ 自由業 (開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	4.7
4 勤め (パートタイム)	17.8		エ 経営・管理職 (会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	7.5
5 内職	0.3		オ 専門・技術職 (研究員、技術者、勤務医、看護師など)	20.0
			カ 事務職 (事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	23.7
			キ 教育職 (教諭、保育士など)	5.8
			ク 技能・労務職 (工場の生産工程従事者、運転士など)	11.0
			ケ 販売・サービス職 (商店、サービス業などの従業員)	21.0
(無回答 1.8)				

6 主婦・主夫 (勤めについていない)	16.1
7 学生	0.8
8 無職	12.5
9 その他	1.3

(無回答 10.4)

県政についてのご意見、ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

352 人（25.4%）から自由意見が寄せられました。

最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、10月7日（月）までにご投函ください。（切手は不要です。）

なお、インターネットからご回答いただいた方は、調査票の郵送は不要です。